取扱説明書

緊急地震速報 受信装置

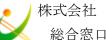
型番: SD-EX2000J 2022 年型

SD-EX2000J 2017年型





緊急地震速報のリーディングカンパニー



株式会社 J コーポレーション

総合窓口 TEL 0742-53-7833

〒631-0011 奈良県奈良市押熊町 557-7-4F https://www.jcorp.co.jp fax 0742-53-7795



- 安全に正しくお使いいただくために、使用を開始する前に必ず本書を熟読してください。
- PATLITE およびパトライトは株式会社パトライトの登録商標です。
- ◆ その他、本書に記載の会社名および製品名は、各社の登録商標および商標です。
- 緊急地震速報配信業者:ストラテジー株式会社(地震動の予報業務の許可事業者 許可第198号)

取扱説明書

- □ 本書の内容に関しましては万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点や誤り、 記載漏れなどがありましたら、お買い上げの販売店もしくは弊社までご連絡ください。 また、本製品の使用に起因する損害や逸失利益の請求などにつきましては、上記に関わ らず弊社はいかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。
- □ 高い信頼性が要求される用途に使用するときは、ご使用になるシステムの安全設計や故障に対する適切な処置を万全におこなってください。
- 本製品は日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外で使用した場合の運用結果につきましては、当社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
 - また、弊社は本製品に関して海外での保守および技術サポートはおこなっておりません。
- □ 本書に記載された内容と実機の内容が異なる場合については、実機を優先します。
- □ 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更 することがあります。

安全上のご注意 (必ずお守りください)

この取扱説明書では本機を安全に正しくお使いいただくために、誤った取扱をした場合に生じる危険とその程度を次の通り区分しています。



警告

この表示を無視して誤った取扱をすると、死亡や重傷を負う可能性 が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取扱をすると、障害を負う可能性が想定 される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示して います。

また、適切な対応がとれるよう絵表示による説明もしています。絵表示の意味は次の通りです。 内容を理解してから読み進めてください。



この絵表示は禁止行為を知らせるものです。絶対に行わないでください。



この絵表示は行為を強制や指示をする内容を知らせるものです。指示に従って 対応してください。

▲ 警告



□ 故障したまま使用しない。

- 本機から煙が出ている、変なにおいや異音がするなど異常状態のまま使用すると 火災や感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、本機を 完全に停止してください。
- 停止後、購入した販売店へ修理を依頼してください。



□ 分解や改造を行わない。

• 本機のカバーは絶対に外さないでください。感電や異物混入による故障の原因と なります。



□ AC100V以外の電圧で使用しない。

- 本機は日本国内のみで使用できます。
- AC100V 以外の電源電圧で使用すると、故障の原因となるほか、火災や感電の危険性があり大変危険です。



□ 放熱を妨げない。

• 本機を専用のラックではなく、放熱処理が施されていない熱のこもる場所へ設置すると、内部へ熱がこもり火災の原因となる場合があります。



□ 水のかかる場所へ設置しない。

◆ 本機の上に、液体の入ったペットボトル、花瓶、コップなどの容器および小さな金属物などを置かないでください。中身がこぼれて本機の中に入った場合、火災や感電の原因となります。



□ 中に物を入れない。

• 本機内部へ金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。火災や感電の原因となります。



□ 中に水や異物が入ったら。

• 万一、本機の内部に水や異物が入ってしまった場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、本機を停止してから、購入した販売店へご連絡ください。



□ 電源コードを傷つけたり、加工しない。

電源コードが傷んでいたら (芯線の露出、断線など)、購入した販売店へ交換を依頼してください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



- 電源コードの上に重い物を載せたり、本機の下敷きにならないようにしてください。コードに傷が付き、火災や感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うと、コードに気づかずにものを載せてしまい、コードの破損を引き起こすことがありますので、ご注意ください。
- 電源コードを無理に曲げたり、引っ張ったり、加熱や加工などをしないでください。コードが破損し、火災や感電の原因となります。



□ 落としたり、破損した状態で使用しない。

● 万一、誤って本機を落とした場合等、本機の筐体が変形および破損した場合は、そのまま使用しないでください。火災や感電の原因となりますので、電源プラグをコンセントから抜いて、購入した販売店へ点検修理等を必ずご相談ください。





□ 次のような場所に設置しない。

- 強度の足りない台や、ぐらついたり傾いたりする、不安定な場所に設置しないでください。落下や転倒により、けがの原因となることがあります。
- 加湿器の近くなど湯気や油煙が当たるような場所に設置しないでください。火災 や感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に設置しないでください。火災や感電の原因となること があります。



□ 他機器との接続上の注意

- ◆ 本機を他の機器と接続して使用する場合は、接続する機器の取扱説明書をよくお 読みになり、内容を理解してから、電源が供給されていない状態で接続してください。
- 本機を他の機器と接続して使用する場合は、接続する機器が発生させるノイズ等が本機に干渉しないよう対策して下さい。
- 接続に使用するケーブル類は、必ず指定されたものを使用してください。指定以外のケーブルを使うと発熱し、やけどの原因となることがあります。



□ 使用上の注意

- 本機の上に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。
- ◆ その他、本機を本来の用途以外で使用しないでください。



□ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶け、火災や感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグをコンセントから引き抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードに傷が付き、火災や感電の原因となることがあります。必ずプラグ部分を持って引き抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となること があります。
- 本機を移動する場合は、本機(および本機に他機器を接続している場合は、接続されている機器)を停止してから、必ず電源プラグをコンセントから引き抜き、機器間の接続コードなどをすべて取り外した状態で行ってください。コードが取り付けられたままだと、コードに傷が付き、火災や感電の原因となることがあります。



□ 点検について

- 使用環境にもよりますが、1年に1回以上は、機器内部の掃除および点検を販売店へご相談ください。長期間にわたり本機の内部にほこりがたまったまま使用すると、火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨時期の前に行うと効果的です。
- 電源プラグにほこりがたまると、自然発火 (トラッキング現象) を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨時期前が効果的です。
- シンナー、アルコールやその他の化学薬品を本機にかけないでください。塗装がは げたり、本機が変形したりすることがあります。
- 表面をお手入れするときは、中性洗剤を薄めた液に布を浸し、固く絞ってから本機を拭きとった後、乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどを使う場合は、使用する化学ぞうきんの説明書や注意書きをお読みください。

取扱説明書(本書)の読み進めかた

本書では、「高度利用者向け緊急地震速報専用通報装置」(本装置)を安全にお使い頂くために 必要な事項(緊急地震速報の特性、本装置の設定方法、動作確認や問い合わせ先等)を記載して いますので、一通り最後まで本書にお目通し下さい。

本書を理解する助けとなるように、本書に出てくる緊急地震速報やネットワークに関する用語について、「7-4 用語」に説明を記載しています。

ネットワーク、Proxy サーバーや SNMP などに関する詳細な説明については、ネットワークの専門書やインターネット検索サイト等を利用して確認をお願いします。

なお、本装置を直ぐにお使いになりたい場合は、先に以下の最短ステップを参考にして、本書をお読み下さい。

[最短ステップ]



□ 本製品のセット内容を確認します。

● 「1 はじめに」から読み、不足品の有無の確認や、緊急地震速報の概要を確認します。

ステップ 2

□ 本装置の接続方法と設置方法を確認します。

- 「3 本装置との接続」を読み、接続方法を確認します。
- 「4 設置」を読み、設置方法を確認します。

ステップ 3

□ ネットワークへの接続方法を確認します。

- 「7-3 ネットワーク確認シート」の内容を確認します。
- 設定が必要なら、「6-4 ネットワーク設定」に記載されている 方法でネット ワークへの接続方法を設定します。

ステップ 4

□ 緊急地震速報に関する本装置の設定項目を確認します。

- 「7-2 工場出荷時の設定値」の内容を確認します。
- 設定が必要なら、「5 本装置の動作説明」を読み、「6 Web 画面からの設定」 に記載されている方法で本装置の動作を設定します。

ステップ 5

本装置をネットワークに接続し動作を確認します。

- 本装置をネットワークやリレー制御対象機器と接続し、試験通報(警報、予報) を行います。
- ネットワークの接続状況を本装置正面右側のステータスランプで確認します (点灯で接続完了)。

目次

| 1 | はじめに | 10 |
|---|---|----|
| | 1-1 お使いになる前に | 10 |
| | 1-2 セット内容の確認 | 10 |
| | 1-3 緊急地震速報、津波警報・注意報と津波予報の概要と地震・津波に対する備え | 11 |
| | 1-3-1 緊急地震速報とは | 11 |
| | 1-3-2 津波警報・注意報と津波予報とは | 12 |
| | 1-3-3 緊急地震速報の限界 | 13 |
| | 1-3-4 津波警報・注意報と津波予報の限界 | 13 |
| | 1-3-5 ネットワーク等に関する免責事項 | 14 |
| | 1-3-6 地震や津波などの自然災害に対する日々の備え | 14 |
| 2 | 各部の名称 | 15 |
| | 2-1 前面 | 15 |
| | 2-2 背面 | 16 |
| | 2-3 操作 | 17 |
| | 2-3-1 起動 | 17 |
| | 2-3-2 停止・再起動 | 18 |
| | 2-3-3 試験通報(警報) | 19 |
| 3 | 本装置との接続 | |
| | 3-1 LAN ポートに接続 (ネットワークに接続) | 20 |
| | · 3-2 LINE OUT コネクターに接続 | |
| | 3-3 LINE IN コネクターに接続 | 24 |
| | 3-4 リレー出力端子に接続 | 25 |
| | 3-5 19 インチラックに設置 | 27 |
| 4 | 設置 | 29 |
| | 4-1 設置時の注意 | 29 |
| | 4-2 本機の寸法 | 30 |
| 5 | 本装置の動作説明 | 31 |
| | 5-1 設定項目 | 31 |
| | 5-2 電文と通報処理 | 33 |
| | 5-2-1 緊急地震速報の電文と通報 | 33 |
| | 5-2-2 津波警報・注意報と津波予報の電文と通報 | |
| | 5-3 本装置の通報方法 | 37 |
| | 5-3-1 緊急地震速報精度の設定 | |
| | 5-3-2 通報禁止時間帯の設定 | |
| | 5-3-3 通報閾値 | 38 |
| | 5-3-3-1 地震の通報閾値(通報震度) | |
| | 5-3-3-2 津波の通報閾値 | |
| | 5-4 音声通報 | |
| | 5-4-1 緊急地震速報に対する音声通報 | |
| | 5-4-2 津波警報・注意報と津波予報に対する音声通報 | |
| | 5-4-3 音声通報のタイプとアナウンスの流れ | |
| | | |

取扱説明書

| | 5-4-3-1 地震に対する音声通報のタイプ (TYPE) | . 42 |
|---|---|------|
| | 5-4-3-2 予報時の音声アナウンスの流れ(地震) | |
| | 5-4-3-3 警報時の音声アナウンスの流れ(地震) | |
| | 5-4-3-4 津波警報・注意報および津波予報の音声アナウンスの流れ | . 52 |
| | 5-4-4 キャンセル報 | . 55 |
| | 5-4-5 音声ファイル入れ替え | . 55 |
| | 5-5 リレー通報 | |
| | 5-5-1 緊急地震速報によるリレー通報 | |
| | 5-5-2 津波警報・注意報と津波予報によるリレー通報 | |
| | 5-6 設定前の確認事項 | |
| | 5-7 運用 | . 59 |
| | 5-7-1 自動切断監視 | . 59 |
| | 5-7-2 自動巡回監視 | . 60 |
| 6 | Web 画面からの設定 | . 61 |
| | 6-1 共通事項 | . 62 |
| | (1) Web 画面へのログイン | . 62 |
| | (2) Web 画面構成 | . 63 |
| | (3) メニュー構成 | . 64 |
| | 6-2 防災設定 | . 65 |
| | (1) [装置情報] 画面 | . 65 |
| | (2) [基本項目設定] 画面 | . 67 |
| | (3) [地震予報音声アップロード] 画面 | |
| | 【音声ファイルのアップロード方法】 | |
| | (4) [地震予報音声アップロード] 画面 TYPE1 | |
| | (5) [地震予報音声アップロード] 画面 TYPE2 | . 76 |
| | (6) [地震予報音声アップロード] 画面 TYPE3 | |
| | (7) [地震予報音声アップロード] 画面 TYPE4 | . 78 |
| | (8) [地震警報音声アップロード] 画面 | . 79 |
| | (9) [地震警報音声アップロード] 画面 TYPE1 | |
| | (10) [地震警報音声アップロード] 画面 TYPE2 | . 82 |
| | (11) [地震警報音声アップロード] 画面 TYPE3 | . 83 |
| | (12) [地震警報音声アップロード] 画面 TYPE4 | . 84 |
| | (13) [津波音声アップロード] 画面 | . 85 |
| | (14) [定時チャイム] 画面 | . 87 |
| | (15) [通報禁止時間帯設定] 画面 | . 89 |
| | (16) [通報閾値&放送設備 I/F 設定] 画面 | . 90 |
| | 【接続参考例:小型LED表示灯をリレー出力端子に接続する場合】 | . 93 |
| | (17) [緊急地震速報精度] 画面 | . 95 |
| | (18) [警報設備 I/F 設定] 画面 | . 97 |
| | 【接続参考例:ネットワーク監視表示灯を、SNMP 接続を利用して制御する場合】 | . 98 |
| | (19) [訓練・テスト・気象庁訓練報設定] 画面 | 102 |
| | (20) [津波音声通報の停止・再開] 画面 | 104 |
| | 6-3 防災情報履歴 | 105 |
| | (1) 「防災情報ログ」 画面 | 105 |

| | | 取扱説明書 |
|---|-------------------------------|-------|
| | (2) [地震情報履歴] 画面 | 106 |
| | (3) [地震震源地分布] 画面 | |
| | 、 | |
| | (5) [津波情報履歴] 画面 | |
| | (6) [月次報告書] 画面 | |
| | 6-4 ネットワーク設定 | |
| | (1) [インターフェース設定] 画面 | |
| | (2) [プロキシー設定] 画面 | |
| | 6-5 保守・運用 | |
| | (1)[管理者設定]画面 | |
| | (1)[日空日以た] 国面(2)[システム情報ログ] 画面 | |
| | (2) [Ping 疎通テスト] 画面 | |
| | (4) [装置の停止・再起動] 画面 | |
| | (5) [設定値の一覧表示] 画面 | |
| | | |
| | (6) [設定値の保存・復元] 画面 | |
| | (7) [工場出荷時設定] 画面 | |
| _ | (8) ログアウト | |
| / | 付録 | |
| | 7-1 音声メッセージー覧表 | |
| | 7-2 工場出荷時の設定値 | |
| | 7-3 ネットワーク確認シート | |
| | 7-4 用語 | 131 |
| | 7-5 月次報告書の見方 | 133 |

1 はじめに

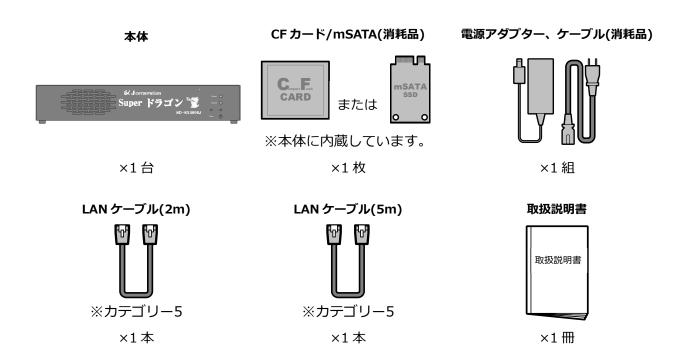
1-1 お使いになる前に

この取扱説明書では「高度利用者向け緊急地震速報」専用通報装置(本装置)を安全にお使い 頂くために必要な事項を説明しています。本書を必ず最後までお読み下さい。

- □ 本書の内容の一部または全部を無断で転載することはおやめください。
- □ 本書の内容は予告なしに変更することがありますので、ご了承ください。
- □ 本装置は、日本国内において使用することを目的に製造されています。
- □ 本書に記載されていない方法で機械を操作しないでください。思わぬ故障や事故の原因となることがあります。万一故障などが発生した場合は、責任を負いかねることがありますので、ご了承ください。
- □ 本書の作成には万全を期しておりますが、万一ご不明な点、誤り、記載漏れなどお気づき の点がありましたら、お買い上げ頂いた販売店までご連絡ください。

1-2 セット内容の確認

本製品のセット内容には以下のものが含まれます。不足品がある場合や本書に乱丁・落丁がある場合は購入した販売店へご連絡下さい。なお、実際の製品はイラストとは形状が異なる場合があります。



1-3 緊急地震速報、津波警報・注意報と津波予報の概要と地震・津波に対する備え

本装置は気象庁が提供する防災情報サービスの中から「緊急地震速報(予報)」「津波警報・注 意報」と「津波予報」を利用しています。

気象庁が発信した防災情報は、弊社の配信サーバーで受信された後、インターネット回線を通じて瞬時に本装置へ再配信されます。本装置は受信した情報を元に適切な通知処理を行います。

本装置のご利用に際しては、ストラテジー株式会社(地震動の予報許可事業者第198号)の配信サービスを経由して、気象庁の緊急地震速報提供サービスを利用していることをご理解ください。

1-3-1 緊急地震速報とは

緊急地震速報とは、気象庁が 2007 年 10 月に開始した、地震被害を軽減するための情報提供サービスです。

提供される緊急地震速報は利用する用途向けに「緊急地震速報(予報)」と「緊急地震速報(警報)」に区分けされています。緊急地震速報(警報)は、日本のどこかで震度5弱以上の揺れが発生すると予測した場合に、震度4以上の揺れが発生すると予測された地域に対して発表されます。これに対し緊急地震速報(予報)は規模の小さい地震でも発表され、また、緊急地震速報(警報)発表時には、緊急地震速報(警報)の内容を含んで発表されます。

地震はP波と呼ばれる揺れとS波と呼ばれる揺れから構成されます。地震が発生すると、最初にP波が震源地から放射状に広がっていき、その後P波に遅れてS波が広がっていきます。



緊急地震速報によって、このS波の規模 (震度階級) とS波が到達するまでの時間 (猶予時間) を計算によって求めることができます。この地震波の特性等を利用した計算手法を IPF 法 (Integrated Particle Filter 法の略)と言い、従来法と表現されることもあります。

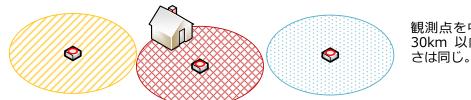
<参考:P波とS波について>

P波 地震の前震、初期微動。ほとんど揺れを感じません。

S波 地震の本震、主要動。揺れを感じます。建物の損壊などはS波によって引き起こされます。

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の結果を踏まえ、より正確な震度予測を可能とする PLUM 法(Propagation of Local Undamped Motion 法の略)が開発され、2018 年 3 月 22 日から運用開始されました。

PLUM 法では地表面の揺れは近傍であれば減衰しないとの考え方から、観測点を中心とした半径 30Km 以内に生じる揺れの大きさはほぼ同じであるとして震度を求める手法です。近傍での揺れの大きさを元に予測するため、精度良く震度を求めることができますが、その反面、揺れが到達するまでの時間的な余裕がなく、猶予時間を得ることができません。



観測点を中心に概ね半径 30km 以内の揺れの大き さは同じ。

本装置はこれらの手法を用いて計算を瞬時に行い音声などでお知らせいたします。

本装置は緊急地震速報(予報)を使用しています。本書では特に断りの無い限り緊急地震速報 (予報)のことを「高度利用者向け緊急地震速報」と記載しています。その他の緊急地震速報の 詳細については気象庁のホームページ(http://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/)も参 照してください。

<参考:「高度利用者向け緊急地震速報」と「一般向け緊急地震速報」の違い>

高度利用者向け 迅速な情報発信を優先し、対応をとれる時間を確保します。

一般利用向け 確実性の高い地震情報を配信するため情報発信までに時間が掛かかります。このため、

対応を取れる時間を確保できないか、非常に短くなります。

1-3-2 津波警報・注意報と津波予報とは

津波警報・注意報と津波予報とは、気象庁が発表する"地震の発生により引き起こされた"津波に関する防災情報です。

東北地方太平洋沖地震の後、従来の発表内容が見直され2013年3月7日の正午から、改正された内容で津波に関する情報が、日本の沿岸を約70ヶ所弱に区切った予報区毎に発表されます。

津波警報・注意報は、改正により従来は8段階に区分けされていたものを5段階に減らし、下表のように改め定められました。マグニチュード8を超える巨大地震が発生した場合は、正確な地震の規模をすぐに求めることができないため、数値表現による津波の高さをお知らせすることができません。このため、最初に発表する大津波警報、津波警報では緊急事態の発生を理解しやすい「巨大」「高い」という言葉を使い、迅速に避難行動をとれるように促します。

[津波警報・津波注意報の区分け表]

| | 区分 | 発表内容(数値表現) | 巨大地震時 の発表内容 | 発表基準 |
|---|-------|------------------------------|----------------|---|
| 1 | | 10m 超 (10m <予想高さ) | | 予想される津波の高さが3mを超えるとき。 |
| 2 | 大津波警報 | 10m 10m (5m <予想高さ≦10m) | 巨大 | <i>3</i> CC: |
| 3 | | 5m (3m<予想高さ≦5m) | | |
| 4 | 津波警報 | 3m (1m<予想高さ≦3m) | 高い | 予想される津波の高さが1mを超え 3m以下のとき。 |
| 5 | 津波注意報 | 1m (0.2m≦予想高さ≦1m) | _ | 予想される津波の高さが0.2m以上から1m以下の範囲内であり、津波による災害の恐れがあるとき。 |

※大津波警報は、2013年8月30日から「特別警報」に位置づけられて運用されています。

津波予報は、気象庁が地震発生後に津波による災害発生の恐れがない・なくなった場合など特 段の防災対応を必要としないと判断したときに発表されます。ただし、海面変動が継続する場合 もあるため海辺での行動には十分な留意が必要なこともあります。

その他の津波警報・注意報、津波予報に関する詳細な情報は気象庁のホームページ (http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/joho/tsunamiinfo.html)も参照してください。

1-3-3 緊急地震速報の限界

緊急地震速報は、P 波と S 波が到達するまでの時間差を利用し、観測した P 波の情報を、インターネット回線を通じて迅速に発信することで成り立っています。

震源地が本装置の設置場所に近い場合などには、技術的な限界により、本装置からの警報 (予報) 通知が間に合わない場合があります。

本装置のご利用に際しては、以下のことをあらかじめご了承ください。

- □ 本装置が警報 (予報) を通知してから地震の揺れ (S 波) が到達するまでの時間 (猶予時間) は、長くとも十数秒から数十秒間です。
- □ 地震の震源地または震源地に近い地域では、P 波と S 波の到達時間差がほとんどないため、S 波の到達前に本装置からの緊急地震速報の提供が間に合わないことがあります。
- □ 地震観測点に地震以外の何らかの強い震動が与えられた場合 (事故や落雷等)、地震観測点は地震として認識し、誤報を通知することがあります。
- □ 地震観測点で使用している機器に何らかの理由で障害が発生した場合、本装置は誤報を 通知することがあります。
- □ 本装置が警報 (予報) として通知する猶予時間には、1 秒~数秒程度の誤差が生じることがあります。
- □ 本装置が警報 (予報) として通知する震度階級には、震度 1 程度の誤差が生じることがあります。

1-3-4 津波警報・注意報と津波予報の限界

津波警報・注意報は地震が発生してから約3分以内を目標に予報区毎に発表されます。

しかしながら、陸地に近いところで地震が発生した場合は津波警報・注意報と津波予報の発表が津波の襲来に間に合わないことがあります。

また、マグニチュード8を超える巨大地震の場合は、正確な地震の規模を特定するのに時間が 掛かるため予想される津波の高さを具体的に知らせることができません。

強い揺れや弱い揺れであっても長時間揺れた場合などは、直ぐに高台などへ避難する必要があります。

1-3-5 ネットワーク等に関する免責事項

本装置で気象庁の緊急地震速報を受信するには、本装置をインターネット回線に接続する必要があります。インターネット回線や通信機器に障害が発生した場合、本装置は、気象庁の緊急地震速報を受信できなくなるため、警報(予報)を通知することができません。

本装置のご利用に際しては、以下のことをあらかじめご了承ください。

- □ 気象庁から緊急地震速報が発信されても、ネットワークの障害により、本装置が緊急地 震速報を受信できない場合、本装置は警報(予報)を通知できません。
- □ ネットワークの障害や、ネットワークをインターネットに接続するための通信機器 (ルーター等) の故障により、本装置が緊急地震速報を受信できない場合、本装置は警報 (予報) を通知できません。
- 本装置が故障している間に発信された緊急地震速報を、本装置は受信できません。この 場合、本装置は警報 (予報) を通知できません。
- □ 停電等により本装置に電力が供給されない場合、本装置は緊急地震速報を受信することができません。
- □ 本装置の設定内容によっては、地震の揺れが到達しても警報 (予報) が通知されないことがあります。

1-3-6 地震や津波などの自然災害に対する日々の備え

地震や津波はいつ発生するかわかりません。日頃から、自然災害への対策を準備しておき、いざというときにすぐ対処できるようにしておくことが重要です。

総務省消防庁のホームページから閲覧できる「消防庁 防災マニュアル -震災対策啓発資料-」 (http://www.fdma.go.jp/bousai_manual/index.html)などを参考に、地震発生時の対応を決めておくことをおすすめします。

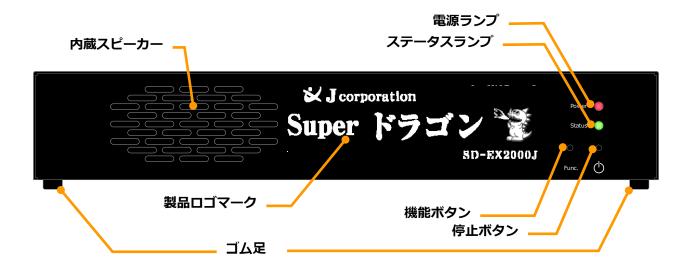
- □ 免震・耐震・制震構造の建物であっても、屋内に設置されている家具や備品は固定してください。地震の揺れにより移動した家具に挟まれてけがをするなどの危険防止につながります。
- □ 倒壊した家具や落下物はけがを引き起こすだけでなく、避難時の障害になります。市販の家具固定器具等を利用して、家具などの転倒を防止してください。また、棚などに物を載せている場合は、落下防止処置を施してください。
- □ 避難経路を確保してください。避難経路には、倒れやすい物など、避難時に障害となるような物を置かないでください。また、避難時には窓ガラスの破片などが床に散乱しているため、非常に危険です。靴やスリッパなどを常備しておいてください。
- □ 懐中電灯やハンマーなどは、非常時に避難経路を確保するために必要となります。すぐに持ち出せるように準備しておいてください。また、非常食や衣料品も準備しておいてください。
- □ 津波の被害が考えられる地域では避難場所となる高台や高い建物までの経路を確認しておいて下さい。また、避難時には混雑の原因となるため車での移動は控え、少しでも早く避難行動を開始して下さい。

2 各部の名称

本装置の各部の名称を説明します。なお、本書に記載している装置の説明に使用する名称および図は、特に断りの無い限り SD-EX2000J 2022 年型を使用しています。

本装置背面の「LAN ポート」は 2017 年型では「LAN ポート 1 」、「設定用 LAN ポート」は 2017 年型では「LAN ポート 2 」に該当します。

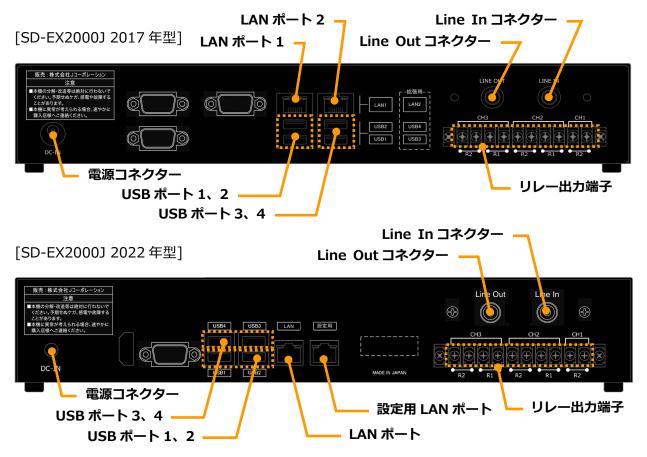
2-1 前面



[名称説明]

| No. | 名称 | 説明 |
|-----|----------------------|---|
| 1 | 内部スピーカー | 音声通報を出力する内蔵スピーカーです。設置時はスピーカーの前に 物等を置いて、音を塞がないようにご注意下さい。 |
| 2 | 製品ロゴマーク | 本装置のロゴマークです。 |
| 3 | 電源ランプ | 本装置の電源ランプです。本装置に電源が供給されている間、常時点灯します。 |
| 4 | ステータスランプ (Status) | 緊急地震速報の受信待機中など通常時は点灯します。通知中やネット ワークから切断された時は点滅してお知らせします。 |
| 5 | 機能ボタン (Func.) | 緊急地震速報の訓練報(警報)を通知する際に使用します。先の細い棒を 使用してボタンを押して下さい。 |
| 6 | 停止ボタン (切断のみ) | 設置場所を変更する時など本装置を停止したい時に使用します。先の 細い棒を使用してボタンを押して下さい。 |
| 7 | ゴム足 | 19 インチラックに設置する場合は本装置のゴム足を取り外し、専用のラックマウント金具に本装置を固定してラックに設置します。 |

2-2 背面



[名称説明]

| No. 名称 | | 説明 |
|--|------------------------|--|
| 1 電源コネクター 本業 | | 本装置に付属されている電源アダプターを接続します。 |
| 2 | LAN ポート | 本装置に付属されている LAN ケーブル(2m)を接続します。 |
| 3 | 設定用 LAN ポート (設定変更用) | 本装置に付属されている LAN ケーブル(5m)を接続します。 本装置の設定内容を変更する時に使用します。 ※19 インチラック取付金具をご利用のお客様はラック正面の LAN ポートに LAN ケーブル(5m)を接続します。詳しくは、「3-5 19 インチラックに設置」を参照して下さい。 |
| 4 LINE OUT コネクター 本装置の音声通報を外部のスピーカー(放送設備の (RCA 端子メス型) へ出力するためのコネクターです。 | | 本装置の音声通報を外部のスピーカー(放送設備のスピーカー)など へ出力するためのコネクターです。 |
| 外部の ネクター (RCA 端子メス型) | | 外部の音声を本装置にいったん取り込んで、本装置の LINE OUT コネクターから出力するためのコネクターです。本装置が音声通報を行うときは、LINE IN コネクターからの音声は遮断され、音声通報が優先されます。音声通報後は、LINE IN コネクターからの音声が LINE OUT コネクターに出力されます。 |
| 6 リレー出力端子 本装置のリレー出力に対応した機器を接続します | | 本装置のリレー出力に対応した機器を接続します。 |
| 7 | USBポート1、2 | USB コネクターです。通常は使用しません。 |
| 8 | USB ポート 3、4 (拡張用) | USB コネクターです。通常は使用しません。 |

2-3 操作

2-3-1 起動

本装置を起動します。本装置と接続する外部機器がある場合は、本装置を起動する前に本装置との物理的な接続を予め完了しておいて下さい。また、本装置の起動前に外部機器を起動しておいて下さい。

[操作手順]

- 1.電源アダプターを本装置背面に接続する。
- 2.電源プラグをコンセントに差し込む。
- 3.本装置前面右側にある赤色の電源ランプが点灯したことを確認する。



- 起動が完了するには数分かかります。
- 電源ランプ点灯後、緑色のステータスランプが点滅を開始します。
- ネットワーク環境によっては、起動が完了するまでの時間が長くなることがあります。
- 4.本装置前面右側にある緑色のステータスランプが点灯したことを確認する。



- ステータスランプが点滅を繰り返している場合には、本装置と配信サーバーとの接続が確立されていません。本装置単体では動作しますが、緊急地震速報を受信することができず、通知することができません。
- ステータスランプの点滅が点灯に切り替わらない場合は、「3-1 LAN ポートに接続 (ネットワークに接続)」を参照し、本装置のネットワークに接続するための設定が正しく行われているか確認して下さい。それでも解決しない場合は、本装置を購入した販売店へ速やかにご連絡下さい。

2-3-2 停止・再起動

本装置を停止します。ここでは前面の停止ボタンを使用した停止方法を説明します。Web 画面からの停止方法は「6-5 保守・運用 (4) [装置の停止・再起動] 画面」の説明を参照して下さい。

くご注意>

本装置を停止する場合は、下記の手順をお守りください。故障の原因となりますので、他の手順では本装置を停止しないでください。また、停止処理時に本装置の設定情報等が本体内部へ記録されるため、停止処理が完了する前に電源プラグをコンセントから引き抜くことは、絶対におやめください。

[操作手順]

1.本装置前面にある停止ボタンを長押しして、本装置を停止する。



- ボールペンなど、先の細いものを使用してボタンを押して下さい。
- 強い力でボタンを押すとボタンが壊れることがありますのでご注意下さい。
- 先の細いものでケガなどしないように注意して操作して下さい。
- 2.本装置前面にある赤色の電源ランプが消灯したことを確認する。



3.電源プラグをコンセントから引き抜く。

再起動

2-3-2 本装置を停止後、Power 電源ランプ赤が消灯したことを確認し、コンセントを一度抜き 挿してください。Web 画面からの再起動方法は「6-4 ネットワーク設定 (4) [装置の停止・再起動] 画面」の説明を参照して下さい。

19 インチラック取付金具をご利用のお客様は、本装置停止後、Power 電源ランプ赤が消灯したことを確認し 19 インチラックにある再起動スイッチ①→②(下)に切り替え、再度①(上)に戻してください。



本装置 Power 電源ランプ赤色が点灯となり、次にランプ緑色が点滅を開始し、点灯に変わります。

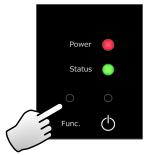
2-3-3 試験通報(警報)

本装置が受信した緊急地震速報の通知を実際の音声で確認します。本装置前面にある機能ボタンでは警報のみを確認することができます。予報を確認する場合は Web 画面より行います(「6-2 防災設定 (2) [基本項目設定] 画面」参照)。また、津波警報・注意報等の通知音声を確認する場合も同様に Web 画面より行います。

この機能は、避難訓練時などに役立てることもできます。

[操作手順]

1.本装置前面にある機能ボタンを長押しします。



- ボールペンなど、先の細いものを使用してボタンを押して下さい。
- 強い力でボタンを押すとボタンが壊れることがありますのでご注意下さい。
- 先の細いものでケガなどしないように注意して操作して下さい。

2. 警報を音声で確認する。

• 出力される音声の内容は「5-4-3-3 警報時の音声アナウンスの流れ(地震)」を参照して下さい。

3 本装置との接続

本装置のコネクターへ他機器を接続する方法、および 19 インチラックへ本装置を設置する方法について説明します。

本装置に接続した機器を動作させるために、PCのWebブラウザーで本装置にアクセスし、設定が必要となる場合があります。Webブラウザーを使用した設定については、「6Web画面からの設定」を参照してください。



ケーブル類を接続するときは、必ず接続される機器の電源スイッチを OFF に!

電源 ON の状態で接続すると、感電や故障の原因となります。

3-1 LAN ポートに接続 (ネットワークに接続)

付属の LAN ケーブル(2m)を使って、本装置をネットワークに接続します。ここでは、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) により自動的に IP アドレスを取得して、ネットワークに接続する方法と、本装置に固定 IP アドレスを設定して、ネットワークに接続する方法を説明します。なお、工場出荷時の IP アドレスの取得方法は「DHCP 経由で設定」です。

ここでの説明は、ネットワークに対する基本的な知識があることを前提に説明しています。もし分からないことがあれば、インターネットの検索サイトなどを利用して、関連する情報を収集してください。

注意事項:

付属の LAN ケーブルを使用しない場合は、アメリカ通信工業会 (TIA) とアメリカ電子工業会 (EIA) の TIA/EIA-568 規格で規格化されている、カテゴリー5 以上のケーブルを使用してください。

(1)DHCP により IP アドレスを取得してネットワークに接続する場合

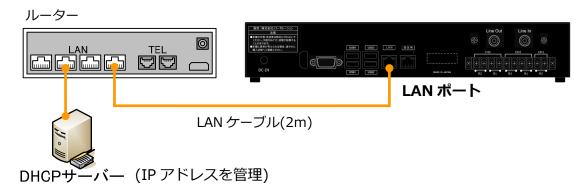
本装置の工場出荷時の設定では、DHCP を利用するように指定されています。

本装置を接続するネットワーク環境で DHCP サービスが提供されていない場合は、本装置に固定 IP アドレスを割り当てる必要があります。

作業を開始する前に本装置の電源が切れていることを確認して下さい。

[操作手順]

1) 付属の LAN ケーブル(2m)を本装置の LAN ポートに接続し、反対側をルーターに接続する。(ハブまたはスイッチに接続する場合もあります。)



2) 本装置に電源を供給します。

(2)本装置に固定 IP アドレスを設定してネットワークに接続する場合

次のケースに該当する場合は、本装置の Web 画面より、本装置に固定の IP アドレスを設定する必要があります。

- DHCP サービスが提供されていないネットワーク環境で使用する場合
- セキュリティーポリシーから、ネットワーク上の各機器に IP アドレスを割り当てて管理している場合
- 本装置の設定を行う Web 画面へのアクセスを簡略化する場合

なお、固定 IP アドレスを設定する前に、事前に必要な情報(「7-3 ネットワーク確認シート」 参照)をネットワーク管理者に確認しておいてください。

作業を開始する前に本装置の電源が切れていることを確認して下さい。

[操作手順]

以下の操作手順を参考に Web 画面へアクセスし、本装置に IP アドレスを設定してください。

【本装置の Web 画面に初めてアクセスする場合、設定した IP アドレスが分からない場合】

1) 本装置と PC を接続する LAN ケーブルを確認します。

※通常は本装置に付属している LAN ケーブル(5m)を使用しますが、PC の LAN ポートが AutoMDI/MDI-X 機能に対応していない場合は、クロスケーブル(CAT5 以上)をご用意の上、ご利用下さい。

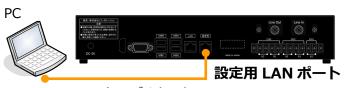
取扱説明書

2) 設定に使用する PC の IP アドレスを変更する。 以下の表を参考に IP アドレスを設定してください。

| 項目名 | 設定内容 | 備考 | | |
|----------|-----------------|--------------------------------|--|--|
| IP アドレス | 192.168.252.xxx | xxx には 0、252 および 255 以外を指定します。 | | |
| サブネットマスク | 255.255.255.0 | | | |

3) LAN ケーブル(5m)を本装置の設定用 LAN ポートに接続し、mを使用する PC に接続する。※19 インチラック取付金具をご利用のお客様はラック正面の LAN ポートにLAN ケーブル(5m)を接続します。詳しくは、「3-5 19 インチラックに設置」を参照して下さい。

19 インチラック取付金具





LAN ケーブル(5m)

LAN ケーブル(5m)

PC

- 4) 本装置に電源を供給する。
- 5) 本装置の Web 画面にアクセスする。
 - ※本装置の赤色の電源ランプが点灯し、緑色のステータスランプが点滅(または点灯)を開始したら、PCのブラウザーを使用して以下の URL を指定します。

Web 画面 URL: http://192.168.252.252/

- 6) 本装置の Web 画面からネットワークの設定を行い LAN ポート(eth0)に対して固定 IP アドレスを割り当てる。
 - ※「6-4 ネットワーク設定 (1) [インターフェース設定] 画面」参照。
- 7) 本装置に割り当てた IP アドレスを記録する。
 - ※本操作手順の最後にある「IP アドレス記録表」に記入しておくことをお勧めします。
- 8) 本装置を一度停止する。
 - ※停止方法は「2-3-2 停止・再起動」または「6-5 保守・運用 (4) [装置の停止・再起動] 画面」参照。
- 9) PC から LAN ケーブル(5m)を抜きます。
 - ※LAN ケーブル(5m)は本装置に接続したまま束ねておくと、次回 PC を接続する時に便利です。
- 10) LAN ポートに LAN ケーブル(2m)を接続し、反対側をルーターに接続する(ハブまたはスイッチに接続する場合もあります)。



11) 本装置に電源を供給し、本装置を再起動する。

【設定した IP アドレスが分かる場合】

- 1) 設定に使用する PC を、本装置と同一のネットワークに接続させる。
- 2) 本装置の Web 画面にアクセスする。

本装置の赤色の電源ランプが点灯し、緑色のステータスランプが点滅(または点灯)を開始したら、PCのブラウザーを使用して以下の URL を指定します。

Web 画面 URL: http://{xxx.xxx.xxx.xxx}/ ※{xxx.xxx.xxx}は実際の IP アドレスに置き換えてください。

- 3) 本装置の Web 画面からネットワークの設定を行い LAN ポート(eth0)に対して固定 IP アドレスを割り当てる。
 - ※「6-4 ネットワーク設定 (1) [インターフェース設定] 画面」参照。
- 4) 本装置に割り当てた IP アドレスを記録する。
 - ※本操作手順の最後にある「IPアドレス記録表」に記入しておくことをお勧めします。
- 5) 本装置を一度停止する。
 - ※停止方法は「2-3-2 停止・再起動」または「6-5 保守・運用 (4) [装置の停止・再起動] 画面」参照。
- 6) 本装置に電源を供給し、本装置を再起動する。

[IP アドレス記録表]

| 項目名 | 設定内容(記入欄) | |
|-------------|-----------|--|
| IPアドレス | | |
| ネットマスク | | |
| デフォルトゲートウェイ | | |
| DNS サーバー(1) | | |
| DNS サーバー(2) | | |

【LAN ポート、設定用 LAN ポートに、LAN ケーブルを接続します】

LAN ポート : LAN ケーブル(2m)を接続します。 設定用 LAN ポート: LAN ケーブル(5m)を接続します。

※19 インチラック取付金具をご利用のお客様は、ラック正面の LAN ポートに LAN ケーブル(5m) を接続して設定を行います。詳しくは、「3-5 19 インチラックに設置」を参照して下さい。





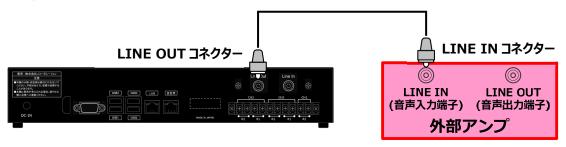
23

3-2 LINE OUT コネクターに接続

本装置の LINE OUT コネクターに放送設備などの外部機器を接続します。アンプの電源が常に入っている場合はリレー出力端子を利用する必要はありませんが、起動信号によってアンプを起動する場合はリレー出力端子の設定が必要となります(「3-4 リレー出力端子に接続」を参照)。

[操作手順]

- 1) RCA 端子(オス型)のオーディオケーブルを本装置の LINE OUT コネクターに接続する。
- 2) オーディオケーブルのもう片方を放送設備など外部アンプの LINE IN コネクターに接続する。

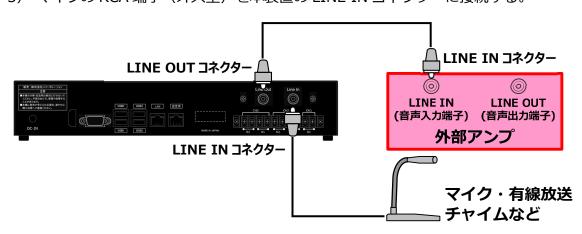


3-3 LINE IN コネクターに接続

本装置の LINE IN コネクターを利用することで、普段はマイク音声や有線の音楽などを流し、 地震が発生したときにだけ、その音声を中断して地震の通報を流すことができます。地震の通報 が終了すると、元の状態に戻ります。また放送機器などの外部アンプに音声入力の空きがない場 合など本装置の LINE IN コネクターを迂回路として使用できます。

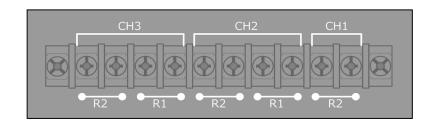
[操作手順]

- 1) RCA 端子(オス型)のオーディオケーブルを本装置の LINE OUT コネクターに接続する。
- 2) オーディオケーブルのもう片方を放送設備など外部アンプの LINE IN コネクターに接続する。
- 3) マイクの RCA 端子(オス型)を本装置の LINE IN コネクターに接続する。



3-4 リレー出力端子に接続

本装置のリレー出力端子に、リレー制御する外部機器を接続します。本装置の 3 系統のリレー 出力端子 (CH1、CH2、CH3) は、本装置背面に下図の様に配置されています。



これらのリレー出力端子は、主に次のような用途に使用します。

- 「CH1 R2」は、放送設備のアンプ電源の起動制御に使用します。
- 「CH2 R1」と「CH2 R2」は、エレベーターなどのリレー制御に使用します。
- 「CH3 R1」と「CH3 R2」は、エレベーターなどのリレー制御に使用します。

リレー制御する機器を接続する場合は、下表の内容に従ってください。

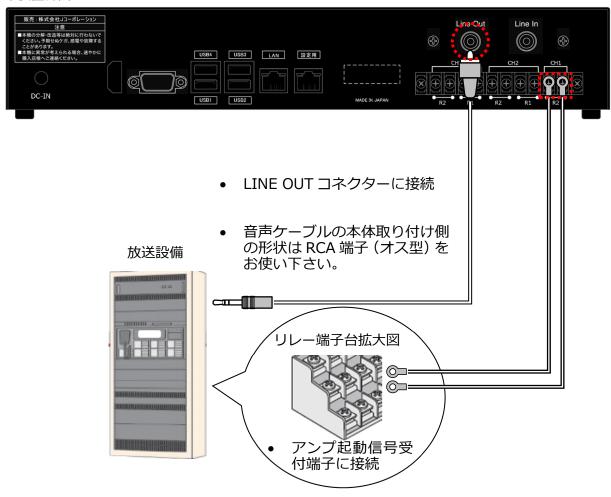
| 番号 | 名和 | 尓 | 位置 | リレー接点端子 | リレー制御動作 |
|----|-----|------|----|---------|---------|
| 1 | CUI | R2 | 右側 | NO | 継続信号 |
| 2 | CH1 | | 左側 | СОМ | 継続信号 |
| 3 | | D.1 | 右側 | NO | 立ち上がり信号 |
| 4 | R1 | KI | 左側 | СОМ | 立ち上がり信号 |
| 5 | CH2 | D.O. | 右側 | NO | 継続信号 |
| 6 | | R2 | 左側 | СОМ | 継続信号 |
| 7 | CH3 | D.1 | 右側 | NO | 立ち上がり信号 |
| 8 | | R1 | 左側 | СОМ | 立ち上がり信号 |
| 9 | | | 右側 | NO | 継続信号 |
| 10 | | R2 | 左側 | СОМ | 継続信号 |

リレー接点端子には、NO と COM があります。NO はノーマル・オープン (常時開路接点端子)を、COM はコモン (共通接点端子)を意味します。

取扱説明書

ここでは、放送設備に音声を流し、放送設備のアンプを起動制御する場合の、接続例を説明します。

本装置背面





リレー出力端子とリレー制御機器との接続は、本装置の接点出力仕様の範囲内で利用すること。

接点出力仕様の範囲外で利用すると、故障の原因となります。

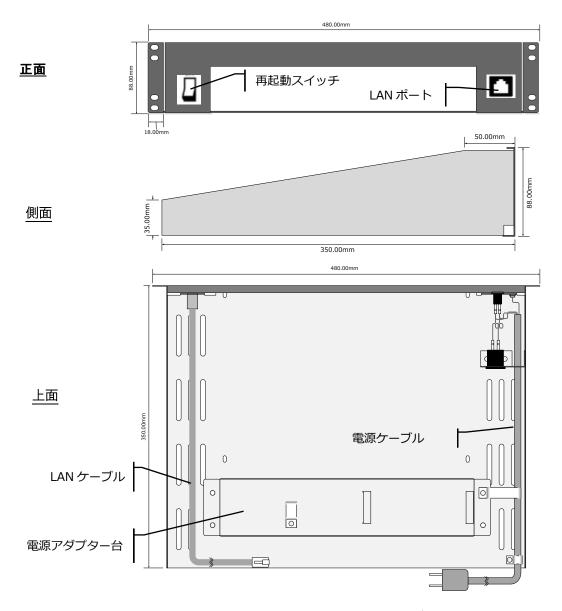
3-5 19 インチラックに設置

本装置の底面に 19 インチラック取付金具(別売)を取り付けることで、本装置を 19 インチラックに設置することができます(ラック取り付け時には 2U のスペースを使用します)。

19 インチラック取付金具は、「金具と固定用皿ネジ(M4、4 本)」を 1 セットとして構成されます。

本装置への取り付け方法は [取り付けイメージ図] を参考にして下さい。その際、本装置底面のゴム足は取り外し、大切に保管して下さい。

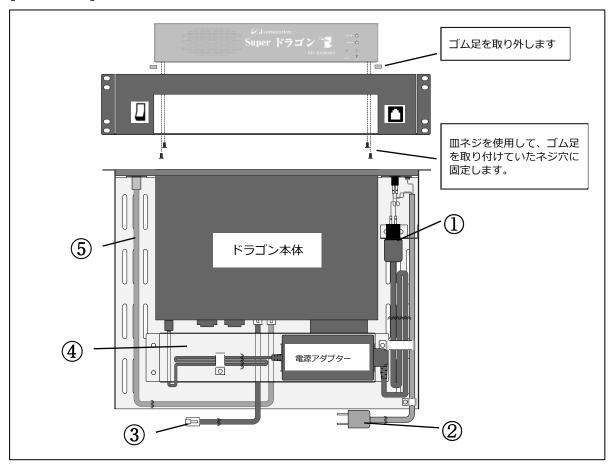
[名称と寸法]



※記載寸法と実寸が異なる場合は実寸を優先します。

取扱説明書

[取り付け図]



- ① ここから本装置への電源供給を行います。
- ② コンセントや UPS などに接続します。
- ③ ルーターに接続します(ハブやスイッチに接続する場合もあります)。
- ④ 本装置の電源アダプターやケーブルを設置します。電源アダプター台は取り外して使用することもできます。
- ⑤ 本装置の設定用 LAN ポートに接続します。

[完成図]



※LAN ポートは、設定内容を変更する時に使用します。

LAN ケーブル(5m)を使用して PC と接続します。

※再起動用スイッチを使用の際は、必ず本装置の電源を停止してから行って下さい。

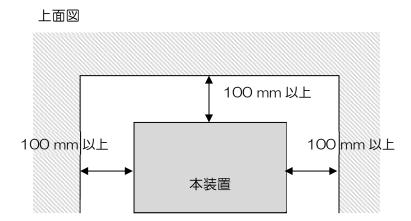
「2-3-2 停止・再起動」参照

※LAN ポート裏面に付属している LAN ケーブル(赤色)は、本装置の設定用 LAN ポートと接続します。

4 設置

4-1 設置時の注意

本装置の設置には、背面および左右にスペースを設けて放熱やメンテナンスのための配慮が必要になります。



ラックマウント用金具 (別売り) を使って設置する場合は、本装置の周りに十分なスペースがあるので、上図に示すスペースが確保できなくても問題なく設置できます。また、本装置は立てたり、上下逆さまにしたりせずに設置してください。

注意事項: 本製品を次のような場所には設置しないでください。

- 強度の足りない台や、ぐらついたり傾いたりする、不安定な場所に設置しないでください。落下や転倒により、けがの原因となることがあります。
- 加湿器の近くなど湯気や油煙が当たるような場所に設置しないでください。火災や感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に設置しないでください。火災や感電の原因となることがあります。

4-2 本機の寸法

※寸法の単位はミリメートルです。

[正面図]



[上面図]



正面側

5 本装置の動作説明

5-1 設定項目

本装置は、下表に示す項目を設定および確認することができます。ここでは、緊急地震速報を本装置が受信したときの動作、動作を規定する設定項目、音声とリレーの制御、および通報禁止時間帯を説明します (下表の No.1~8 および 11) 。

[設定項目一覧表]

| No. | 設定項目 | 主な設定内容 |
|-----|---|----------------------------------|
| | | 地震通報閾値の設定 |
| | | 津波通報閾値の設定(※) |
| 1 | CH1 (音声制御と接点出力) | T11 (アンプを ON 制御する時間) の設定 |
| | | T12 (アンプを OFF 制御する時間) の設定 |
| | | N (地震到達後の音声アナウンスを N 回繰り返す) の設定 |
| | | 地震通報閾値の設定 |
| 2 | CH2 | 津波通報閾値の設定(※) |
| 2 | (接点出力) | T20 (R1 パルス幅の時間) の設定 |
| | | T21 (R2 状態保持の時間) の設定 |
| | | 地震通報閾値の設定 |
| , | CH3 (接点出力) | 津波通報閾値の設定(※) |
| 3 | | T30 (R1 パルス幅の時間) の設定 |
| | | T31 (R2 状態保持の時間) の設定 |
| 4 | 音声 TYPE | 予報と警報の音声アナウンスのタイプ設定 |
| 5 | 津波通報設定 | 間欠通報間隔(※) |
| 6 | /丰/汉进牧政定 | 連続通報時間(※) |
| 7 | 音声ファイル | 音声メッセージの設定 |
| 8 | 緊急地震速報精度 | 震央の確からしさの設定 |
| 0 | · 杂志··································· | 震源深さの確からしさの設定 |
| 9 | eth0、eth1 | IP アドレス取得方法の設定 |
| 9 | インターフェース | IP アドレスの設定 |
| 10 | 定時チャイム | チャイムを鳴らす時間の設定 |
| 11 | 通報禁止時間帯 | 通報を禁止する時間帯の設定 |
| 12 | Proxy サーバー | Proxy サーバーの IP アドレスやポート番号の設定 |
| 13 | 警報設備設定 I/F | SNMP 対応機器の IP アドレスやオブジェクト ID の設定 |

取扱説明書

| 14 | 内蔵スピーカー | 内蔵スピーカーの音量の設定 |
|----|---------|------------------------------|
| 15 | 外部スピーカー | LINE OUT コネクターから外部に出力する音量の設定 |

(※) 津波情報配信サービスのご契約をしていただいたお客様のみ有効な設定項目です。

5-2 電文と通報処理

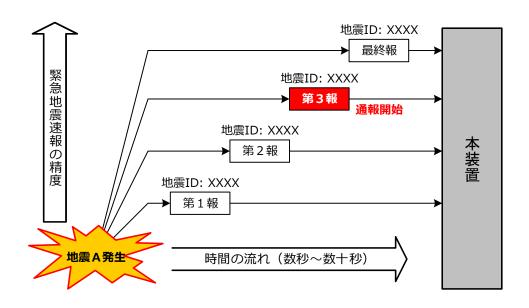
5-2-1 緊急地震速報の電文と通報

地震が発生すると、気象庁の緊急地震速報の電文は配信サーバーを経由して本装置に送信されます。地震が多発した場合や、通報途中にさらに震度の高い地震が到達した場合などに本装置が どのように動作するのかを理解するためにも、緊急地震速報の電文のしくみを知っておくことが 必要です。

また、電文と本装置の動作を理解したうえで、本装置の通報震度を設定してください。本装置は10段階で表される震度階級より通報震度を選択します。 (「6-2 防災設定 (16) [通報閾値&放送設備 I/F 設定] 画面」参照)。

緊急地震速報の電文は、1つの地震に対して複数回本装置に送信されてきます。もう少し詳しく説明すると、地震が発生するとすぐに、気象庁は、最初の緊急地震速報を送信し、地震が発生したことを通知します。このあと、地震の規模が確定するまで、気象庁は緊急地震速報を複数回送信し続けます。このように、最初の電文から引き続き送信される電文を、送信される順番に、第1報、第2報・・・第N報と呼びます。

地震が発生し、第1報から最終報までの電文が送信されるしくみを下図に示します。



本装置は、1 報ごとに予測震度を計算し、通報震度以上の地震が到達するか監視しています。 そして、通報震度以上の地震が到達した時点で、通報を開始します。たとえば、第 2 報を受けた ときに、通報震度以上の地震が到達すると、その時点で通報を開始します。

第2報目に対して本装置が通報を開始して、第3報目の緊急地震速報が送信されてきた場合、 本装置は下表に示すような動作をします (異なる地震 ID の場合でも同じ)。

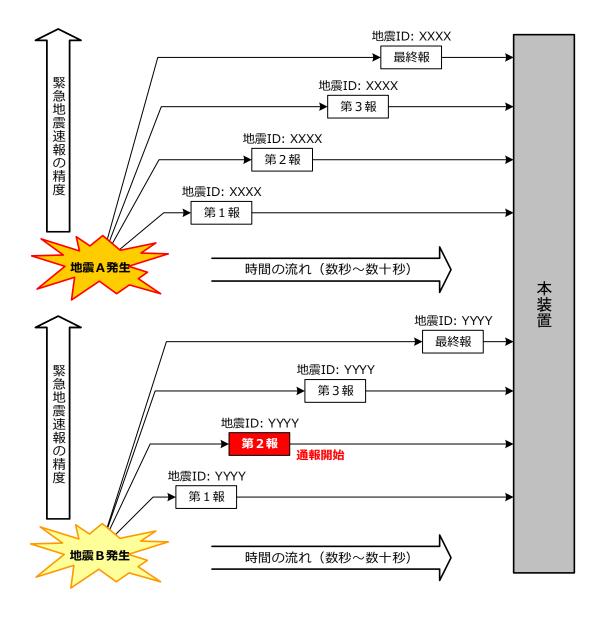
| 第2報目に対する | 第3報目に対する | 第3報目に対する |
|----------------|------------------|-----------|
| 本装置の通報状態 | 本装置の判断結果 | 本装置の処理方法 |
| 文 都不透起由 | 第2報より低い震度での予報と判断 | 第2報の予報を継続 |
| 予報で通報中 | 第2報より高い震度での予報と判断 | 第2報の予報を継続 |

| | 第3報で警報と判断 | 第3報の警報に切り替え |
|--------|------------------|-------------|
| 警報で通報中 | 第2報より低い震度での予報と判断 | 第2報の警報を継続 |
| | 第2報より高い震度での予報と判断 | 第2報の警報を継続 |
| | 第3報で警報と判断 | 第2報の警報を継続 |

※気象庁は国内のどこかで最大震度5弱以上の揺れを予測した時、震度4以上が予測される、 危険度が高い地域へ警報を発表します。

本装置による通報が終了した後に、地震の最終報が本装置へ送られてくることがあります。この場合、本装置は最終報の地震 ID と通報済みの地震 ID と比較し、適切に処理します。

通報を行っている間は、その他の地震 ID をもつ緊急地震速報を本装置は通報しません。たとえば、下図に示すように、地震 A と地震 B がほぼ同時に発生し、地震 B の第 2 報で設定震度以上に該当すると、地震 B に対する通報を地震 A よりも優先します。つまり、地震 A の緊急地震速報のデータについては、地震 B の通報が終了するまで、本装置は地震 ID のみを記憶するだけで通報はしません。



5-2-2 津波警報・注意報と津波予報の電文と通報

海域や沿岸部などで地震が発生すると津波を引き起こすことがあります。

日本周辺で地震が発生すると陸上に設置された地震計と海に設置されている海底津波計や GPS 波浪計などにより観測されます。海外で発生した津波の情報についても、気象庁は米国の太平洋 津波警報センターや各国の機関より入手しています。

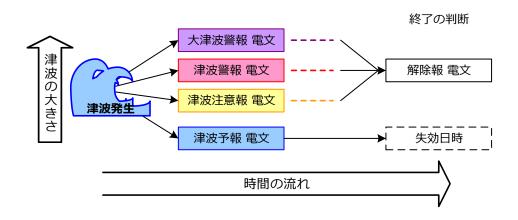
気象庁はこれらの集められた情報に基づいて津波に関する電文を作成します。この電文は弊社 の配信サーバーを経由して本装置に送信されます(津波情報を受信するには「津波情報配信サー ビス(有償)」の利用をお申し込み下さい)。

津波はその大きさにより下表の通りに「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」および「津波予報」の4種類の情報として通知されます。特に断りのない場合は「津波警報」は「大津波警報」と「津波警報」の双方を意味します。津波の各情報の詳細内容については「1-3-2 津波警報・注意報と津波予報とは」の説明を参照してください。

[津波情報の種類]

| No. | 種類 | | 解説 |
|-----|-------|-------|------------|
| 1 | 津波警報 | 大津波警報 | 解除報が発表される。 |
| 2 | | 津波警報 | 解除報が発表される。 |
| 3 | 津波注意報 | | 解除報が発表される。 |
| 4 | 津波予報 | | 解除報がない。 |

緊急地震速報と異なるところは「津波警報」と「津波注意報」には必ず「終わり」を示す「解除報」の電文が送られてくることです。「津波予報」については電文の中に、津波予報が"失効する日時"が記述されており、その日時に到達した時が予報解除と見なし、終了します。



「津波警報(大津波)」は危険度が一番高く、「津波警報(津波)」「津波注意報」と続き、「津波 予報」が危険度は一番低くなります。

気象庁では「津波警報(大津波・津波)」と「津波注意報」については被害が発生する可能性が 高いと定義しており、何らかの避難行動をとる必要があります。 本装置では通知する津波の情報を下表の通り選択することができます。

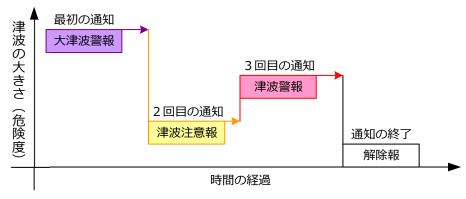
[津波の通報種別]

| 選択肢 | 通知対象となる津波情報 |
|-------|-----------------------|
| すべて | 津波予報、津波注意報、津波警報、大津波警報 |
| 津波注意報 | 津波注意報、津波警報、大津波警報 |
| 津波警報 | 津波警報、大津波警報 |
| 大津波警報 | 大津波警報 |

津波の状況は刻々と変化します。それらの変化は常に観測し解析されており、その変化にあわせて新しい「津波電文」が配信されます。

本装置は最新の「津波電文」を通知に使用します。

[発表される津波電文の例]



津波は最終的には減衰し消滅しますが、その過程の中で津波の規模が小さくならず大きくなる こともあります。また津波が収まったように見えても、引き潮の影響なども考えられますので、 解除報が通知されても注意が必要です。

5-3 本装置の通報方法

本装置が、緊急地震速報を予測演算し、実際に通報するまでの処理手順を以下に示します。

- (1) 緊急地震速報の電文が正しいか確認する。
- (2) 緊急地震速報の精度を満たしているか確認する。
- (3) 通報禁止時間帯でないことを確認する。
- (4) 本装置の設置場所に地震が到達するまでの猶予時間を計算する。
- (5) 予測震度が通報震度以上か確認する。

この処理手順を基本にして、本装置は音声による通報およびリレー制御による通報を行います。 この処理手順の各ステップに関連する以下の設定を、本装置の Web 画面から実行できます。

- 緊急地震速報精度の設定
- 通報禁止時間帯の設定
- 通報震度の設定
- リレー制御方法の設定

5-3-1 緊急地震速報精度の設定

多少の誤通報があっても早く通報を受けたい場合や、逆に、確実に地震が発生したことを検知してから通報を受けたい場合に、緊急地震速報精度の設定値を工場出荷時の値から変更します(「7-2 工場出荷時の設定値」参照)。

本装置の工場出荷時の設定値は、2点観測以上の緊急地震速報のデータを予測演算に利用するようになっています。

5-3-2 通報禁止時間帯の設定

本装置に通報禁止時間帯を設定します。通報禁止時間帯は、1週間分の設定が記憶されるため、 毎週、特定の曜日や時間帯で通知を禁止することができます。たとえば、学校など、夜間には無 人になるため通知の必要がない場所や、住宅地など、時間帯によっては通知が近隣の迷惑となる 場所に本装置が設置されている場合に、通報禁止時間帯の設定が役立ちます。通報禁止時間帯の 設定画面については、「6-2 防災設定 (15) [通報禁止時間帯設定] 画面」を参照してください。

但し、通報時間帯に到達する前に津波の開始電文を受信し、津波に対する通知処理を継続している場合は通報禁止時間帯の設定に拘わらず通知処理を行います。

5-3-3 通報閾値

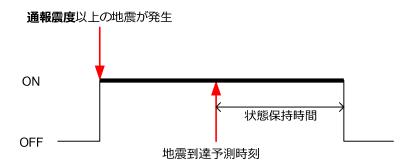
5-3-3-1 地震の通報閾値(通報震度)

通報震度を 3 系統(CH1、CH2、CH3)に分けて個別に設定できます(但し、同一系統の R1 と R2 に対して別々の通報震度を割り当てることはできません)。この個別に設定する機能を利用すると例えば「震度 3 ではネットワーク監視表示灯を制御して通報し、震度 4 以上では音声で通報する | 様な設定も可能です。

通報震度の設定に関する説明を以下に示します。

- CH1 に接続されたリレーと音声通報は1つのグループとみなして震度を設定します。 注意事項:音声による通報震度は、CH1の通報震度と同じになります。
- CH2 に接続された R1/R2 を同一系統のリレーとみなして通報震度を設定します。
- CH3 に接続された R1/R2 を同一系統のリレーとみなして通報震度を設定します。

下図は、通報震度に達したときのリレー制御の基本的なタイムチャートです。 ON の状態がリレー接続状態を表し、 OFF の状態がリレー切断状態を表します。



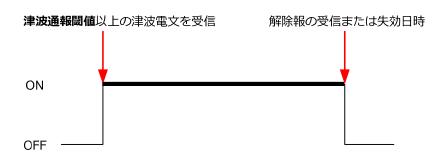
通報震度と状態保持時間を設定することで、リレーの動きを制御することができます。設定内容については、「6-2 防災設定 (16) [通報閾値&放送設備 I/F 設定] 画面」を参照してください。

5-3-3-2 津波の通報閾値

地震と同様に津波の通報閾値を3系統(CH1、CH2、CH3)に分けて個別に設定できます。1つの系統にはR1とR2がありますが、別々に閾値を割り当てることはできません。

- CH1 に接続されたリレーと音声通報は1つのグループとみなして津波閾値を設定します。 注意事項:音声による津波速報は、CH1の津波閾値と同じになります。
- CH2 に接続された R1/R2 を同一系統のリレーとみなして津波閾値を設定します。
- CH3 に接続された R1/R2 を同一系統のリレーとみなして津波閾値を設定します。

下図は受信した津波電文が津波の通報閾値に達した時のリレー制御の基本的なタイムチャートです。ON の状態がリレー接続状態を表し、OFF の状態がリレー切断状態を表します。



リレー動作の制御方法については「6-2 防災設定」の「(16) [通報閾値&放送設備 I/F 設定] 画面」を参照してください。

5-4 音声通報

5-4-1 緊急地震速報に対する音声通報

本装置は緊急地震速報を受信し、予測演算した結果が通報震度以上の値になる場合は、すぐに音声で通報します。このとき、警報と予報を区別して通報します。

本装置は、同一の地震 ID が割り当てられた緊急地震速報を受信した場合、1 回の音声通報のみを行います。短時間に複数の地震が発生した場合、本装置は地震 ID を使用して地震を識別します。

以下に音声通知時の本装置の動作を示します。

□ 警報と予報の区別

緊急地震速報の電文に設定されている地域コードで判断しています。

□ 予報から警報になった場合の音声制御

予報から警報になった場合は、音声通報を警報に切り替えます。

□ 警報から予報になった場合の音声制御

音声通報中の警報を継続します(「5-2 緊急地震速報受信時の本装置の通報方法」参照)。

□ 警報からさらに震度が高い警報になった場合の音声制御

音声通報中の警報を継続します(「5-2 緊急地震速報受信時の本装置の通報方法」参照)。

□ 地震が多発した場合の音声制御

先に受信した緊急地震速報から順に、音声通報を行います (「5-2 緊急地震速報受信時の本装置の通報方法」参照)。

□ キャンセル報の取り扱い

キャンセル報の電文にある地震 ID と同じ地震 ID のデータを使って音声通報を行った場合は、「キャンセル情報でした」と音声で案内します。

ロ アラーム音

地震予報のアラーム音には、リアルタイム地震情報利用協議会 (REIC) の音源を使用しています。地震警報のアラーム音には、日本放送協会 (NHK) の音源を使用しています。

5-4-2 津波警報・注意報と津波予報に対する音声通報

本装置に設定された津波予報区に対する津波電文を受信し、なおかつ津波通報閾値に達している場合に音声で通知します(「7-6 津波予報区」参照)。

以下に音声通知時の本装置の動作を示します。

□ 津波警報・注意報と津波予報の区別

津波電文に設定されている津波の種別により判断します。

□ 津波電文を受信した場合の音声制御

受信した津波電文に該当する「発表音声」を使用して通知します。その後は一定の間隔を開けて「継続音声」を使用して通知することを繰り返します。

「発表音声」「継続音声」については「5-4-3-4 津波警報・注意報および津波予報の音声アナウンスの流れ」に記載の音声メッセージ表を参照して下さい。

□ 新しい津波電文を受信した場合の音声制御

新しく受信した津波電文に該当する「続報音声」を使用して通知します。その後は一定の間隔を開けて「継続音声」を使用して通知することを繰り返します。

□ 津波の到達予測日時に近づいた場合の音声制御

一定の間隔をあけずに連続して「継続音声」を使用して通知を行います。

□ 津波音声の通知中に緊急地震速報を受信した場合の音声制御

既に津波の電文を受信し、通知処理をしている間に緊急地震速報を受信した場合、津波の処理に緊急地震速報の通知処理が割り込まれます。但し、津波の音声を出力中は、その音声出力が終了してから地震の音声を出力します。

□ 解除報の取り扱い

津波の危険が去ったことを示す解除報を受信した場合、「解除報音声」を使用して通知します。 解除報は津波警報・注意報が発表された場合にのみ気象庁から発信されます。「津波予報」の 場合は解除報が存在しないため、津波予報の電文に含まれる「失効日時」を解除報が発信さ れた日時として扱います。

5-4-3 音声通報のタイプとアナウンスの流れ

本装置は、本装置に設定された通報閾値を超える緊急地震速報または津波警報・注意報等を受信すると、音声通報を行います。この音声通報は、内蔵スピーカーから出力されるか、または本装置背面の LINE OUT コネクターを通して外部のスピーカーから出力されます。

5-4-3-1 地震に対する音声通報のタイプ (TYPE)

音声通報のタイプには、以下のように TYPE1 から TYPE4 まであります。予報と警報には同じタイプが設定されます。(予報と警報で異なるタイプを選択することはできません。)

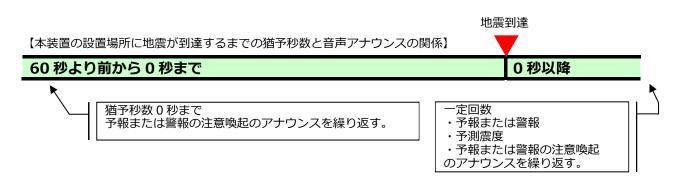
☐ TYPE1

予報 (警報) の注意喚起、予報 (警報)、予測震度、地震が到達するまでの猶予秒数、およびカウントダウンをアナウンスする通報タイプです。工場や自社ビルなど、統一的な行動をとりやすい施設に適しています。

地震到達 【本装置の設置場所に地震が到達するまでの猶予秒数と音声アナウンスの関係】 60 秒より前 60 秒から 11 秒まで 10 秒から 0 秒まで 0 秒以降 1 秒ごとにカウントダウンを 60 秒ごとに 10 秒ごとに 予報または警報の注意喚起の アナウンスする。 ・猶予秒数 アナウンスを繰り返す。 ・予報または警報 · 予測震度 一定回数 をアナウンスする。 ・予報または警報 ・予測震度 ・予報または警報の注意喚起 のアナウンスを繰り返す。

□ TYPE2

カウントダウンや猶予秒数の通知など、時間に関するアナウンスを省略した通報タイプです。 一般の方が多い集客施設など、カウントダウンや猶予時間のアナウンスが好ましくない施設 に適しています。



□ TYPE3

TYPE1 からカウントダウンを省略した通報タイプです。一般的なオフィスや中学校以上の学校等に適しています。

地震到達

【本装置の設置場所に地震が到達するまでの猶予秒数と音声アナウンスの関係】

60 秒より前

60 秒から 0 秒まで

0 秒以降

60 秒ごとに

予報または警報の注意喚起の アナウンスを繰り返す。

- 10 秒ごとに
- ・猶予秒数
- ・予報または警報 をアナウンスする。
- 一定回数
- 予報または警報
- · 予測震度
- ・予報または警報の注意喚起のアナウンスを繰り返す。

□ TYPE4

予報 (警報) の注意喚起だけをアナウンスする通報タイプです。幼稚園や小学校など、簡単なアナウンスだけを必要とする施設に適しています。

地震到達

【本装置の設置場所に地震が到達するまでの猶予秒数と音声アナウンスの関係】

60 秒より前から 0 秒以降

4

猶予秒数 0 秒まで 予報または警報の注意喚起のアナウンスを繰り返す。 ※ 0 秒以降は一定回数のアナウンスを繰り返す。

[音声通報タイプ比較表]

| | 地震到達まで | | | | | 地震到達後 | |
|----------------|---------|---|------|--------|---------------------|--------|------|
| | 60 秒より前 | 60~11 秒前まで(TYPE1) 60~10 秒前まで(TYPE2,3,4 のみ) | | | 10~0 秒まで | 0 秒より後 | |
| | (60 秒毎) | (10 秒毎) | | (1 秒毎) | 指定回数繰り返し (出荷時=3) | | |
| | 注意喚起 | 注意喚起 | 猶予時間 | 予測震度 | カウントダウン | 予測震度 | 注意喚起 |
| TYPE1 (出荷時) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| TYPE2 | 0 | 0 | | | | 0 | 0 |
| TYPE3 | 0 | 0 | 0 | | | 0 | 0 |
| TYPE4 | 0 | 0 | | | | | 0 |

5-4-3-2 予報時の音声アナウンスの流れ(地震)

本装置には、TYPE1 から TYPE4 として、あらかじめ予報時の音声アナウンスが登録してあります。どのタイプを利用するかは、本装置での設定に依存します。工場出荷時の設定値は、「TYPE1」です。(※アナウンスのタイプは警報時のタイプと共通です。異なるタイプは選択できません。) (1) TYPE1 のアナウンスの流れ (予報の場合)

予報の注意喚起、予報、予測震度、猶予秒数、およびカウントダウンをアナウンスします。

【本装置の設置場所に地震が到達するまでの猶予秒数と音声アナウンスの関係】 60 秒より前 60 秒から 11 秒まで 10 秒から 0 秒まで 0 秒以降 1 秒ごとにカウントダウンを アナウンスする。 60 秒ごとに 10 秒ごとに 予報の注意喚起の • 猶予秒数 アナウンスを繰り返す。 ・予報 一定回数 ・予測震度 ・予報 をアナウンスする。 ・予測震度 ・ 予報の注意喚起 のアナウンスを繰り返す。

地震到達

本装置に登録されている TYPE1 の音声メッセージを下表に示します。音声メッセージを変更する場合は「6-2 防災設定 (4) [地震予報音声アップロード] 画面 TYPE1」を参照してください。

【本装置に登録済みの TYPE1 の音声メッセージ】

| No. | 猶予時間 | 音声メッセージ |
|-----|-------------------------|---------------------------------------|
| 1 | 60 秒前まで (60 秒ごとに通 報) | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 2 | 60 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、60 秒前、震度● |
| 3 | 50 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、50 秒前、震度● |
| 4 | 40 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、40 秒前、震度● |
| 5 | 30 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、30 秒前、震度● |
| 6 | 20 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、20 秒前、震度● |
| 7 | 10 秒前 | 10 (じゅう) |
| 8 | 9 秒前 | 9 (きゅう) |
| 9 | 8 秒前 | 8 (はち) |
| 10 | 7 秒前 | 7 (なな) |
| 11 | 6 秒前 | 6 (ろく) |
| 12 | 5 秒前 | 5 (ご) |
| 13 | 4 秒前 | 4 (よん) |
| 14 | 3 秒前 | 3 (さん) |
| 15 | 2 秒前 | 2 (に) |
| 16 | 1 秒前 | 1 (いち) |
| 17 | 0秒 | 0 (ぜろ) |
| 18 | 到着後 (0 秒以降) | 地震予報、震度 ● 、予報アラーム♪ 、身の安全に注意してく ださい |

^{※●}印は到達が予測される震度です。No.18 の到達後は、音声アナウンスを N 回繰り返します (工場出荷時の N は 3)。

(2) TYPE2 のアナウンスの流れ (予報の場合)

予報の注意喚起、予報、および予測震度をアナウンスします。カウントダウンや猶予秒数はアナウンスしません。

本装置の設置場所に地震が到達するまでの猶予秒数と音声アナウンスの関係
 60 秒より前から 0 秒まで
 予報の注意喚起のアナウンスを繰り返す。
 一定回数・・予報・予測震度・予報の注意喚起のアナウンスを繰り返す。

本装置に登録されている TYPE2 の音声メッセージを下表に示します。TYPE2 は猶予時間と音声の関係付けが強くないので、オリジナル音声ファイルの作成が簡単です。外国人向けのオリジナル音声の作成にも適しています。音声メッセージを変更する場合は「6-2 防災設定 (5) [地震予報音声アップロード] 画面 TYPE2」を参照してください。

【本装置に登録済みの TYPE2 の音声メッセージ】

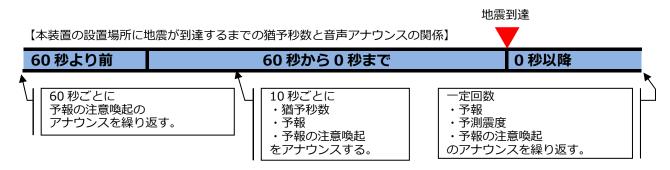
| No. | 猶予時間 | 音声メッセージ |
|-----|-------------------------|------------------------------------|
| 1 | 60 秒前まで (60 秒ごとに通 報) | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 2 | 60 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 3 | 50 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 4 | 40 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 5 | 30 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 6 | 20 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 7 | 10 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 8 | 到着後 (0 秒以降) | 地震予報、震度●、予報アラーム♪、身の安全に注意してく ださい |

^{※●}印は到達が予測される震度です。No.8 の到達後は、音声アナウンスを N 回繰り返します (工場出荷時の N は 3)。

取扱説明書

(3) TYPE3 のアナウンスの流れ (予報の場合)

予報の注意喚起、予報、予測震度、および猶予秒数をアナウンスします。カウントダウンはアナウンスしません。



本装置に登録されている TYPE3 の音声メッセージを下表に示します。TYPE3 は猶予時間と音声の関係付けが強くないので、オリジナル音声ファイルの作成が簡単です。外国人向けのオリジナル音声の作成にも適しています。音声メッセージを変更する場合は、「6-2 防災設定 (6) [地震予報音声アップロード] 画面 TYPE3」を参照してください。

【本装置に登録済みの TYPE3 の音声メッセージ】

| No. | 猶予時間 | 音声メッセージ |
|-----|-------------------------|--------------------------------------|
| 1 | 60 秒前まで (60 秒ごとに通 報) | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 2 | 60 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、60 秒前、身の安全に注意してく ださい |
| 3 | 50 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、50 秒前、身の安全に注意してく ださい |
| 4 | 40 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、40 秒前、身の安全に注意してく ださい |
| 5 | 30 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、30 秒前、身の安全に注意してく ださい |
| 6 | 20 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、20 秒前、身の安全に注意してく ださい |
| 7 | 10 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、10 秒前、身の安全に注意してく ださい |
| 8 | 到着後 (0 秒以降) | 地震予報、震度●、予報アラーム♪、身の安全に注意してく ださい |

^{※●}印は到達が予測される震度です。No.8 の到達後は、音声アナウンスを N 回繰り返します (工場出荷時の N は 3)。

(4) TYPE4 のアナウンスの流れ(予報の場合) 予報の注意喚起だけをアナウンスします。

地震到達

【本装置の設置場所に地震が到達するまでの猶予秒数と音声アナウンスの関係】



60 秒より前から 0 秒以降

猶予秒数 0 秒まで 予報の注意喚起のアナウンスを繰り返す。 ※ 0 秒以降は一定回数のアナウンスを繰り返す。

本装置に登録されている TYPE4 の音声メッセージを下表に示します。TYPE4 では、音声ファイルを入れ替えることでアラームだけを流すこともできます。TYPE4 は猶予時間と音声の関係付けが強くないので、オリジナル音声ファイルの作成が簡単です。外国人向けのオリジナル音声の作成にも適しています。音声メッセージを変更する場合は、「6-2 防災設定 (7) [地震予報音声アップロード] 画面 TYPE4」を参照してください。

【本装置に登録済みの TYPE4 の音声メッセージ】

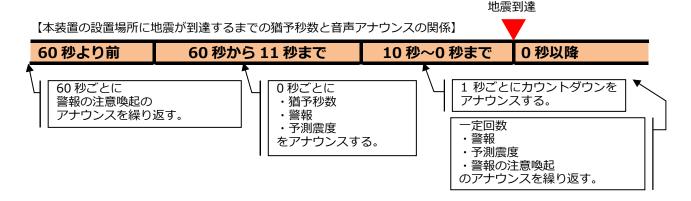
| No. | 猶予時間 | 音声メッセージ |
|-----|-----------------------|----------------------------|
| 1 | 60秒前まで (60秒ごとに通 報) | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 2 | 60 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 3 | 50 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 4 | 40 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 5 | 30 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 6 | 20 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 7 | 10 秒前 | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |
| 8 | 到着後 (0 秒以降) | 予報アラーム♪、地震予報、身の安全に注意してください |

^{※●}印は到達が予測される震度です。No.8 の到達後は、音声アナウンスを N 回繰り返します (工場出荷時の N は 3)。

5-4-3-3 警報時の音声アナウンスの流れ(地震)

本装置には、TYPE1 から TYPE4 として、あらかじめ警報時の音声アナウンスが登録してあります。どのタイプを利用するかは、本装置での設定に依存します。工場出荷時の設定値は、「TYPE1」です。(※アナウンスのタイプは予報時のタイプと共通です。異なるタイプは選択できません。) (1) TYPE1 のアナウンスの流れ (警報の場合)

警報の注意喚起、予報、予測震度、猶予秒数、およびカウントダウンをアナウンスします。



本装置に登録されている TYPE1 の音声メッセージを下表に示します。音声メッセージを変更する場合は「6-2 防災設定 (9) [地震警報音声アップロード] 画面 TYPE1」を参照してください。

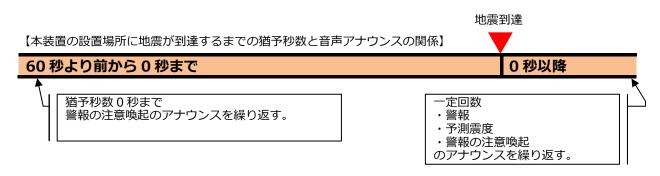
【本装置に登録済みの TYPE1 の音声メッセージ】

| No. | 猶予時間 | 音声メッセージ |
|-----|-------------------------|------------------------------------|
| 1 | 60 秒前まで (60 秒ごとに通 報) | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 2 | 60 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、60 秒前、震度● |
| 3 | 50 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、50 秒前、震度● |
| 4 | 40 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、40 秒前、震度● |
| 5 | 30 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、30 秒前、震度● |
| 6 | 20 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、20 秒前、震度● |
| 7 | 10 秒前 | 10 (じゅう) |
| 8 | 9 秒前 | 9 (きゅう) |
| 9 | 8 秒前 | 8 (はち) |
| 10 | 7 秒前 | 7 (なな) |
| 11 | 6 秒前 | 6 (ろく) |
| 12 | 5 秒前 | 5 (ご) |
| 13 | 4 秒前 | 4 (よん) |
| 14 | 3 秒前 | 3 (さん) |
| 15 | 2 秒前 | 2 (に) |
| 16 | 1 秒前 | 1 (いち) |
| 17 | 0秒 | 0 (ぜろ) |
| 18 | 到着後(0秒以降) | 地震警報、震度●、警報アラーム♪、強い揺れに警戒してく ださい |

^{※●}印は到達が予測される震度です。No.18 の到達後は、音声アナウンスを N 回繰り返します (工場出荷時の N は 3)。

(2) TYPE2 のアナウンスの流れ(警報の場合)

警報の注意喚起、警報、および予測震度をアナウンスします。カウントダウンや猶予秒数はアナウンスしません。



本装置に登録されている TYPE2 の音声メッセージを下表に示します。TYPE2 は猶予時間と音声の関係付けが強くないので、オリジナル音声ファイルの作成が簡単です。外国人向けのオリジナル音声の作成に適しています。音声メッセージを変更する場合は「6-2 防災設定 (10) [地震警報音声アップロード] 画面 TYPE2」を参照してください。

【本装置に登録済みの TYPE2 の音声メッセージ】

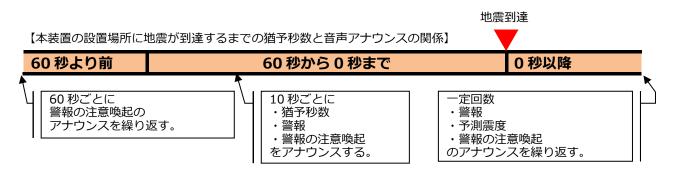
| No. | 猶予時間 | 音声メッセージ |
|-----|-------------------------|-------------------------------------|
| 1 | 60 秒前まで (60 秒ごとに通 報) | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 2 | 60 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 3 | 50 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 4 | 40 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 5 | 30 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 6 | 20 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 7 | 10 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 8 | 到着後 (0 秒以降) | 地震警報、震度 ●、警報アラーム♪、強い揺れに警戒してく ださい |

^{※●}印は到達が予測される震度です。No.8 の到達後は、音声アナウンスを N 回繰り返します (工場出荷時の N は 3)。

取扱説明書

(3) TYPE3 のアナウンスの流れ (警報の場合)

警報の注意喚起、警報、予測震度、および猶予秒数をアナウンスします。カウントダウンはアナウンスしません。



本装置に登録されている TYPE3 の音声メッセージを下表に示します。TYPE3 は猶予時間と音声の関係付けが強くないので、オリジナル音声ファイルの作成が簡単です。外国人向けのオリジナル音声の作成に適しています。音声メッセージを変更する場合は「6-2 防災設定 (11) [地震警報音声アップロード] 画面 TYPE3」を参照してください。

【本装置に登録済みの TYPE3 の音声メッセージ】

| No. | 猶予時間 | 音声メッセージ |
|-----|-----------------------|--------------------------------------|
| 1 | 60秒前まで (60秒ごとに通 報) | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 2 | 60 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、60 秒前、強い揺れに警戒してく ださい |
| 3 | 50 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、50 秒前、強い揺れに警戒してく ださい |
| 4 | 40 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、40 秒前、強い揺れに警戒してく ださい |
| 5 | 30 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、30 秒前、強い揺れに警戒してく ださい |
| 6 | 20 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、20 秒前、強い揺れに警戒してく ださい |
| 7 | 10 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、10 秒前、強い揺れに警戒してく ださい |
| 8 | 到着後 (0 秒以降) | 地震警報、震度●、警報アラーム♪、強い揺れに警戒してく ださい |

[≪]●印は到達が予測される震度です。No.8 の到達後は、音声アナウンスを N 回繰り返します (工場出荷時の N は 3)。

(4) TYPE4 のアナウンスの流れ (警報の場合) 警報の注意喚起だけをアナウンスします。

地震到達

【本装置の設置場所に地震が到達するまでの猶予秒数と音声アナウンスの関係】

V

60 秒より前から 0 秒以降

猶予秒数 0 秒まで 警報の注意喚起のアナウンスを繰り返す。 ※ 0 秒以降は一定回数のアナウンスを繰り返す。

本装置に登録されている TYPE4 の音声メッセージを下表に示します。TYPE4 では、音声ファイルを入れ替えることでアラームだけを流すこともできます。TYPE4 は猶予時間と音声の関係付けが強くないので、オリジナル音声ファイルの作成が簡単です。外国人向けのオリジナル音声の作成に適しています。音声メッセージを変更する場合は「6-2 防災設定 (12) [地震警報音声アップロード] 画面 TYPE4」を参照してください。

【本装置に登録済みの TYPE4 の音声メッセージ】

| No. | 猶予時間 | 音声メッセージ |
|-----|-----------------------|----------------------------|
| 1 | 60秒前まで (60秒ごとに通 報) | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 2 | 60 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 3 | 50 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 4 | 40 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 5 | 30 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 6 | 20 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 7 | 10 秒前 | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |
| 8 | 到着後 (0 秒以降) | 警報アラーム♪、地震警報、強い揺れに警戒してください |

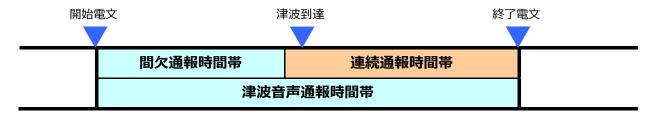
^{※ ●}印は到達が予測される震度です。No.8 の到達後は、音声アナウンスを N 回繰り返します (工場出荷時の N は 3)。

5-4-3-4 津波警報・注意報および津波予報の音声アナウンスの流れ

津波の電文は「開始」と「終了(解除報)」を示す電文から構成されます。本装置の音声通知も電文同様に「開始を示す音声」(発表音声)と「終了を示す音声」(解除報音声)から構成されます。また、津波の種別が変更された電文を受信した場合も、本装置は「津波の種別変更を示す音声」(続報音声)を使用して通知を行います。なお、津波の音声も地震用音声と同様にオリジナルを作成し置き換えることができます(「6-2 防災設定 (13) [津波音声アップロード]画面」参照)。

(1) 音声アナウンスの構成(間欠通報時間帯、連続通報時間帯)

本装置では津波に関する音声通知の開始から津波の予測到達日時までを「間欠通報時間帯」、津波の到達日時から終了を示す音声通知までを「連続通報時間帯」と表現します。但し、津波予報の通知では「間欠通報時間帯」は省略されます。



間欠通報時間帯と連続通報時間帯は次の通り定められます。

[間欠通報時間帯]

開始: 開始電文を受信した時。

終了: 津波の到達日時(予測)から指定した時間(「連続通報時間」(※))より前迄。

※「6-2 防災設定 (2) [基本項目設定]画面」を参照

[連続通報時間帯]

開始: 間欠通報時間帯が終了した時。

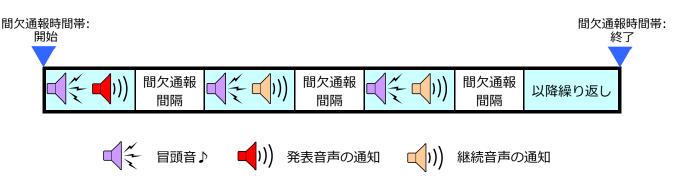
式)開始時刻 = 津波の到達日時 - 連続通報時間

終了: 終了電文を受信した時または開始電文の失効日時に到達した時。

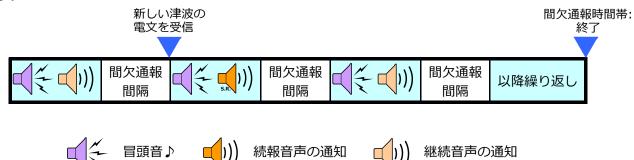
(2) 間欠通報時間帯の音声アナウンス

開始の電文を受信したら「冒頭音(サイレン)」と津波の種別にあわせた「発表音声」を通知します。その後、指定した時間(「間欠通報間隔」(※))の間隔を開けて「冒頭音」と津波の種別にあわせた「継続音声」を間欠通報時間帯が終了するまで繰り返し通知します。

なお、間欠通報間隔に 0 秒を指定した場合、「発表音声」のみを通知し、「継続音声」の通知は行いません。※「6-2 防災設定(2)[基本項目設定]画面」を参照



間欠通報時間帯に新しい種別の津波電文を受信した場合、「冒頭音」と「続報音声」を通知し、以後は間欠時間帯の終了まで新しい津波の種別にあわせた「冒頭音」と「継続音声」を通知します。



【本装置に登録済みの発表音声】

| 津波種別 | No. | 音声メッセージ |
|-------|-----|------------------------------|
| 大津波警報 | 1 | 大津波警報が発表されました。 |
| | 2 | 甚大な被害が発生します。 |
| | 3 | 直ちに高台や避難ビルなどに避難して下さい。 |
| 津波警報 | 4 | 津波警報が発表されました。 |
| | 5 | 津波による被害が発生します。 |
| | 6 | 直ちに高台や避難ビルなどに避難して下さい。 |
| 津波注意報 | 7 | 津波注意報が発表されました。 |
| | 8 | 海の中や海岸付近は危険です。 |
| | 9 | 直ちに海から上がって海岸から離れて下さい。 |
| 津波予報 | 10 | 津波予報が発表されました。 |
| | 11 | 若干の海面変動が予想されますが、被害の心配はありません。 |

【本装置に登録済みの継続音声】

| 津波種別 | No. | 音声メッセージ |
|-------|-----|------------------------------|
| 大津波警報 | 1 | 大津波警報が発表されています。 |
| | 2 | 甚大な被害が発生します。 |
| | 3 | 直ちに高台や避難ビルなどに避難して下さい。 |
| 津波警報 | 4 | 津波警報が発表されています。 |
| | 5 | 津波による被害が発生します。 |
| | 6 | 直ちに高台や避難ビルなどに避難して下さい。 |
| 津波注意報 | 7 | 津波注意報が発表されています。 |
| | 8 | 海の中や海岸付近は危険です。 |
| | 9 | 直ちに海から上がって海岸から離れて下さい。 |
| 津波予報 | 10 | 津波予報が発表されています。 |
| | 11 | 若干の海面変動が予想されますが、被害の心配はありません。 |

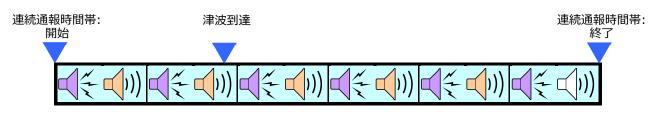
【本装置に登録済みの続報音声】

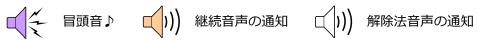
| 津波種別 | No. | 音声メッセージ |
|-------|-----|------------------------------|
| 大津波警報 | 1 | 大津波警報へ切り替わりました。 |
| | 2 | 甚大な被害が発生します。 |
| | 3 | 直ちに高台や避難ビルなどに避難して下さい。 |
| 津波警報 | 4 | 津波警報へ切り替わりました。 |
| | 5 | 津波による被害が発生します。 |
| | 6 | 直ちに高台や避難ビルなどに避難して下さい。 |
| 津波注意報 | 7 | 津波注意報へ切り替わりました。 |
| | 8 | 海の中や海岸付近は危険です。 |
| | 9 | 直ちに海から上がって海岸から離れて下さい。 |
| 津波予報 | 10 | 津波予報へ切り替わりました。 |
| | 11 | 若干の海面変動が予想されますが、被害の心配はありません。 |

(3) 連続通報時間帯の音声アナウンス

間欠通報時間帯が終了したら連続通報時間帯が続けて開始されます。連続通報時間帯は「冒頭音」と「継続音声」による通知を繰り返し行い、終了時には「冒頭音」と「解除報音声」による通知を行います。

連続通報時間帯の開始は津波の到達予測日時から「連続通報時間」により指定された時間より前の時刻ですが、この「連続通報時間」に0秒を指定した場合、「冒頭音」と「継続音声」による通知は行わず、終了を示す「解除報音声」通知のみ行います。





連続通報時間帯に新しい種別の津波電文を受信した場合は「冒頭音」と「発表音声」を通知した後、「冒頭音」と「継続音声」の通知を繰り返します。

なお、連続通報時間帯の途中で音声通知を終了したい場合は、本装置の Web 画面より操作することで終了することができます(「6-2 防災設定 (20)[津波音声通報の停止・再開]画面]」参照)。

【本装置に登録済みの解除報音声】

| 津波種別 | | No. | 音声メッセージ |
|-------|------|-----|----------------|
| 大津波警報 | 津波警報 | 1 | 津波警報が解除されました。 |
| 津波注意報 | | 2 | 津波注意報が解除されました。 |
| 津波予報 | | 3 | 津波予報が解除されました。 |

5-4-4 キャンセル報

気象庁は、本装置へ送信した緊急地震速報が誤りであった場合に、キャンセル報という情報を本装置へ送信します。本装置は、緊急地震速報を受信した後に、その速報に対するキャンセル報を受信すると、次のような動作をします。なお、本装置は、キャンセル報を受信しても、CH1 以外のリレー通報は行いません。

- 音声通報を行っていた場合、「キャンセル情報です」と音声で通報します。
- 音声通報を行っていない場合、キャンセル報を処理しません。(キャンセル報を無視します。) これにより、音声通報を行っていない場合に「キャンセル情報です」という音声が流れることを防ぎます。

5-4-5 音声ファイル入れ替え

メッセージは、WAVE 形式 (※1) で作成された音声ファイルに登録されています。音声ファイルを入れ替えることにより、「5-4-3 音声通報のタイプとアナウンスの流れ」で示したメッセージを変更できます。入れ替え用の音声ファイルを作成する場合は、下記内容を理解したうえで作成してください。

※1) WAVE または WAV 形式は、音声データ記述のためのフォーマットです。主に Windows で使われるファイル形式です。ファイルの拡張子は、「.wav」になります。

- □ 時間的な制約がある音声ファイル、たとえば「10 (じゅう)、9 (きゅう)、8 (はち)」など、カウントダウンに使用するメッセージは、指定された時間内に収める必要があります。指定された時間を超えた場合は、正確なアナウンスができなくなります。
- □ 本装置が地震予報のアナウンス中に警報の緊急地震速報を受けた場合、警報のアナウンスに切り替わります。そのタイミングは、音声ファイルに登録されたメッセージの再生が終わった時点です。指定された時間を超えた場合は、警報のアナウンスが遅れることになります。
- □ 音声ファイルには短い単語を登録してあります。たとえば「警報アラーム♪、地震警報、30秒前、震度5強」は、次の3つに分け、それぞれが別のファイルとして登録います。
- 警報アラーム♪
- 地震警報 30 秒前震度
- 5強
- □ 本装置が津波の音声通知中に緊急地震速報を受信した場合、割り込んで地震のアナウンスを行います。津波の音声が再生されている場合は、津波の音声の再生が終了してから地震のアナウンスを再生します。
- □ 各音声ファイルの最初と最後には、適切な長さの無音部分が必要です。無音部分が正し く確保されていないと、3 つの音声ファイルが続けて再生されたときに、意図したアナ ウンスが流れないことがあります。
- □ 音声ファイルは、「モノラル、サンプリングレート: 44100Hz、フォーマット: 16bit PCM」で作成します。これ以外の条件で作成すると、正しく再生されない場合があります。

5-5 リレー通報

5-5-1 緊急地震速報によるリレー通報

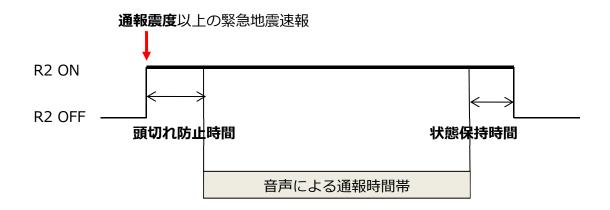
本装置は、緊急地震速報を受信し、予測演算した結果が通報震度以上の値になる場合は、すぐにリレーを制御します。リレーは3系統 (CH1、CH2、CH3) あり、それぞれ個別に制御します。このとき、警報と予報を区別せずに制御します。

地震 ID が同一の緊急地震速報を受信した場合、本装置は 1 回のリレー通報のみを行います。 本装置は、緊急地震速報が同一であるかどうかを地震 ID によって判断しています。

また、リレー通報中に、地震 ID が異なる緊急地震速報を受信した場合は、その緊急地震速報に対するリレー通報は行いません。

(1) CH1 のリレー制御タイムチャート例

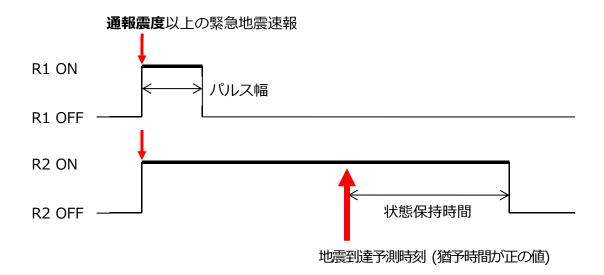
本装置は、通報震度以上の緊急地震速報を受信すると、最初に R2 を ON (接続) 状態に制御します。事前に R2 を放送設備のアンプと接続しておいてください。R2 が ON 状態になり 1 秒程度の時間 (頭切れ防止時間) が経過した後に、アンプ側はオーディオ入力可能な状態になります。この状態で、本装置は音声通報を LINE OUT から出力します。通報が終了すると、本装置は、ON 状態を一定時間保持 (状態保持時間) した後に R2 を OFF (切断) 状態にします。これにより、通報が終わったことをアンプ側に知らせます。



通報震度、頭切れ防止時間、および状態保持時間を設定することで、リレーの動きを制御する ことができます。

(2) CH2 と CH3 に共通するリレー制御のタイムチャート例 1

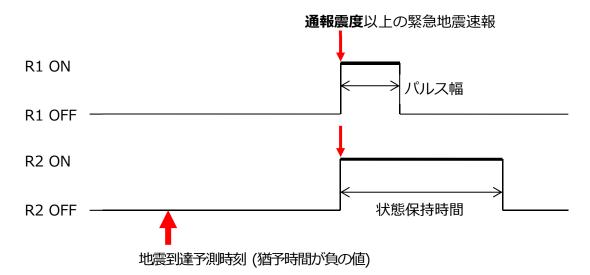
下図は、本装置の設置場所に地震が到達するまでの猶予時間が十分にある場合のタイムチャートです。



通報震度、パルス幅、および状態保持時間を設定することで、リレーの動きを制御することが できます。

(3) CH2 と CH3 に共通するリレー制御のタイムチャート例 2

下図は、本装置が緊急地震速報を受信する前に地震が到達した場合のタイムチャートです。



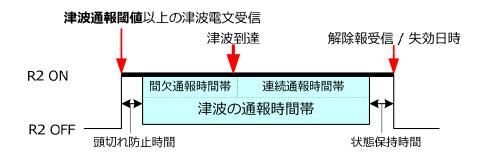
通報震度、パルス幅、および状態保持時間を設定することで、リレーの動きを制御することができます。

5-5-2 津波警報・注意報と津波予報によるリレー通報

本装置は受信した津波電文が、通報閾値以上に該当する場合、すぐにリレーを制御します。リレーは3系統(CH1、CH2、CH3)あり、それぞれを個別に制御します。

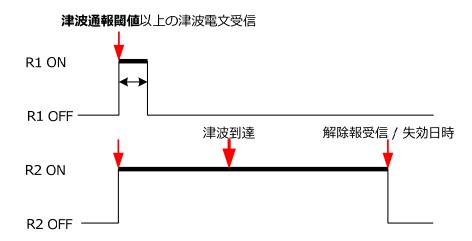
(1) CH1 のリレー制御タイムチャート例

本装置は、通報閾値以上の津波電文を受信すると、最初に R2 を ON (接続) 状態に制御します。 事前に R2 を放送設備のアンプと接続しておいてください。 R2 が ON 状態になり 1 秒程度の時間 (頭切れ防止時間) が経過した後に、アンプ側はオーディオ入力可能な状態になります。この状態で、本装置は音声通報を LINE OUT から出力します。通報が終了すると、本装置は、ON 状態を一定時間保持 (状態保持時間) した後に R2 を OFF (切断) 状態にします。これにより、通報が終わったことをアンプ側に知らせます。



(2) CH2 と CH3 に共通するリレー制御のタイムチャート例

下図は、本装置に割り当てられた津波予報区に津波が到達すると判断された場合のタイムチャートです。



通報閾値に達する津波電文を受信すると CH2、CH3 が制御されます。

R1 は設定されたパルス幅のリレー出力を行います。R2 は津波の電文が解除または失効するまでリレー出力を行います。

5-6 設定前の確認事項

本装置の導入を円滑に完了するために、下記の設定情報を事前に把握しておいてください。

(1) 緊急地震速報の通報に関する設定情報

「7-2 工場出荷時の設定値」を参照して、緊急地震速報の通報に関する設定値が工場出荷時の設定値のままで良いか確認します。設定値を変更する場合は、「6-2 防災設定」を参照してください。

(2) ネットワーク接続に関する設定情報

「7-3 ネットワーク確認シート」を参照して、ネットワーク接続に関する設定値を確認します。 設定値を変更する場合は、「6-4 ネットワーク設定」を参照してください。

5-7 運用

本装置をインターネットに接続すると、配信サーバーに接続されます。気象庁から送られた緊急地震速報は、この配信サーバーを経由して本装置に送られてきます。

本装置が受信した緊急地震速報や受信した緊急地震速報に対する本装置の動作内容(通報処理、 リレー出力端子制御等)は、本装置にログ情報として記録されています。

津波警報・注意報および津波予報も同様に本装置にログ情報として記録されます(津波情報配信サービスを契約した場合のみ)

記録されているログ情報は月次報告書として、本装置の Web 画面より操作することで確認できます(「6-3 防災情報履歴(6)[月次報告書]画面」参照)。

月次報告書を定期的に確認し、日々の防災活動にお役立て下さい。

5-7-1 自動切断監視

本装置は、インターネットを経由して配信サーバーと接続しています。配信サーバーは、常時(約5分毎)接続状況を監視し、接続されていることを確認しています。回線の切断、ケーブルの断線など、何らかの理由により、配信サーバー側で本装置との接続が確認できない場合、「切断通知メール」をお客様(配信サービス利用申込書に記載されたメールアドレス)へ送信します。本装置と配信サーバーとの接続が開始されると、「接続通知メール」が送信されます。

5-7-2 自動巡回監視

緊急地震速報を確実に受信するため、深夜から早朝かけて配信サーバーからお使いの本装置に対して自動巡回監視を行い、本装置が正常に動作していることを確認します。

巡回監視の結果、異常を検知した場合はメールまたは電話で販売店を経由してご連絡します。 また、弊社が安定稼働を確保するために必要と認めた場合は、遠隔操作により本装置を再起動す ることがあります。

[監視項目]

| 監視項目名称 | 監視内容 |
|------------------|---|
| 受信状況 | 直近の緊急地震速報データ受信の有無の確認 |
| 緊急地震速報専用通報装置 I D | 配信サーバーで管理している装置 I D と本装置に登録されている装置 I Dの確認 |
| 内蔵各種プログラムの稼働 | 各種プログラムが使用する仮想メモリーの使用状況の確認 |
| 端末の接続 | 配信サーバーとのSSH接続の可否確認 |

6 Web 画面からの設定

Web 画面を使って、本装置に関する設定を行います。本書では、以下の4項目について説明します。

注意事項: Web 画面を操作するブラウザーには、モダンブラウザのご利用を推奨します(マイクロソフト社 Internet Explorer 9 以降など)。

□ 共通事項 (「6-1 共通事項」参照)

Web 画面へのログイン方法や画面構成などを説明します。

□ 本装置の基本的な項目に関する設定(「6-2 防災設定」参照)

緊急地震速報や津波情報に関する設定等について、使用する画面の概要と設定項目を説明します。

□ 通報履歴や各種受信データの確認方法(「6-3 防災情報履歴 | 参照)

本装置が受信した緊急地震速報を元に、本装置の通報履歴や過去に発生した地震に関する詳細情報を確認する為の方法を説明します。

□ ネットワーク接続に関する設定 (「6-4 ネットワーク設定」参照)

ネットワーク接続に関する設定について、使用する画面の概要と設定項目を説明します。

□ 保守運用に関する設定 (「6-5 保守・運用」参照)

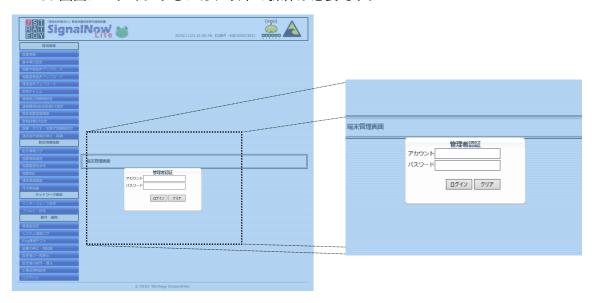
パスワード変更など、Web 画面から行う保守運用に関する設定について、使用する画面の概要と設定項目を説明します。

6-1 共通事項

(1) Web 画面へのログイン

アカウントとパスワードを入力し、Web 画面にログインします。ログインが完了すると、Web 画面から各種の設定が可能になります。

Web 画面にログインするには、以下の操作が必要です。



[操作手順]

1) 本装置に設定されている IP アドレスを確認する。

<本装置に固定 IP アドレスを割り当てている場合>

「3-1 LAN ポートに接続 (ネットワークに接続) (2)本装置に固定 IP アドレスを設定してネットワークに接続する場合」の設定にて記録した IP アドレスを使用します。

<本装置に割り当てられている IP アドレスが分からない場合>

IP アドレスとして「192.168.252.252」を使用します。

固定 IP アドレスが分から無い場合は、Web 画面の操作に使用する PC と本装置の接続には、本装置の設定用 LAN ポートを使用して下さい。接続方法については「3-1 LAN ポートに接続(ネットワークに接続)(2)本装置に固定 IP アドレスを設定してネットワークに接続する場合」も参照して下さい。

- 確認した IP アドレスを以下のようにブラウザーのアドレスバーに入力する。
 例) http://192.168.1.9/
- 3) 表示されるログイン画面で、下記のアカウントとパスワードを入力する。
- 4) 下記のアカウントとパスワードは工場出荷時の値です。パスワードは、ログイン後に[管理者設定]画面から変更できます。

| アカウント | admin |
|-------|-------|
| パスワード | admin |

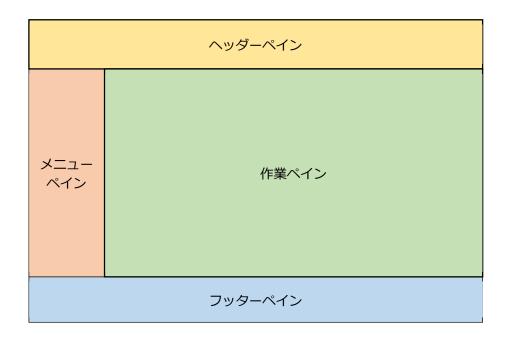
(2) Web 画面構成

Web 画面は4つの要素(ヘッダーペイン、メニューペイン、作業ペイン、フッターペイン)から構成されます。

ヘッダーペイン

お使いの機器の EQ 番号がヘッダー右端に表示されます。配信サーバーと切断されているときは'-' (ハイフン) が表示されます。

- メニューペイン
- 作業ペイン
- フッターペイン



ログイン後に設定したい項目を画面左側にあるメニューペインから選択し、作業ペインに表示 される各項目へ設定を行います。

(3) メニュー構成

Web 画面にログインすると、画面の左端に以下のサイドメニューが表示されます。操作したいメニューをクリックすることで、目的の画面を表示できます。

| 防災設定 | |
|---------------------|--|
| 装置情報 | [装置情報]画面を表示します。 |
| 基本項目設定 | [表直情報]画面で扱いします。 [基本項目設定]画面を表示します。 |
| 地震予報音声アップロード | [墨本項日設定]画面でながします。 「地震予報音声アップロード]画面を表示します。 |
| 地震警報音声アップロード | [地震警報音声アップロード]画面を表示します。 「地震警報音声アップロード]画面を表示します。 |
| | [地震電報目用アップロート]画面で表示します。 「津波音声アップロード]画面を表示します。 |
| 津波音声アップロード | [洋灰目用アップロート]画面で衣示しよす。 [定時チャイム]画面を表示します。 |
| 定時チャイム 通報禁止時間帯設定 | [延時プルイム]画面で扱いしよす。 「通報禁止時間帯設定]画面を表示します。 |
| | - |
| 通報關值&放送設備I/F設定 | [通報閾値&放送設備 I/F 設定]画面を表示します。 |
| 緊急地震速報精度 | [緊急地震速報精度]画面を表示します。 |
| 警報投備I/F設定 | [警報設備 I/F 設定]画面を表示します。 |
| 訓練・テスト・気象庁訓練報設定 | [訓練・テスト・気象庁訓練報設定]画面を表示します。 |
| 津波音声通報の停止・再開 防災情報履歴 | [津波音声通報の停止・再開]画面を表示します。 |
| | |
| 防災情報ログ | [防災情報ログ]画面を表示します。 |
| 地震情報履歷 | [地震情報履歴]画面を表示します。 |
| 地震震源地分布 | [地震震源地分布]画面を表示します。 |
| 地震統計 | [地震統計]画面を表示します。 |
| 津波情報履歴 | [津波情報履歴]画面を表示します。 |
| 月次報告書 | [月次報告書]画面を表示します。 |
| ネットワーク設定 | |
| インターフェース設定 | [インターフェース設定]画面を表示します。 |
| プロキシー設定 | [プロキシー設定]画面を表示します。 |
| 保守・蓮用 | |
| 管理者設定 | [管理者設定]画面を表示します。 |
| システム情報ログ | [システム情報ログ]画面を表示します。 |
| Ping疎通テスト | [Ping 疎通テスト]画面を表示します。 |
| 装置の停止・再起動 | [装置の停止・再起動]画面を表示します。 |
| 設定値の一覧表示 | [設定値の一覧表示]画面を表示します。 |
| 設定値の保存・復元 | [設定値の保存・復元]画面を表示します。 |
| 工場出荷時設定 | [工場出荷時設定]画面を表示します。 |
| ログアウト | Web 操作を終了し、ログアウトします。 |

6-2 防災設定

(1) [装置情報] 画面

この画面ではサーバーに登録されている本装置の位置情報や本装置の稼働状態等を確認することができます。



| No. | 名称 | 説明 |
|-----|-------|---|
| 1 | 地域コード | 本装置を設置している住所地に対して、気象庁が割り当てた地域コ ードが表示されます。 |
| 2 | 緯度/経度 | 本装置が設置されている住所地の緯度と経度が表示されます。 |
| 3 | 地盤増幅率 | 本装置が設置されている住所地の地盤の堅さを基に、地震の揺れが 地表面に達するまでの揺れに対する増幅率が表示されます。この値 が高いほど地震の揺れ(震度階級)が大きくなります。 |
| 4 | 配信有無 | 「津波情報配信サービス」の利用申込が完了すると「配信あり」と表示され、津波情報を受信することができます。 ※津波情報配信サービスを利用する場合有効となる設定項目です。 |

取扱説明書

| | 1 | | | |
|-----|----------|---|--|--|
| (5) | 予報区コード | 本装置に設定されている津波予報区のコードが表示されます。 ※津波情報配信サービスを利用する場合有効となる設定項目です。 | | |
| 6 | 領域コード | 使用しません。 | | |
| 7 | 結合表現コード | 使用しません。 | | |
| 8 | 隣接予報区コード | 使用しません。 | | |
| 9 | インターフェース | 本装置に内蔵されている LAN ポートです。本装置には 2 つの LAN ポートが内蔵されており、この画面ではそれぞれ次のように表記されます。 eth0: LAN ポート eth1: 設定用 LAN ポート | | |
| 10 | IP アドレス | 本装置に内蔵されたインターフェース毎に割り当てられている IP アドレスを表示します。 本装置を接続するネットワーク上に同一の IP アドレスを持つ機器 が存在しないようにして下さい。 | | |
| 11) | MAC アドレス | 本装置に内蔵されたインターフェース毎の MAC アドレスを表示します。 MAC アドレスは、コロン (:) で区切られた 6 つの数値で表されます。 MAC アドレスは、本装置の LAN ポート毎に製造段階で割り当てられる、固有のアドレスです。 MAC アドレスを変更することはできません。 | | |
| 12 | 接続ステータス | 本装置の接続状態を表示しています。 配信サーバーと接続されていれば問題ありません。 | | |
| 13) | 通報状況 | この画面を表示したときの本装置の通報状況を表示します。 | | |
| 14) | 日付・時刻 | この画面を表示したときの本装置の内蔵時計に設定されていた日付と時刻です。 | | |
| 15 | 地震処理状況 | この画面を表示した月の1日から現在までに、気象庁から発信され 本装置が受信した緊急地震速報の件数を「受信数」、通報閾値に到達 した件数を「通報数」として表示します。月が変わる毎に0からカ ウントされます。 | | |
| 16 | 津波処理状況 | この画面を表示した月の1日から現在までに、気象庁から発信され 本装置が受信した津波警報・注意報および津波予報の件数を「受信 数」、通報閾値に到達した件数を「通報数」として表示します。月が 変わる毎に0からカウントされます。 | | |
| 17) | プログラム | 本装置に内蔵されているプログラムのバージョンです。 | | |
| | • | | | |

(2) [基本項目設定] 画面

この画面では通報閾値として設定されている震度階級 (震度) と付随する項目の設定確認または変更を行います。また、津波情報配信サービスをお申し込みいただいた場合は、津波に関する設定を確認または変更することができます。



| No. | 名称 | 説明 | | | |
|-----|------------------|--|----|------------------------------------|--|
| | | 本装置が緊急地震速報を受信し、この項目で設定した震度以上の揺れが到達すると予測された場合に、本装置から音声通知されます。以下の震度階級表を参考にして、本装置をお使いになる場所に適する通報震度を設定してください。 [通報震度階級] | | | |
| | | 種別 | 震度 | 想定される被害状況 | |
| 1 | 通報閾値 (地震通報設定) | 予報 | 0 | 揺れを感じない。 | |
| | | | 1 | 屋内で静かにしているときに、揺れをわずかに感じる 場合がある。 | |
| | | | 2 | 屋内で静かにしているときに、多くの人が揺れを感じる。 | |
| | | | 3 | 屋内にいる場合、ほとんどの人が揺れを感じる。 | |
| | | | 4 | 電灯など、つり下げられている物は大きく揺れ、揺れに | |
| | | | | 驚く人が多い。また、きちんと固定されていない不安定 | |

| | | | | な状態の置物などは、転倒することがある。 |
|---|------------------|---|--------------|--|
| | | | | 多くの人が恐怖を感じ、何かに捕まりたいと感じる揺れ。棚に保管されている本や食器などが落下する場合がある。固定されていない家具などは移動することがある。 |
| | | | - | 何かに固定されている物に捕まらないと歩行が困難な揺れ。棚に保管されている本や食器などの落下物が増える。固定されていない家具などは転倒することがある。さらに、補強されていないブロック塀などは倒壊のおそれがある。 |
| | | 警報 | | 立っていることが困難な揺れ。固定されていない家具の大半が移動や転倒し、危険な状態。窓ガラスが破損したり、ドアの開閉ができなくなる。さらに、耐震性の低い木造建築物は、傾いたり倒壊するおそれがある。 |
| | | | | 立ったまま移動することができない揺れ。固定されていない家具などの大半が転倒し、耐震性の低い木造建築物は、傾いたり倒壊することが多くなる。大きな地割れが発生したり、大規模な地滑りなどが発生することがある。 |
| | | | 7 | 耐震性の低い木造建築物の大半が倒壊し、耐震性の高い建物であっても、まれに傾くことがある。耐震性の低い鉄筋コンクリート構造の建物は、倒壊することが多い。 |
| | | | | されている津波予報区に対して通知する津波情報の閾値 |
| | | | | 選択肢から設定します。 |
| | | すべて | 尺肢 | 内容 |
| | | | | 通知処理を行います。 |
| | | 津波注 | 意報 | 津波による被害が予想される「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」を受信した場合に通知処理を行います。 |
| 2 | 通報閾値 (津波通報設定) | 津波警 | 報 | 津波による被害が予想される「大津波警報」「津波警報」を受信した場合に通知処理を行います。高台への 避難が必要です。 |
| | | 大津波 | 警報 | 津波による被害が予想される「大津波警報」を受信した場合に通知処理を行います。高台への避難が必要です。 |
| | | で津波 知処理を | 予報から を行いま | と 対しを設定中に津波予報を受信した場合であっても、途中 がは、本装置は通 |
| 3 | 間欠通報間隔 | 間欠通報時間帯に再生する音声の間隔を秒数で指定します。0 秒を指定した場合、発表音声の通知のみ行い、繰り返し再生はしません。 ※詳細は「5-4-3-4 津波警報・注意報および津波予報の音声アナウンスの流れ」を参照して下さい。 ※津波情報配信サービスを利用する場合有効となる設定項目です。 | | |
| 4 | 連続通報時間 | 間欠通報時間帯から連続通報時間帯に切り替える時間を指定します。 起点となる津波到達予測日時から遡る時間を秒数で指定します。0秒 | | |

| | | を指定した場合、音声による連続通報は行わず解除報音声のみ通知します。 | | |
|-----|----------------|---|--|--|
| | | ※詳細は「5-4-3-4 津波警報・注意報および津波予報の音声アナウンスの流れ」を参照して下さい。 | | |
| | | ※津波情報配信サービスを利用する場合有効となる設定項目です。 | | |
| (5) | 本体音量 | 本装置に内蔵されているスピーカーより出力する音量を設定します。 スライダーのつまみをマウスで左右にドラッグすることで、出力する 音量を 0 から 100%の範囲で指定することができます。 | | |
| | | 本装置背面にある LINE OUT コネクターより出力する音量を設定しま | | |
| 6 | 放送機器出力音量 | す。 スライダーのつまみをマウスで左右にドラッグすることで、出力する 音量を 0 から 100%の範囲で指定することができます。 | | |
| 7 | 設定 | ①、②、③で指定した内容を設定します。 | | |
| 8 | 試験通報種別(地震試験通報) | 本装置が緊急地震速報を受信し通知する際、実際に流れる音声の内容を確認することができます。避難訓練時などにこの機能を役立てることができます。 過知する音声の内容として「警報」と「予報」のどちらかを選択します。 ※津波情報配信サービスを利用する場合有効となる設定項目です。 | | |
| | 通報開始(地震試験通報) | を使用して、即時に通知を開始します。なお、通知される音声には冒頭と最後に次の音声が追加されます。 冒頭: 只今から、緊急地震速報の訓練報を通報します。 ※「テスト通報時の冒頭アナウンス」に「する」を 指定した場合のみ。「(20) [訓練・テスト(試験)通報、気象庁訓練報の設定]」画面を参照。 最後: 只今のは訓練通報でした。 本装置内蔵スピーカーと LINE OUT より音声が出力されます。 本装置を放送機器などに接続している場合は、事前の周知など行い、混乱が生じないようにご注意下さい。 [警報の試験通報内容(TYPE1 の場合)] 震度 5 強の地震の揺れが 30 秒後に到達する場合の音声が出力されます。 | | |
| 9 | | 時間 音声内容 | | |
| | | 30 秒前 警報アラーム音♪、地震警報、30 秒前、震度 5 強 | | |
| | | 20 秒前 警報アラーム音♪、地震警報、20 秒前、震度 5 強 | | |
| | | 10 秒前 10 | | |
| | | 9秒前~0 9、8、7、6、5、4、3、2、1、0 (カウントダウン) 秒 | | |
| | | 0 秒以降 地震警報、震度 5 強、警報アラーム音♪、強い揺れに警戒してください。※指定回数繰り返します。 | | |
| | | ※警報アラーム音は、NHK (日本放送協会) が作成した緊急地震速報用のアラーム音「NHK チャイム音」を使用しています。 | | |
| | | [予報の試験通報内容(TYPE1 の場合)] 震度 4 の地震の揺れが 30 秒後に到達する場合の音声が出力されます。 | | |

取扱説明書

| | | 時間 | 音声内容 | | |
|-----|--------------------|--|---|--|--|
| | | 30 秒前 | 予報アラーム音♪、地震予報、30 秒前、震度 4 | | |
| | | 20 秒前 | 予報アラーム音♪、地震予報、20 秒前、震度 4 | | |
| | | 10 秒前 | 10 | | |
| | | 9 秒前~0 秒 | 9、8、7、6、5、4、3、2、1、0 (カウントダウン) | | |
| | | 0 秒以降 | 地震予報、震度 4、予報アラーム音♪、身の安全に注意 してください。※指定回数繰り返します。 | | |
| | | | ム音は、REIC (リアルタイム地震情報利用協議会) が作 ム音を使用しています。 | | |
| 10 | 試験通報種別(津波試験通報) | 本装置が津波警報・注意報または津波予報を受信し通知する際、実際に流れる音声の内容を確認することができます。地震と同様に避難訓練時などにこの機能を役立てることができます。 通知する音声の内容をとして「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」「津波予報」のどれかを選択します。 ※津波情報配信サービスを利用する場合有効となる設定項目です。 | | | |
| | | を行います。た れます。 | た津波の種別に対応する「冒頭音」と「発表音声」で通知 なお、通知される音声には冒頭と最後に次の音声が追加さ マ今から津波速報の訓練報を通報します。 | | |
| 11) | 通報開始 (津波試験通報) | 最後: 只今のは訓練報でした。 | | | |
| | (/丰//文武场火,地平区/ | 本装置を放送れ | ピーカーと LINE OUT より音声が出力されます。 機器などに接続している場合は、事前の周知など行い、混 ようにご注意下さい。 信サービスを利用する場合有効となる設定項目です。 | | |

(3) [地震予報音声アップロード] 画面

この画面では、地震予報をアナウンスするシーケンス (流れ) のタイプ (音声通報のタイプ) を設定します (工場出荷時の設定値は TYPE1)。また、タイプごとに使用する音声ファイルを変更することもできます。



| No. | 名称 | 説明 | |
|-----|-----|--|--|
| 1 | タイプ | 音声通報のタイプを以下の4つの選択肢から選択します。 TYPE1: 予報の注意喚起、予報、予測震度、地震が到達するまでの猶予秒数、およびカウントダウンをアナウンスする通報タイプ。 TYPE2: カウントダウンや猶予秒数の通知など、時間に関するアナウンスを省略した通報タイプ。 TYPE3: カウントダウンを省略した通報タイプ。 TYPE4: 予報の注意喚起だけをアナウンスする通報タイプ。 | |
| 2 | 設定 | ①で選択したタイプを設定します。 予報と警報には同じタイプが設定されます。どちらかで設定したタ イプが両方に反映されます。 | |

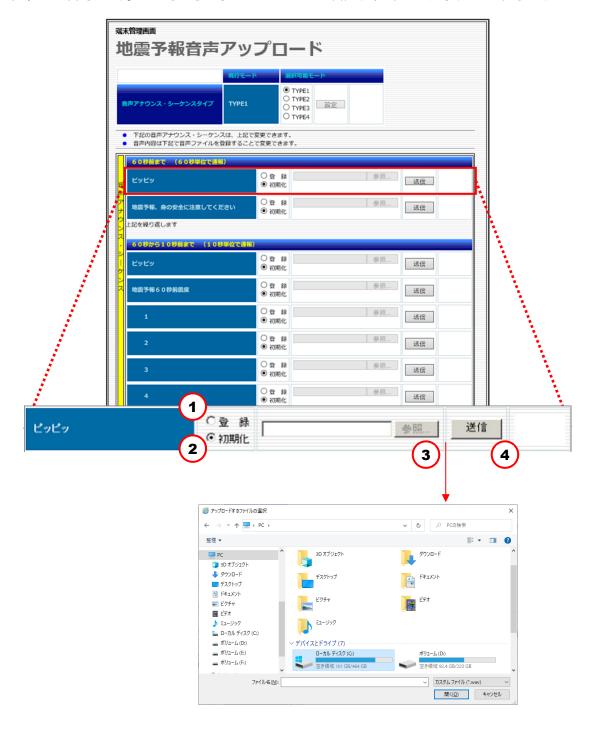
※TYPE1~TYPE4の詳細な内容については、「5-4-3 音声通報のタイプとアナウンスの流れ」を参照してください。

取扱説明書

【音声ファイルのアップロード方法】

次ページより記載されている(4)項から(7)項と(9)項から(12)項までは、お客様が作成したオリジナルの音声メッセージを本装置に登録する画面です。ここでは、オリジナル音声メッセージの登録方法を説明します。

[地震予報音声アップロード] 画面で音声通報のタイプを設定すると、その通報タイプに登録されているすべての音声メッセージが画面上に表示されます。特定のメッセージを変更する場合、以下の方法で、登録されているメッセージとは別の音声ファイルをアップロードします。



| No. | 名称 | 説明 |
|-----|-----|---|
| | | 本装置に音声ファイルを登録するときに選択するラジオボタンです。登録する場合、以下の手順を実行してください。 |
| 1 | 登録 | [登録] (①) をクリックする。 [参照] (③) をクリックする。 表示される画面で、登録する音声ファイルを選択し、[開く]をクリックする。 [送信] (④) をクリックする。 |
| 2 | 初期化 | 音声ファイルを工場出荷時のファイルに戻すときに選択するラジオボタンです。初期化する場合、以下の手順を実行してください。 [初期化](②)をクリックする。 [送信](④)をクリックする。 |
| 3 | 参照 | PC に保存されている音声ファイルを選択する画面を表示します。 |
| 4 | 送信 | 音声ファイルの登録または初期化を実行します。 |

次ページより記載されている(4) \sim (13) の各項では、画面の右横に番号が示してあります。 この番号は、「7-1 音声メッセージ一覧表」の番号と対応しています。

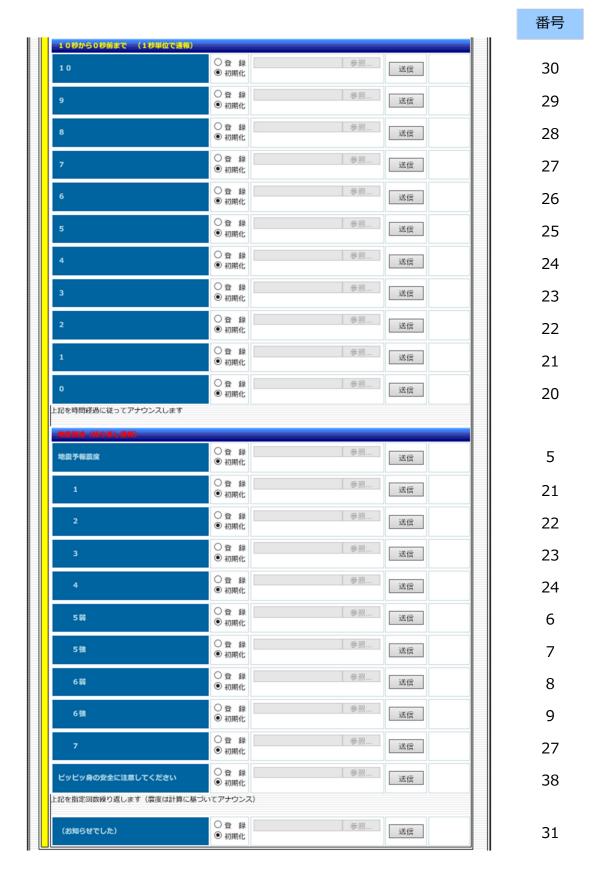
(4) [地震予報音声アップロード] 画面 TYPE1

この画面では、TYPE1 に登録されている予報音声ファイルを変更します。また、変更した音声ファイルを初期化することもできます。

| | | | 在 □ □ |
|------------------------------|----------------|-------|-----------------|
| 60秒前まで (60秒単位で通報) | | | |
| ピッピッ | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | |
| 地震予報、身の安全に注意してください | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | |
| 記を繰り返します | | | |
| 6 0 秒から 1 0 秒前まで (1 0 秒単位で通り | (1) | | |
| ピッピッ | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | |
| 地震予報60秒前震度 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | |
| 1 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送價 | |
| 2 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送價 | |
| 3 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送價 | |
| 4 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送價 | |
| 5 弱 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | |
| 5強 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送價 | |
| 6聯 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送價 | |
| 6強 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | |
| 7 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | |
| 度は、計算結果に基づいてアナウンスします | | | |
| (地震予報、50秒前震度) | ○ 登録 ● 初期化 | 参照 送信 | |
| (地震予報、40秒前震度) | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照送信 | |
| (地震予報、30秒前震度) | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | |
| (地震予報、20秒前震度) | ○ 登録 ● 初期化 | 参照 送信 | |

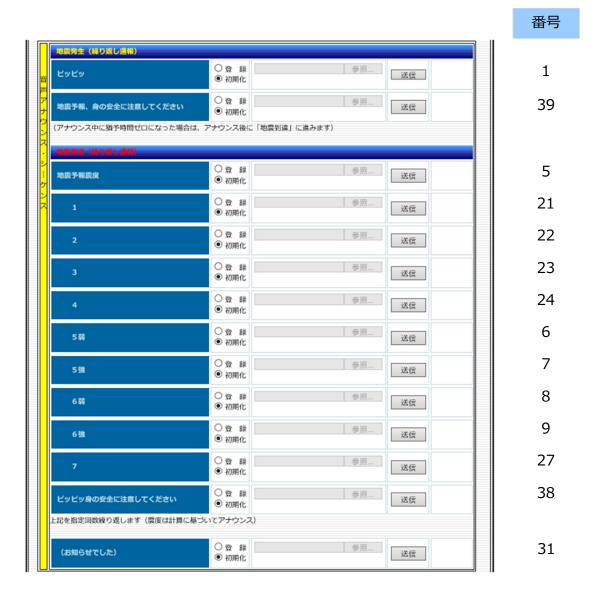
次ページに続く

前ページからの続き



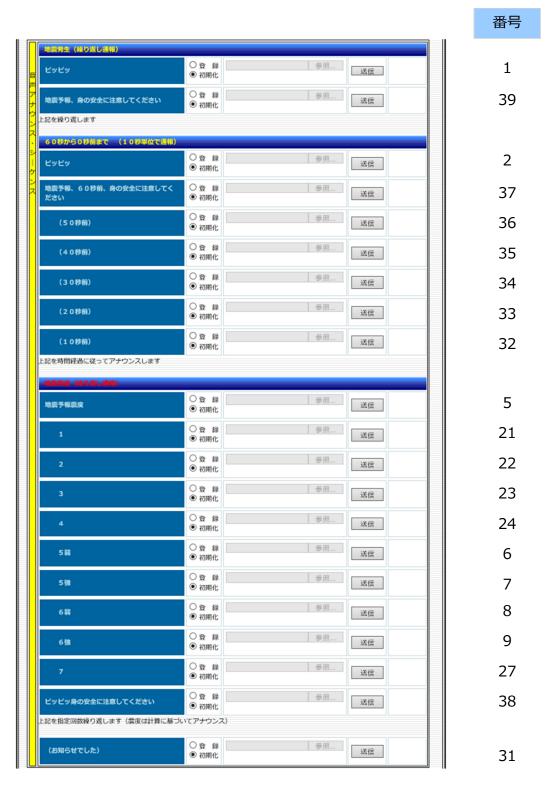
(5) [地震予報音声アップロード] 画面 TYPE2

この画面では、TYPE2 に登録されている予報音声ファイルを変更します。また、変更した音声ファイルを初期化することもできます。



(6) [地震予報音声アップロード] 画面 TYPE3

この画面では、TYPE3 に登録されている予報音声ファイルを変更します。また、変更した音声ファイルを初期化することもできます。



(7) [地震予報音声アップロード] 画面 TYPE4

この画面では、TYPE4 に登録されている予報音声ファイルを変更します。また、変更した音声ファイルを初期化することもできます。



(8) [地震警報音声アップロード] 画面

この画面では、地震警報をアナウンスするシーケンス (流れ) のタイプ (音声通報のタイプ) を設定します (工場出荷時の設定値は TYPE1)。また、シーケンスのタイプごとに、使用する音声 ファイルを変更することもできます。

なお、警報音声ファイルのアップロード方法は、予報音声ファイルのアップロード方法と同じです。アップロード方法の手順については、「(3) [地震予報音声アップロード] 画面」の【音声ファイルのアップロード方法】を参照してください。

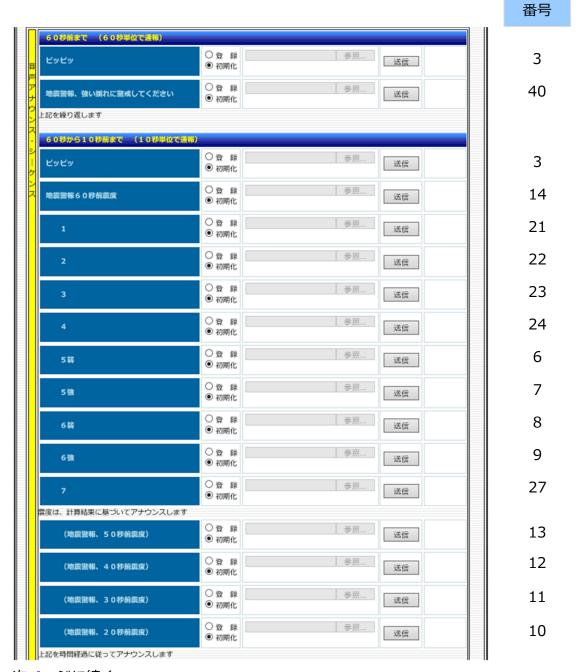


| No. | 名称 | 説明 |
|-----|-----|--|
| 1 | タイプ | 音声通報のタイプを以下の4つの選択肢から選択します。 TYPE1: 警報の注意喚起、警報、予測震度、地震が到達するまでの猶予秒数、およびカウントダウンをアナウンスする通報タイプ。 TYPE2: カウントダウンや猶予秒数の通知など、時間に関するアナウンスを省略した通報タイプ。 TYPE3: カウントダウンを省略した通報タイプ。 TYPE4: 警報の注意喚起だけをアナウンスする通報タイプ。 |
| 2 | 設定 | ①で指定した内容を設定します。 警報と予報は同じタイプになります。どちらかで設定したタイプが両方に反映 されます。 |

※TYPE1~TYPE4の詳細な内容については、「5-4-3 音声通報のタイプとアナウンスの流れ」を参照してください。

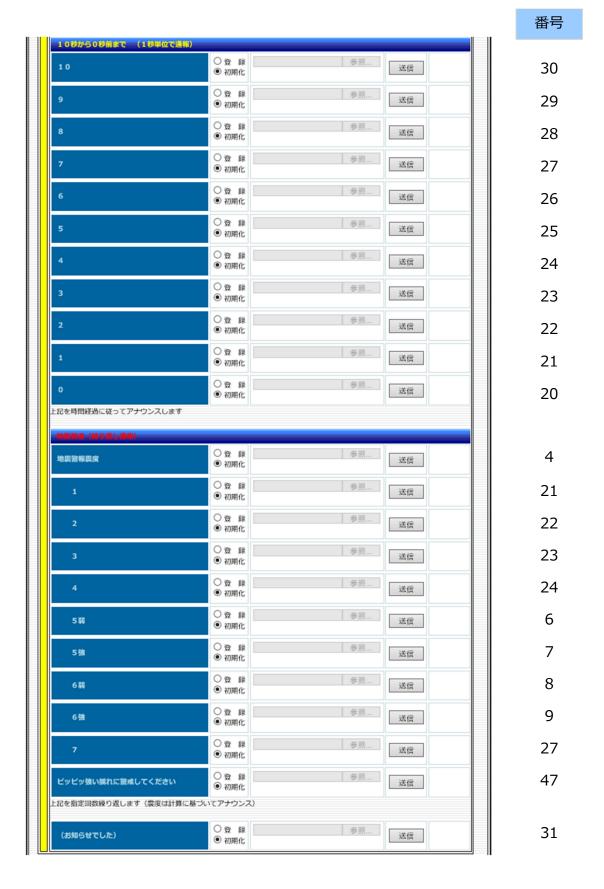
(9) [地震警報音声アップロード] 画面 TYPE1

この画面では、TYPE1 に登録されている警報音声ファイルを変更します。また、変更した音声ファイルを初期化することもできます。



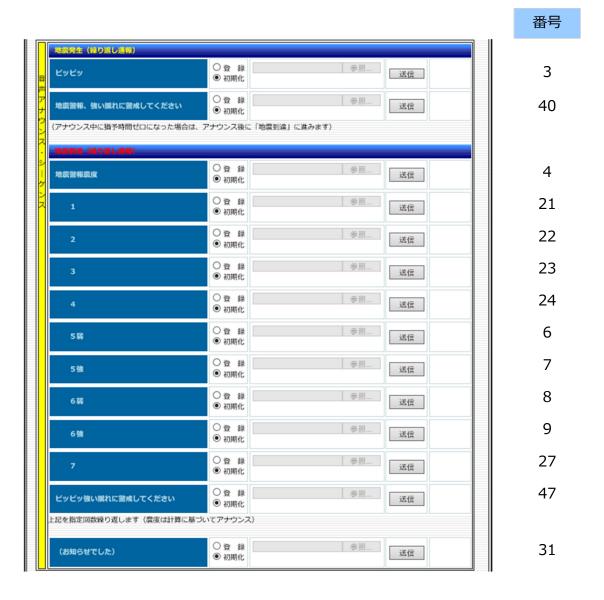
次ページに続く

前ページからの続き



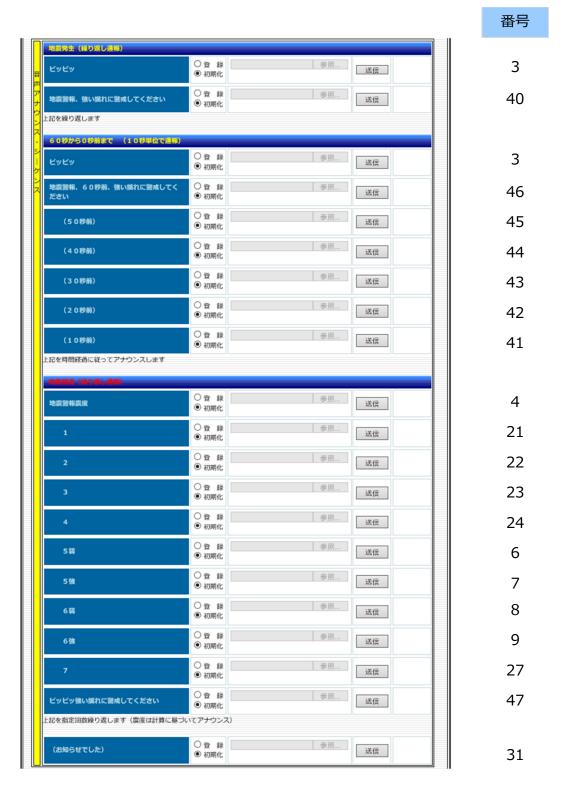
(10) [地震警報音声アップロード] 画面 TYPE2

この画面では、TYPE2 に登録されている警報音声ファイルを変更します。また、変更した音声ファイルを初期化することもできます。



(11) [地震警報音声アップロード] 画面 TYPE3

この画面では、TYPE3 に登録されている警報音声ファイルを変更します。また、変更した音声ファイルを初期化することもできます。



(12) [地震警報音声アップロード] 画面 TYPE4

この画面では、TYPE4 に登録されている警報音声ファイルを変更します。また、変更した音声ファイルを初期化することもできます。



(13) [津波音声アップロード] 画面

この画面で「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」「津波予報」を受信した時に使用する音声ファイルを変更します。



次ページに続く

前ページからの続き

| | | | ш. Э |
|-------|-------------------|-------|------|
| 波注意報 | | | |
| 冒頭音 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 22 |
| 発表報1 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 23 |
| 発表報2 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 24 |
| 発表報3 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 25 |
| 統報1 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 26 |
| 統報 2 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 27 |
| 統報3 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 28 |
| 継続報1 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 29 |
| 継続報 2 | ○ 登録 ● 初期化 | 参照 送信 | 30 |
| 継続報3 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 31 |
| 解除報 | ○ 登録 | 参照 送信 | 32 |
| 波予報 | | | |
| 冒頭音 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 33 |
| 発表報1 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 34 |
| 発表報2 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 35 |
| 発表報3 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 36 |
| 統報1 | ○ 登録 | 参照 送信 | 37 |
| 続報2 | ○ 登録 | 参照 送信 | 38 |
| 統報3 | ○ 登録 | 参照 送信 | 39 |
| 維統報1 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 40 |
| 継続報2 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 41 |
| 継続報3 | ○ 登 録 ● 初期化 | 参照 送信 | 42 |
| | ● #0,9931C | | |

番号

(14) [定時チャイム] 画面

この画面では、定時チャイムを鳴らす時刻 (時分)を曜日ごとに設定します。また、チャイム用の音声ファイルを登録することで、チャイム音を変更できます。



.... 省略 ...



[鳴動時間指定]

| No. | 名称 | 説明 |
|-----|----|---------------------|
| 1 | 分 | チャイムを鳴らす時分の分を指定します。 |
| 2 | 設定 | ①で指定した時刻を設定します。 |

[チャイム音アップロード指定]

| No. | 名称 | 説明 |
|-----|----|--|
| 3 | 登録 | 本装置にチャイム音の音声ファイルを登録するときに選択するラジオボタンです。登録する場合、以下の手順を実行してください。 [登録] (③) をクリックする。 [参照] (⑤) をクリックする。 表示される画面で、登録する音声ファイルを選択し、[開く]をクリックする。 [送信] (⑥) をクリックする。 |

取扱説明書

| No. | 名称 | 説明 |
|-----|-----|--|
| 4 | 初期化 | チャイム音の音声ファイルを工場出荷時のファイルに戻すときに選択するラジオボタンです。初期化する場合、以下の手順を実行してください。 [初期化](④)をクリックする。 [送信](⑥)をクリックする。 |
| (5) | 参照 | PC に保存されているチャイム用の音声ファイルを選択する画面を表示します。選択できる音声ファイル形式は、WAV のモノラル 44100[Hz] 16 ビット形式です。 |
| 6 | 送信 | 登録または初期化を実行します。 |

(15) [通報禁止時間帯設定] 画面

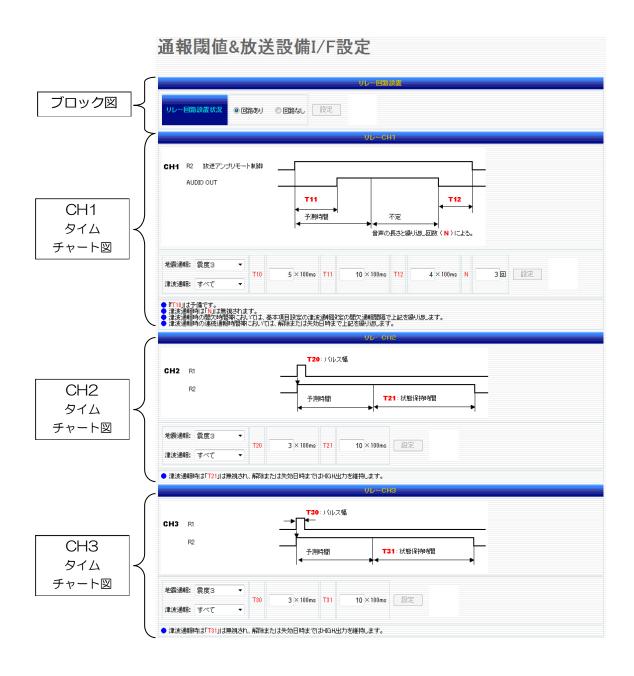
この画面では、通報を禁止したい時間帯を曜日ごとに設定します。



| No. | 名称 | 説明 |
|-----|--------|---|
| 1 | 開始時間 | 通報禁止にする開始時間を 30 分単位で指定します。 |
| 2 | 時間数 | 通報禁止にする時間数を 30 分単位で指定します。 |
| 3 | 設定 | ①と②で指定した通報禁止時間帯を設定します。 |
| 4 | 動作結果表示 | 通報禁止時間帯の設定結果が表示されます。 「OK」と表示された場合は、正常終了です。 |

(16) [通報閾値&放送設備 I/F 設定] 画面

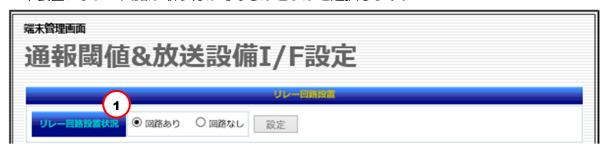
この画面では、本装置に接続する 3 系統(CH1、CH2、CH3)のリレーの動作をそれぞれ設定します。



次ページ以降から上記画面を分割して、設定方法を説明します。「3-4 リレー出力端子に接続」や「5-5 リレー通報」の内容を理解してから設定してください。

[ブロック図]

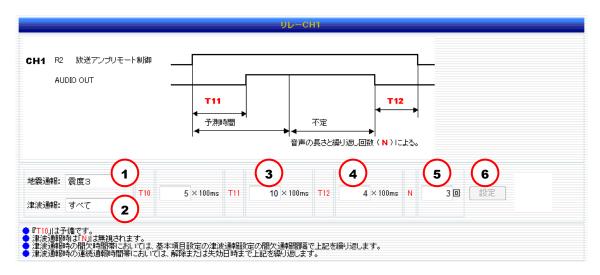
本装置にリレー回路が取り付けてあるかどうかを選択します。



| No. | 名称 | 説明 | |
|-----|-----------|------------------------------|--|
| 1 | リレー回路設置状況 | 現行の専用通報装置では、[回路なし] は選択できません。 | |

[CH1 タイムチャート図]

放送設備に利用する CH1 の動作を設定します。

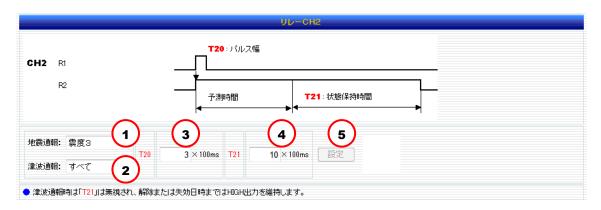


| No. | 名称 | 説明 |
|-----|------|---|
| 1) | 地震通報 | CH1 を制御し音声アナウンスを流す震度を選択します。 [基本項目設定]画面にて指定した地震の[通報閾値]項目と関連づけられています。 |
| 2 | 津波通報 | CH1 を制御し音声アナウンスを流す津波の種別を選択します。 [基本項目設定]画面にて指定した津波の[通報閾値]項目と関連づけられています。 |
| 3 | T11 | 音声の頭切れ防止時間を指定します (入力範囲: 1~999999)。 |
| 4 | T12 | 状態保持時間を指定します (入力範囲: 1~999999)。 |
| (5) | N | 地震が到達してからアナウンスする音声の繰り返し回数を指定します (入力範囲: 1~9999999)。 たとえば、「強い揺れに警戒してください」の音声を繰り返す回数になります。 |
| 6 | 設定 | ①~⑤で指定した内容を設定します。 |

取扱説明書

[CH2 タイムチャート図]

CH2の動作を設定します。



| No. | 名称 | 説明 |
|-----|------|---|
| 1 | 地震通報 | CH2 を制御する地震の震度を指定します。「制御しない」を指定すると動作しません。 |
| 2 | 津波通報 | CH2 を制御する津波の種別を指定します。「制御しない」を指定すると動作しません。 |
| 3 | T20 | パルス幅を指定します (入力範囲: 1~999999)。 |
| 4 | T21 | 状態保持時間を指定します (入力範囲: 1~999999)。 |
| (5) | 設定 | ①~④で指定した内容を設定します。 |

[CH3 タイムチャート図]

CH3の動作を設定します。



| No. | 名称 | 説明 |
|-----|------|---|
| 1 | 地震通報 | CH3 を制御する震度を指定します。「制御しない」を指定すると動作しません。 |
| 2 | 津波通報 | CH3 を制御する津波の種別を指定します。「制御しない」を指定すると動作しません。 |
| 3 | T30 | パルス幅を指定します (入力範囲: 1~999999)。 |
| 4 | T31 | 状態保持時間を指定します (入力範囲: 1~999999)。 |
| 5 | 設定 | ① ~④で指定した内容を設定します。 |

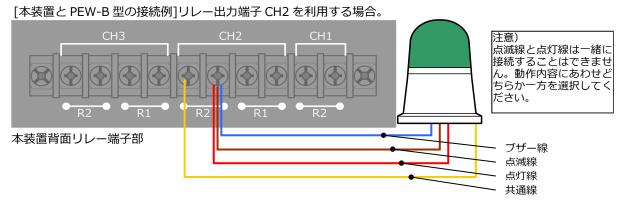
【接続参考例:小型LED表示灯をリレー出力端子に接続する場合】

本装置のリレー出力端子にパトライト社製小型 LED 表示灯(PEW 型、PEW-B 型、PES 型)を接続することができます。

本装置との接続例を以下に示します。 小型 LED 表示灯を点灯(または点滅)させる時間については接続に使用するリレー端子(CH)の設定から指定します。

動作確認は、本機の「試験通報(警報、予報)」機能(「6-2 防災設定 (2) [基本項目設定] 画面」参照)を使用して行います。あらかじめ、試験通報時にも本機がリレー端子を制御するように[訓練・テスト・気象庁訓練報]画面より、該当するリレーCHの選択項目[リレーCH 制御]に「する」が選択されていることを確認しておきます(「6-2 防災設定 (19) [訓練・テスト・気象庁訓練報設定] 画面」参照)。

(1)配線方法



| リード線の色 | リレー出力端子 | 表示灯の動作 | 備考 |
|----------|-------------------------|---------|--------------------|
| 黄色(共通線) | CH2/CH3 の R2 端子(COM) | | |
| 赤色(点灯線) | CH2/CH3 の R2 端子(NO) | 点灯 | 黄色のリード線と同じ CH に接続。 |
| 茶色(点滅) | CH2/CH3 の R2 端子(NO) | 点滅 | 黄色のリード線と同じ CH に接続。 |
| 空色(ブザー線) | CH2/CH3 の R2 端子(NO) | ブザー音の再生 | 黄色のリード線と同じ CH に接続。 |

※PEW型、PES型はブザーが無いため、空色のリード線がありません。

(2)機能設定

小型 LED 表示灯は点灯の他、点滅数を高速(約 180 回/分)、中速(約 120 回/分)、低速(約 60 回/分)の3 段階に内部スイッチを切り替えることで調節できます。調節方法は小型 LED 表示灯の説明書をご参照下さい。

PEW-B 型は大音量ブザーが内蔵されており、小型 LED 表示灯の正面下部にあるつまみをスライドすることで最大 85dB(at 1m)まで調節できます。

取扱説明書

(3)小型 LED 表示灯の仕様

| 型名 | カラー | 音量 | 定格電圧 |
|--|---------|--------------------|--------------------------------------|
| PEW-24 PEW-100 PEW-200 | 赤、黄、緑、青 | - | AC/DC24V,AC100V,AC120V,AC200V,AC230V |
| PEW-24B PEW-100B PEW-200B | 赤、黄、緑、青 | 最大 85dB (at 1m) | AC/DC24V,AC100V,AC120V,AC200V,AC230V |
| PES-24 PES-100 PES-120 PES-200 PES-230 | 赤、黄、緑、青 | - | AC/DC24V,AC100V,AC120V,AC200V,AC230V |

[※]その他製品仕様の詳細についてはパトライト社のホームページ(http://www.patlite.co.jp/)をご参照ください。

(17) [緊急地震速報精度] 画面

この画面では本装置が使用する緊急地震速報の精度と予測手法を指定します。

緊急地震速報の精度は、震源情報の精度を意味し、IPF 法による予測処理に影響します。震源情報を得るための方法としてテリトリー法とグリッドサーチ法が存在しますが、方法により得られる震源情報の精度が異なります。テリトリー法およびグリッドサーチ法の詳細な説明については「7-5 月次報告書の見方」をご参照下さい。

緊急地震速報の予測手法は、本装置が震度等を求めるときに使用する手法を指定します。IPF 法は震源の情報を元に予測し、PLUM 法は新しく 2018 年 3 月 22 日から導入された手法で、近隣の実際の揺れを元に予測します。IPF 法では計算により"震度と猶予秒数"を求めることができますが、PLUM 法では"震度のみ"を求めることができます。得られる結果に違いがあることにご注意ください。



| No. | 名称 | 説明 |
|-----|-------------------------|--|
| 1 | 震央の確からしさ (震源の真上の地表点) | 震央の確からしさに対する地震観測点数を選択します。 地震観測点数が多いと緊急地震速報の精度が高まります。本装置は、ここで指定した観測点未満の地震情報については、予測震度計算を行いません。 |

取扱説明書

| | | 工場出荷時の設定値は、「IPF 法(2 点)以上」です。 ※「IPF 法(1 点)」と「IPF 法(2 点)」はテリトリー法を、「IPF(3 点/4 点)以上」と「IPF 法(5 点)以上」はグリッドサーチ法を意味します。 |
|---|------------|---|
| 2 | 震源深さの確からしさ | 震源深さの確からしさに対する地震観測点数を選択します。この観測点数が多いと緊急地震速報の精度が高まります。本装置は、ここで指定した観測点未満の地震情報については、予測震度計算を行いません。 工場出荷時の設定値は、「IPF 法(2点)以上」です。 ※「IPF 法(1点)」と「IPF 法(2点)」はテリトリー法を、「IPF(3点/4点)以上」と「IPF 法(5点)以上」はグリッドサーチ法を意味します。 |
| 3 | 予測手法 | IPF 法+PLUM 法(ハイブリッド方式): 通報判定に使用する震度を IPF 法と PLUM 法から求め、震度階級が高い方を通報判定処理に使用します。 PLUM 法で求められた震度による通報処理では震度のみを通報処理にてお知らせします。 IPF 法のみ: 通報判定に使用する震度を IPF 法(従来法)だけを使用して求めます。PLUM 法と比較すると予測される震度の精度が若干劣る場合がありますが、地震波が到達するまでの時間を通報処理にてお知らせすることができます。 |
| 4 | 設定 | 指定された内容を設定します。 |

【補足説明】

150 Km 以上深いところが震源地の場合は、通報震度に達しても通報しません。

(18) [警報設備 I/F 設定] 画面

この画面では、パトライト社製のネットワーク監視表示灯を警報設備として利用するための情報を設定します。設定するには、SNMP (Simple Network Management Protocol) の知識が必要です。

基本的には、ネットワーク監視表示灯に規定されている情報を設定しますが、SNMP を用いてネットワーク監視している会社では、コミュニティ名や OID (TRAP 番号) は管理されています。 指定の名称や番号がある場合は、それらを入力してください。また、ネットワーク監視表示灯を利用するには、この画面での設定だけではなく、ネットワーク監視表示灯側での設定も必要です。

本装置に接続できるネットワーク監視表示灯は、NHC-3FB、NHE-3FB、NHM-3FB の 3 製品 (および互換性のある製品)です。本機では、最大 10 個のネットワーク監視表示灯を設定できます。

なお、本機がパトライトに対して OID を送信するタイミングは音声の出力に同期し、パトライトに対して実際に送信する OID (TRAP 番号) には、設定画面より入力した OID の末尾に番号が付与されます。詳細については【接続参考例:ネットワーク監視表示灯を、SNMP 接続を利用して制御する場合】を参照して下さい。

<ネットワーク監視表示灯以外を制御したい場合は... >

本取扱説明書記載以外の機器を SNMP により制御したい場合は、販売店経由でお問い合せ下さい。



| No. | 名称 | 説明 |
|-----|---------|---|
| 1 | コミュニティ名 | SNMP コミュニティ名を入力します。 指定のコミュニティ名がある場合は、その名称を入力してください。パトライト社のデフォルト値は"public"です。 |

取扱説明書

| 2 | IP | ネットワーク す。 | 監視表示灯 | に割り当てられてい | る IP アドレスを <i>入</i> | 、力しま |
|---|-----|--------------|--------------------|--|---------------------|------|
| | | 指定の OID カ | がある場合は れた OID の | の OID (TRAP 番号) は、その番号を入力し O末尾に番号を付与 | してください。 | (トへ送 |
| | | 地震 | 制御開始 | するタイミング (予報) (警報) (キャンセル報) | .1 .2 .3 | |
| 3 | OID | | 制御終了制御開始 | (津波予報) | .9 .11 | |
| | | 津波 | | (津波注意報) (津波警報) (大津波警報) | .12 .13 .14 | |
| | | 1 | | (解除報など) イト側の設定で、番 イベント設定)を定 | | |
| 4 | 設定 | ①~③で指定 | した内容を | 設定します。 | | |

※コミュニティ名やOID についての詳細はパトライト社の購入者専用サイトより資料をダウンロードして下さい。

【接続参考例:ネットワーク監視表示灯を、SNMP接続を利用して制御する場合】

本機は、音声の出力するタイミングに合わせて OID (TRAP 番号) を送信し、パトライトを制御します。この参考例では緊急地震速報を受信したときにパトライトを次のように動作させます。

| 動作種別 | 動作内容 |
|----------|--------------------------|
| 警報通報時 | 音声出力が開始してから、赤色を点滅、黄色を点灯。 |
| 予報通報時 | 音声出力が開始してから、緑色を点滅、黄色を点灯。 |
| キャンセル通報時 | 音声出力が開始してから、赤色、黄色、緑色を点滅。 |
| 通報終了時 | 音声出力の終了に合わせて赤、黄、緑色を消灯。 |

本機からネットワーク経由でネットワーク監視表示灯の制御を行う場合、次の手順で設定作業を行います。

1) 本機とネットワーク監視表示灯で、使用する「コミュニティ名」、「OID(TRAP 番号)」とネットワーク監視表示灯に割り当てる IP アドレスを決定します。

| 項目名 | 設定内容(記入欄) | 備考 |
|--------------|-----------|----------------------|
| コミュニティ名 | | パトライト社の既定値は |
| コミユニティ石 | | 「public」です。 |
| | | IP ネットワークに接続される |
| OID(TRAP 番号) | | 機器の OID は「.1.3.6.1」で |
| | | 始まります。 |
| ネットワーク監視表示灯 | | 本機が送信する OID の宛先と |
| の IP アドレス | | なります。 |

[※]設定時に迷わないために上記表に記入しておくことをお勧めします。

2) SNMP TRAP を受信するようにネットワーク監視表示灯の設定を「受信 TRAP 設定」画面より行います。

| 入力/選択項目名 | 入力する値 | |
|-------------------|--------------------------|--|
| [受信 TRAP コミュニティ名] | 手順 1)で決定したコミュニティ名を入力します。 | |
| [TRAP 受信機能] | 「有効」を選択します。 | |



3) 受信した TRAP 番号に対するネットワーク監視表示灯の動作を「受信 TRAP イベント設定」画面より定義します。

[予報通報時に対する動作]

| 入力/選択項目名 | 入力する値 |
|-----------|---|
| [TRAP番号] | 手順 1)で決定した OID に「.1」を付与した OID を入力します。 |
| [TRAP名] | TRAP 番号で定義する動作の内容がわかるように「警報時動作」などと 名前を入力します。 |
| [IP アドレス] | 本機に設定されている IP アドレスを入力するか「0.0.0.0」とします。 |
| [緑] | 「点滅」を選択します。 |
| [黄] | 「点灯」を選択します。 |
| [TRAP] | 「有効」を選択します。 |



取扱説明書

[警報通報時に対する動作]

| 入力/選択項目名 | 入力する値 |
|-----------|--|
| [TRAP番号] | 手順 1)で決定した OID に「.2」を付与した OID を入力します。 |
| [TRAP名] | TRAP 番号で定義する動作の内容がわかるように「予報時動作」などと |
| | 名前を入力します。 |
| [IP アドレス] | 本機に設定されている IP アドレスを入力するか「0.0.0.0」とします。 |
| [赤] | 「点滅」を選択します。 |
| [黄] | 「点灯」を選択します。 |
| [TRAP] | 「有効」を選択します。 |



[キャンセル通報時に対する動作]

| 入力/選択項目名 | 入力する値 |
|-----------|--|
| [TRAP番号] | 手順 1)で決定した OID に「.3」を付与した OID を入力します。 |
| [TRAP名] | TRAP 番号で定義する動作の内容がわかるように「予報時動作」などと |
| | 名前を入力します。 |
| [IP アドレス] | 本機に設定されている IP アドレスを入力するか「0.0.0.0」とします。 |
| [赤] | 「点滅」を選択します。 |
| [黄] | 「点滅」を選択します。 |
| [緑] | 「点滅」を選択します。 |
| [TRAP] | 「有効」を選択します。 |



[通報終了時の動作]

| 入力/選択項目名 | 入力する値 |
|-------------|--|
| [TRAP番号] | 手順 1)で決定した OID に「.9」を付与した OID を入力します。 |
| [TRAP名] | TRAP 番号で定義する動作の内容がわかるように「通報終了時動作」な |
| | どと名前を入力します。 |
| [IP アドレス] | 本機に設定されている IP アドレスを入力するか「0.0.0.0」とします。 |
| [赤]、[黄]、[緑] | 「消灯」を選択します。 |
| [TRAP] | 「有効」を選択します。 |



4) 本機の設定を [警報設備設定 I/F] 画面より行います。

| 入力/選択項目名 | 入力する値 |
|-----------|---------------------------------|
| [コミュニティ名] | 手順 1)で決定したコミュニティ名を入力します。 |
| [送信先 IP] | 手順 1)で決定したパトライトの IP アドレスを入力します。 |
| [送信先 OID] | 手順 1)で決定した OID(TRAP 番号)を入力します。 |

5) 正しく設定されているか確認するため、本機の「試験通報(警報、予報)」機能 (「6-2 防災設定 (2) [基本項目設定] 画面」参照)を利用して動作確認を行います。動作確認の前には[訓練・テスト・気象庁訓練報]画面(「6-2 防災設定 (19) [訓練・テスト・気象庁訓練報設定] 画面」)より、選択項目[警報設備設定 I/F (SNMP) 制御]に「する」が選択されていることを確認してください。

(19) [訓練・テスト・気象庁訓練報設定] 画面

この画面では、訓練・テスト(試験)通報および気象庁の訓練報の設定をします。



(1)受信設定

訓練・テスト(試験)通報については、受信「する」「しない」などの設定はできません。必ず受信します。気象庁訓練報を本機で受信「する」「しない」を設定します。「しない」に設定した場合は、気象庁訓練報を受信しても通報動作を行いません。

| No. | 名称 | 説明 |
|-----|----------|--------------------------------|
| 1 | 気象庁訓練報受信 | 気象庁が配信する訓練報を受信「する」「しない」を選択します。 |
| 2 | 設定 | ①で指定した内容を設定します。 |

(2)訓練・テスト(試験)通報、気象庁訓練報を受信した時の動作設定

訓練・テスト(試験)通報および気象庁訓練報を受信するにした時の動作を設定します。受信するに設定しても、ここで「しない」に設定した機能は動作しません。

| No. | 名称 | 説明 |
|-----|-------------------|------------------------------|
| 3 | 警報設備設定 I/F (SNMP) | ネットワーク監視表示灯の制御を「する」「しない」を選択し |
| | 制御 | ます。 |
| 4 | リレーCH2 制御 | CH2 の制御を「する」「しない」を選択します。 |
| (5) | リレーCH3 制御 | CH3 の制御を「する」「しない」を選択します。 |
| 6 | テスト通報時の冒頭アナウ | 冒頭アナウンスの有無を指定します。冒頭アナウンスを利用 |
| | ンス | する場合は「する」を選択します。 |
| | | 地震と津波の冒頭アナウンスの内容は次の通りです。 |

| No. | 名称 | 説明 |
|-----|----|------------------------|
| | | [地震の場合] |
| | | 只今から、緊急地震速報の訓練報を通報します。 |
| | | [津波の場合] |
| | | 只今から、津波速報の訓練報を通報します。 |
| 7 | 設定 | ③~⑥で指定した内容を設定します。 |

【補足説明】

音声通報に利用する CH1 は必ず制御します。CH1 について、制御をする・しないの指定はできません。

緊急地震速報を見聞きした際に適切な防災対応をとれるように日頃から訓練をしておくことが、安全確保に大きな効果をもたらすことから、内閣府、気象庁と消防庁が中心となり、毎年11月5日の津波防災の日(世界津波の日)に、緊急地震速報を利用した訓練への参加を呼びかけています。

本装置は、この気象庁の訓練報を受信するか任意に選択できます。受信した際の動作は、設定項目③~⑥に選択された内容の通りとなります。

<緊急地震速報の訓練の実施日時について>

通常、訓練は津波防災の日(11月5日)の午前10時頃に実施されます。当日が土日祝祭日と重なる場合は、近くの平日に変更して実施されます。

津波防災の日は2011年3月11日に発生した東日本大震災を機に、同年6月に制定された国民の生命、身体、財産を保護することを目的とした「津波対策の推進に関する法律」により、11月5日と定められました。

<緊急地震速報の訓練の内容について>

気象庁から日本を縦断するように、北海道から沖縄までの7カ所で、順番に大きな地震が発生した と仮定して、訓練用の緊急地震速報の電文が配信されます。

- 1. 十勝沖 2. 宮城県沖 3. 長野県中部 4. 和歌山県南方沖
- 5. 日向灘 6. 沖縄本島近海 7. 石垣島近海
- ※上記は平成28年迄の例です。詳細は毎年気象庁から発表される内容をご確認ください。

本機は訓練用の電文を受信すると、本番用の緊急地震速報を受信したときと同じように、震度等を予測し、その予測結果に基づき通報を行います。

日本全国に対してほぼ間違いなく震度5弱以上の揺れが到達いたしますが、訓練用に発生した地震と本機をお使いの場所の位置関係により、訓練時に通報される内容(予測震度、猶予秒数)はお客様ごとに異なります(本機をお使いのお客様に対して一律に同じ内容で通報されることはありません)。

訓練時にどのような通報内容になるのかを確認されたい場合は、お買い求めいただいた販売店へお問い合わせ下さい。

(20) [津波音声通報の停止・再開] 画面

Web 画面左側のメニューから[津波連続通報停止]をクリックすると、現在の通報を停止します。 ただし、間欠通報間隔に指定した時間数を経過すると再び通報されます。

通報中の津波に対する通報を取りやめるためには、間欠通報間隔と連続通報時間帯にそれぞれ「0」を設定し、本機を再起動させて下さい(「6-2 防災設定(2) [基本項目設定] 画面」参照)。



この機能は津波の通報処理に対するものであり、地震の通報を停止することはできません。

| No. | 名称 | 説明 |
|-----|---------|---|
| 1 | 音声通報の停止 | 再生中の音声出力を停止します。ただし、間欠通報間隔に指定した時間数を経過すると再び音声通報されます。 通報処理中の津波に対する通報を取りやめるためには、間欠通報間隔と連続通報時間帯にそれぞれ「0」を設定し、本機を再起動させて下さい(「6-2 防災設定 (2) [基本項目設定] 画面」参照)。 |
| 2 | 音声通報の再開 | 停止中の音声出力処理を再開します。 |

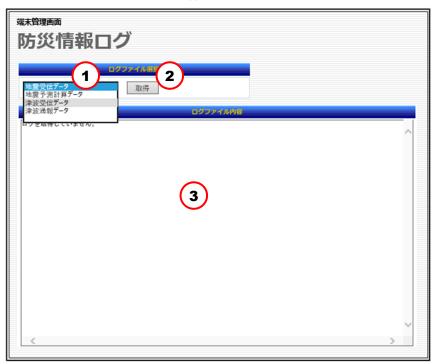
6-3 防災情報履歴

(1) [防災情報ログ] 画面

本装置が受信した緊急地震速報のデータ、および受信した緊急地震速報をもとに本装置が計算した通報データは、本装置にログとして記録されています。

この画面では、本装置に記録されているこれらのログを確認します。

なお、この画面は本装置の保守のために利用します。

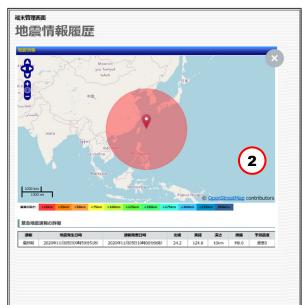


| No. | 名称 | 説明 |
|-----|--------|--|
| 1) | 種別選択 | 取得するログの種別を以下の4つの選択肢の中から選択します。 ・地震受信データ: 本装置が受信した緊急地震速報データのログ。 ・地震予測計算データ: 受信した緊急地震速報のデータをもとに地震予測計算をしたデータのログ。 ・津波受信データ: 本装置が受信した津波警報・注意報、津波予報データのログ。 ・津波通報データ: 受信した津波警報・注意報、津波予報のデータをもとに通知処理したデータのログ。 |
| 2 | 取得ボタン | ①で選択した種別の口グを取得します。 |
| 3 | ログ表示領域 | 取得したログが表示されます。 |

(2) [地震情報履歴] 画面

この画面では、過去に受信した緊急地震速報を利用して、発生した地震の情報を確認することができます。



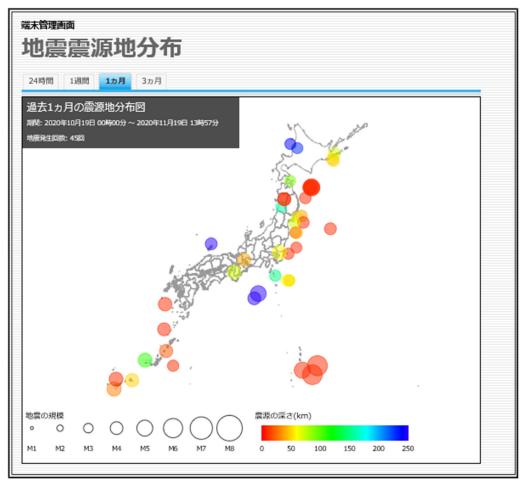


| No. | 名称 | 説明 |
|-----|------|---|
| 1 | 履歴一覧 | 本装置が受信した地震を一覧表示します。地震発生日時をクリック すると別ウィンドウに詳細な地震の情報を表示します。 |
| 2 | 地震情報 | 履歴一覧で選択された地震の詳細情報を表示します。画面上部の地図上に震源地が表示され、画面下部に震源地の詳細情報が表示されます。 |

(3) [地震震源地分布] 画面

この画面では、過去に受信した緊急地震速報を利用して、現在から過去 24 時間、1 週間、1 ヶ月、3 ヶ月の期間ごとに、発生した地震の分布図を確認することができます。

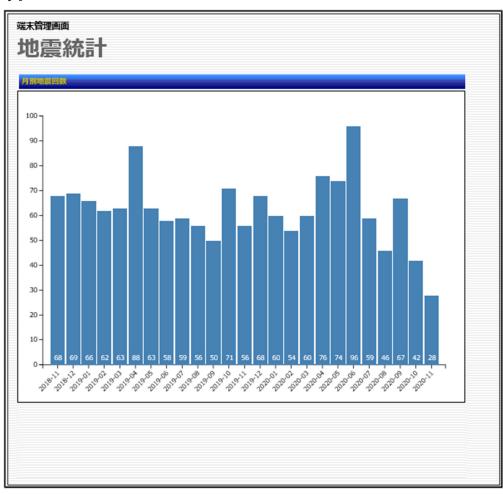
地図上に表示された円が震源の位置を示します。円の大きさが震源のエネルギー (マグニチュード) の大きさを、円の色が震源の深さを示します。



(4) [地震統計] 画面

この画面では、過去に受信した緊急地震速報を利用して、月単位で発生した地震の回数を棒グラフで確認することができます。

棒グラフをクリックすると、クリックした棒グラフの年月に対応する震源地分布図を表示します。



(5) [津波情報履歴] 画面

この画面では、過去に受信した津波情報を利用して、発生した津波の情報を確認することができます。





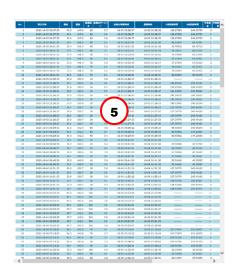
| No. | 名称 | 説明 |
|-----|------|---|
| 1 | 履歴一覧 | 本装置が受信した津波情報を一覧表示します。津波情報の発生日時 (気象庁発表日時)をクリックすると別ウィンドウに詳細な津波の 情報を表示します。 |
| 2 | 津波情報 | 履歴一覧で選択された津波の詳細情報を表示します。画面上部の地図上に津波が到達する場所が表示され、画面下部に津波情報の詳細情報が表示されます。 |

(6) [月次報告書] 画面

本装置内に記録されている緊急地震速報の受信結果や動作結果などのログ情報を「月次報告書」としてこの画面から確認します。

なお月次報告書は CSV 形式のファイルとしてダウンロードすることもできます。エクセルなどで自由に加工して使用することができます。





| No. | 名称 | 説明 |
|-----|-------|---|
| 1 | 報告書種別 | 表示する月次報告書の種別を以下の選択肢の中から選択します。 ・地震月次報告書 緊急地震速報に対する受信結果や動作結果を表示します。 ・津波月次報告書 津波警報・注意報、津波予報に対する受信結果や動作結果を表示します。 |
| 2 | 年月 | 月次報告書として表示する期間の年を、西暦4桁の半角数字で指定します。 入力は半角数字で行います。 月次報告書として表示する期間の年を西暦4桁の半角数字で、月を2桁の半角数字で指定します。 指定した年月が過去の年月ではなく、操作日時が属する年月の場合、その月の1日から操作日時までの情報が表示されます。 例)操作日時までの情報が表示されます。 例)操作日時までの11日13:46 指定年月:2013年2月1日13:46 指定年月:2013年2月 表示されるログの期間:2013年2月1日から2013年2月11日 13時46分までの情報が表示されます。 |

| 3 | 表示 | ①②で指定した年月のログを別ウィンドウに表示します。 |
|-----|--------|--|
| 4 | CSV 出力 | ①②で指定した年月のログを CSV ファイルに書き出します。 |
| (5) | 月次報告書 | ①②で指定した年月のログが月次報告書として別ウィンドウ内に表示されます。表示される項目は①で選択した報告書の種別により変わります。 各項目の説明は「7-5 月次報告書の見方」をご参照下さい。 |

6-4 ネットワーク設定

(1) [インターフェース設定] 画面

この画面では、本装置をネットワークに接続するための情報を設定します。





※各項目の上でマウスカーソルを静止させると、項目の補足説明が表示されます。

| No. | 名称 | 説明 |
|-----|-------------|---|
| 1) | インターフェース | 通常は eth0(LAN ポート)を指定します。 (eth1(設定用 LAN ポート)は専門技術員の下で指定します) |
| 2 | 接続形態 | 本装置に割り当てる IP アドレスの取得方法を設定します。 任意の固定 IP アドレスを割り当る場合は「手動設定」、DHCP サービスを利用して自動で割り当てる場合は「DHCP 経由で設 定」を選択します。 固定 IP アドレスを使用する場合、接続するネットワークに存在 する他の機器と重複しない IP アドレスを使用して下さい。ま た、設定した IP アドレスは忘れないようにして下さい。 |
| 3 | IP アドレス | 「手動設定」の場合、本装置の IP アドレスを入力します。 |
| 4 | ネットマスク | 「手動設定」の場合、ネットマスクを入力します。 |
| (5) | デフォルトゲートウェイ | 「手動設定」の場合、デフォルトゲートウェイを入力します。 ネットワーク番号の異なるゲートウェイは指定することができ ません。 |
| 6 | DHCP オプション | 通常はチェックボックスにチェックは入れないでください。 (接続異常等において、専門技術員の下で使用します) |

| 7 | DNS サーバー (1) | プライマリ DNS サーバーの IP アドレスを入力します。 |
|---|--------------|--------------------------------|
| 8 | DNS サーバー (2) | セカンダリ DNS サーバーの IP アドレスを指定します。 |
| 9 | 設定 | ①~⑦で指定した内容を設定します。 |

(2) [プロキシー設定] 画面

この画面では、プロキシサーバーを経由してインターネットに接続する必要がある場合に、そのプロキシサーバーの情報を設定します。また、プロキシサーバー経由のインターネット接続をテストします。なお、この画面を利用するには、プロキシサーバーの知識が必要です。



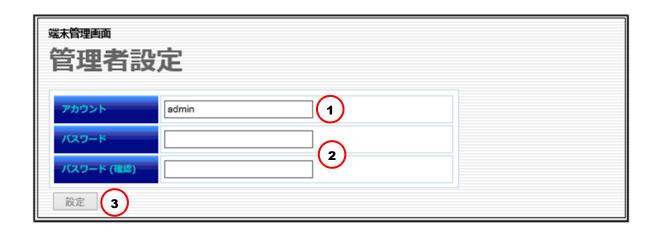
| No. | 名称 | 説明 |
|-----|--------------|---|
| 1 | プロキシサーバー | プロキシサーバーを使う・使わないを選択します。[使わない] を選択した場合は、②以降を設定する必要はありません。 |
| 2 | プロキシサーバーIP | プロキシサーバーの IP アドレスを入力します。 |
| 3 | プロキシサーバーPort | プロキシサーバーに接続するポート番号を入力します。 |
| 4 | 認証方式 | プロキシサーバーヘアクセするための認証方式を選択します。 [none]を選択した場合、⑤と⑥の入力は必要ありません。 none: 認証なし。 basic: ベーシック認証方式。HTTPプロトコルが備える、最も基本的なユーザー認証方式です。 |
| (5) | 認証ユーザー名 | 認証に使用するユーザー名を入力します(最大入力可能文字数: 128 文字以内を推奨)。 |
| 6 | 認証パスワード | 認証に使用するパスワードを入力します(最大入力可能文字数: 128 文字以内を推奨)。 |
| 7 | 設定 | ①~⑥で指定した内容を設定します。 |

| No. | 名称 | 説明 |
|-----|---------------|--|
| 8 | I ナ ス ト U K I | プロキシサーバー経由のアクセステストに使用する URL を指定します。 |
| 9 | | テスト URL にプロキシサーバー経由でアクセスします。 エラーがある場合は、表示されるメッセージに 「ERROR」 が表示され ます。 |

6-5 保守・運用

(1)[管理者設定]画面

この画面では、Web 画面にログインするためのアカウントを設定します。



| No. | 名称 | 説明 |
|-----|-------|---|
| 1 | アカウント | Web 画面にログインするアカウントを入力します (最大入力可能文字数: 半角 128 文字以内を推奨)。 工場出荷時の設定値は、「admin」です。 |
| 2 | パスワード | パスワードを入力します (最大入力可能文字数: 半角 128 文字以内を推奨)。 確認用に、[パスワード (確認)] にも入力が必要です。 工場出荷時の設定値は、「admin」です。 |
| 3 | 変更 | アカウントとパスワードを登録します。 |

(2) [システム情報ログ] 画面

この画面では、本装置に記録されているログファイルの内容を確認します。なお、この画面は保守のために使用します。ログファイルの内容を理解するには、OS (オペレーティングシステム)の基盤となる中核ソフトウェアである、Linux の知識が必要です。



| No. | 名称 | 説明 |
|-----|----------|---|
| | | 取得するログの種別を以下の4種類の中から選択します。 |
| | | 全て (everything): 本装置のシステムログ。 |
| 1 | 口グ種別 | カーネル関係 (kernel) : OS (オペレーティングシステム) のカーネルログ。 |
| | | SSH 関係 (sshd): セキュアーシェルを利用して、ネットワーク経由で本装置に接続したと きの動作ログ。 |
| 2 | 取得 | ①で選択したログ種別のログファイルを取得します。 |
| 3 | ログファイル内容 | ② により取得されたログが表示されます。 |

(3) [Ping 疎通テスト] 画面

この画面では、ネットワークの疎通確認を行います。



| No. | 名称 | 説明 |
|-----|---------------------|---|
| 1 | ホスト選択/ アドレス指定 | 本装置と疎通を確認したいホストの IP アドレスを指定します。 手動で入力する場合は、以下の手順を実行してください。 [木スト選択] から [手入力] を選択する。 [アドレス指定] に IP アドレスを入力する。 [実行] をクリックする。 ホストが登録済みの場合は、以下の手順を実行してください。 [木スト選択] から、登録済みのホストを選択する。 [実行] をクリックする。 |
| 2 | 実行 | 指定されたホストに対して本装置から PING による通信を行います。 PING の結果は別ウィンドウに表示されます。 |
| 3 | ホスト設定 (ping 先登録) | 本装置との疎通を確認したいホストと、その IP アドレスを登録します。ここで登録したホストは、[ホスト選択] で選択できます。以下の手順を実行してください。 [追加]をクリックする。 表示される画面で対象のホストを選択する。 |
| 4 | 設定 | 追加したホストを永続的に保存します。永続的な保存をしない場合、別 画面へ遷移した時など、追加されたホストの情報が消去されます。 |

(4) [装置の停止・再起動] 画面

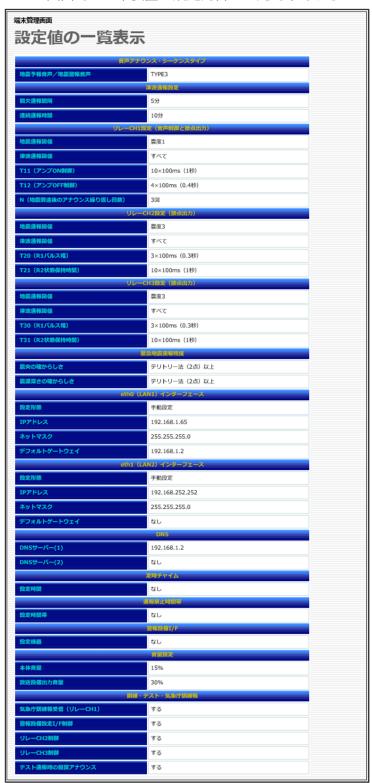
この画面では、本装置の停止または再起動を行います。Web 画面での設定が終わったら、この画面を使って、本装置を再起動してください。



| No. | 名称 | 説明 |
|-----|--------|---|
| 1 | 装置の停止 | 本装置を停止し、取り外しができる状態にします。 Windows のシャットダウンに相当します。 停止処理中に本機の設定情報を記録するため、電源ランプが消灯するまでは、コンセントを抜かないで下さい。 本装置を停止後、起動をする為には電源コンセントの抜き差しが必要となりますので、ご注意ください。 |
| 2 | 装置の再起動 | 本装置を停止後、再起動します。 |

(5) [設定値の一覧表示] 画面

この画面では、本装置の設定内容を一覧で確認することができます。



(6) [設定値の保存・復元] 画面

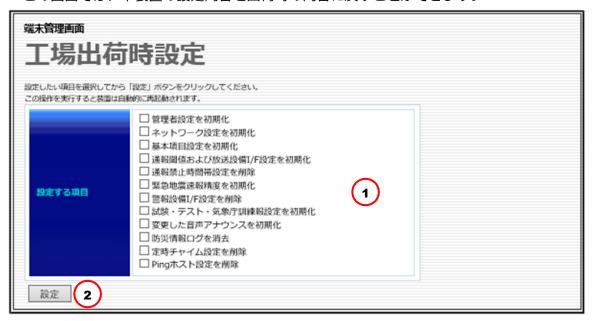
この画面では、本装置の設定内容をファイルに保存する、またはファイルから設定内容を読み 込み復元することができます。



| No. | 名称 | 説明 |
|-----|-----------|---|
| 1 | 保存 | 本装置の設定内容をファイルに保存します。 |
| 2 | 復元する項目 | 復元対象とする項目にチェックマークをつけて選択します。 |
| 3 | 設定値記録ファイル | 本装置の設定内容が記述されたファイルを指定します。 |
| 4 | 復元 | 設定値記録ファイルから読み込んだ設定内容を本装置に適用します。 適用後、設定を有効とするために本装置を再起動します。 |

(7) [工場出荷時設定] 画面

この画面では、本装置の設定内容を出荷時の内容に戻すことができます。



| No. | 名称 | 説明 |
|-----|--------|---|
| 1 | 設定する項目 | 工場出荷時の設定に戻す項目にチェックマークをつけて選択します。 |
| 2 | 設定 | 工場出荷時の設定内容を、選択した項目に適用します。 適用後、設定を有効とするために本装置を再起動します。 |

(8) ログアウト

Web 画面左側のメニューから[ログアウト]をクリックすると、ログアウト確認のウィンドウが表示されます。

表示されたウィンドウ内の[Yes]をクリックすると Web 操作を終了し、ログイン画面に戻ります。



7 付録

7-1 音声メッセージー覧表

本装置に登録してある音声メッセージを以下のメッセージ一覧表に示します。これらのメッセージの組み合わせによって、音声通報は行われます。

計画秒数 登録できるメッセージの最大秒数

実測秒数 実際に本装置に登録してあるメッセージの秒数

【地震メッセージ一覧表】

| 番号 | 計画 | 実測 秒数 | 内容 | 読み |
|----|-----|----------|-----------------|-----------------------------|
| 1 | 4 | 1.9 | 予報アラーム♪ (REIC音) | プワ、プワ |
| 2 | 4 | 2.9 | 予報アラーム♪ (REIC音) | プワ、プワ、プワ |
| 3 | 4 | 3.3 | 警報アラーム♪ (NHK 音) | ピロン、ピロン |
| 4 | 2.5 | 1.9 | 地震警報震度 | じしん けいほう しんど |
| 5 | 2.5 | 1.9 | 地震予報震度 | じしん よほう しんど |
| 6 | 1.5 | 0.6 | 震度 5 弱 | しんど ご じゃく |
| 7 | 1.5 | 0.6 | 震度 5 強 | しんど ご きょう |
| 8 | 1.5 | 0.9 | 震度 6 弱 | しんど ろく じゃく |
| 9 | 1.5 | 0.9 | 震度 6 強 | しんど ろく きょう |
| 10 | 5.0 | 3.0 | 地震警報 20 秒前震度 | じしん けいほう にじゅう びょう まえ しんど |
| 11 | 5.0 | 3.2 | 地震警報 30 秒前震度 | じしん けいほう さんじゅう びょう まえ しんど |
| 12 | 5.0 | 3.2 | 地震警報 40 秒前震度 | じしん けいほう よんじゅう びょう まえ しんど |
| 13 | 5.0 | 3.1 | 地震警報 50 秒前震度 | じしん けいほう ごじゅう びょう まえ しんど |
| 14 | 5.0 | 3.1 | 地震警報 60 秒前震度 | じしん けいほう ろくじゅう びょう まえ しんど |
| 15 | 5.0 | 3.0 | 地震予報 20 秒前震度 | じしん よほう にじゅう びょう まえ しんど |
| 16 | 5.0 | 3.0 | 地震予報 30 秒前震度 | じしん よほう さんじゅう びょう まえ しんど |
| 17 | 5.0 | 3.0 | 地震予報 40 秒前震度 | じしん よほう よんじゅう びょう まえ しんど |
| 18 | 5.0 | 3.1 | 地震予報 50 秒前震度 | じしん よほう ごじゅう びょう まえ しんど |
| 19 | 5.0 | 3.0 | 地震予報 60 秒前震度 | じしん よほう ろくじゅう びょう まえ しんど |
| 20 | 0.5 | 0.4 | 0 | ぜろ |
| 21 | 0.5 | 0.5 | 1 | いち |
| 22 | 0.5 | 0.3 | 2 | (|
| 23 | 0.5 | 0.5 | 3 | さん |
| 24 | 0.5 | 0.5 | 4 | よん |
| 25 | 0.5 | 0.3 | 5 | ご |

| | 計画 | 実測 | | |
|-----|-----|----------------------|----------------------------|--|
| 番号 | 秒数 | _天 삕 秒数 | 内容 | 読み |
| 26 | 0.5 | 0.5 | 6 | ろく |
| 27 | 0.5 | 0.5 | 7 | なな |
| 28 | 0.5 | 0.5 | 8 | はち |
| 29 | 0.5 | 0.4 | 9 | きゅう |
| 30 | 0.5 | 0.5 | 10 | じゅう |
| 31 | 10 | 0.5 | お知らせでした | おしらせでした |
| 32 | 5 | 4.4 | 地震予報 10 秒前 身の安全に注意してください | じしん よほう じゅうびょう まえ みの あんぜんに ちゅうい してください |
| 33 | 5 | 4.4 | 地震予報 20 秒前 身の安全に注意してください | じしん よほう にじゅうびょう まえ み のあんぜん にちゅうい してください |
| 34 | 5 | 4.5 | 地震予報 30 秒前 身の安全に注意してください | じしん よほう さんじゅうびょう まえ みのあんぜん にちゅうい してください |
| 35 | 5 | 4.5 | 地震予報 40 秒前 身の安全に注意してください | じしん よほう よんじゅうびょう まえ みのあんぜん にちゅうい してください |
| 36 | 5 | 4.4 | 地震予報 50 秒前 身の安全に注意してください | じしん よほう ごじゅうびょう まえ みのあんぜん にちゅうい してください |
| 37 | 5 | 4.5 | 地震予報 60 秒前 身の安全に注意してください | じしん よほう ろくじゅうびょう まえみのあんぜん にちゅうい してください |
| 38 | 7 | 5.5 | 予報アラーム♪身の安全に注意してください | プワ、プワ、プワ みのあんぜんに ちゅうい |
| 39 | 10 | 3.4 | 地震予報 身の安全に注意してください | じしん よほう みのあんぜんに ちゅうい してください |
| 40 | 10 | 3.4 | 地震警報 強い揺れに警戒してください | じしん けいほう つよい ゆれに けいか い してください |
| 41 | 5 | 4.5 | 地震警報 10 秒前 強い揺れに警戒してください | じしん けいほう じゅうびょう まえ つよい ゆれに けいかい してください |
| 42 | 5 | 4.5 | 地震警報 20 秒前 強い揺れに警戒してください | じしん けいほう にじゅうびょう まえつよい ゆれに けいかい してください |
| 43 | 5 | 4.6 | 地震警報 30 秒前 強い揺れに警戒してください | じしん けいほう さんじゅうびょう まえつよいゆれに けいかい してください |
| 44 | 5 | 4.6 | 地震警報 40 秒前 強い揺れに警戒してください | じしん けいほう よんじゅうびょう まえつよいゆれに けいかい してください |
| 45 | 5 | 4.5 | 地震警報 50 秒前 強い揺れに警戒してください | じしん けいほう ごじゅうびょう まえつ よいゆれに けいかい してください |
| 46 | 5 | 4.6 | 地震警報 60 秒前 強い揺れに警戒してください | じしん けいほう ろくじゅうびょう まえつよいゆれに けいかい してください |
| 47 | 7 | 5.5 | 警報アラーム♪強い揺れに警戒してください | ピロン、ピロンつよい ゆれに けいかい してください |
| 48 | 5 | | キャンセル情報です | キャンセル じょうほう です |
| 49 | 6 | | 只今から、緊急地震速報の訓練報を通報します | ただいまから きんきゅうじしそくほう の くんれんほう を つうほうします |
| 50 | 10 | | 只今のは訓練通報でした | ただいまのは くんれんつうほう でした |
| 5 5 | | |) (40 40 F0) の辛吉コッノル(†亦東本き | |

注意事項: 上表の最後の3つ (48、49、50) の音声ファイルは変更できません。

【津波メッセージ一覧表】

| No. | 沣 | ⋭波種別 | 計画 | 実測 秒数 | 内容 | 読み |
|-----|----|-------|----|-------|---------------------------|----------------------------------|
| 1 | | 冒頭音 | 5 | | アラーム♪ | ウー |
| 2 | | 発表報1 | 5 | | 大津波警報が発表されました | おおつなみけいほうが はっぴょうされました |
| 3 | | 発表報2 | 5 | | 甚大な被害が発生します | じんだいなひがいが はっせい します |
| 4 | | 発表報3 | 5 | | 直ちに高台や避難ビルなどに 避難してください | ただちに たかだいやひなんび るなどに ひなんしてください |
| 5 | 大津 | 続報1 | 5 | | 大津波警報へ切り替わりまし た | おおつなみけいほうへ きりか わりました |
| 6 | 波警 | 続報 2 | 5 | | 甚大な被害が発生します | じんだいなひがいが はっせい します |
| 7 | 報 | 続報 3 | 5 | | 直ちに高台や避難ビルなどに 避難してください | ただちに たかだいやひなんび るなどに ひなんしてください |
| 8 | | 継続報1 | 5 | | 大津波警報が発表されていま す | おおつなみけいほうが はっぴょうされています |
| 9 | | 継続報2 | 5 | | 甚大な被害が発生します | じんだいなひがいが はっせい します |
| 10 | | 継続報3 | 5 | | 直ちに高台や避難ビルなどに 避難してください | ただちに たかだいやひなんび るなどに ひなんしてください |
| 11 | | 冒頭音 | 5 | | アラーム♪ | ウー |
| 12 | | 発表報 1 | 5 | | 津波警報が発表されました | つなみけいほうが はっぴょう されました |
| 13 | | 発表報 2 | 5 | | 津波による被害が発生します | つなみによる ひがいがはっせ いします |
| 14 | | 発表報3 | 5 | | 直ちに高台や避難ビルなどに 避難してください | ただちに たかだいやひなんび るなどに ひなんしてください |
| 15 | 津 | 続報1 | 5 | | 津波警報へ切り替わりました | つなみけいほうへ きりかわり ました |
| 16 | ~— | 続報 2 | 5 | | 津波による被害が発生します | つなみによる ひがいがはっせ いします |
| 17 | | 続報 3 | 5 | | 直ちに高台や避難ビルなどに 避難してください | ただちに たかだいやひなんび るなどに ひなんしてください |
| 18 | | 継続報1 | 5 | | 津波警報が発表されています | つなみけいほうが はっぴょう されています |
| 19 | | 継続報 2 | 5 | | 津波による被害が発生します | つなみによる ひがいがはっせ いします |
| 20 | | 継続報3 | 5 | | 直ちに高台や避難ビルなどに 避難してください | ただちに たかだいやひなんび るなどに ひなんしてください |
| 21 | | 解除報 | 5 | | 津波警報が解除されました | つなみけいほうが かいじょさ れました |
| 22 | | 冒頭音 | 5 | | アラーム♪ | ウー |
| 23 | | 発表報 1 | 5 | | 津波注意報が発表されました | つなみちゅういほうが はっぴょううされました |
| 24 | | 発表報2 | 5 | | 海の中や海岸付近は危険です | うみのなかやかいがんふきんは きけんです |

| | | | | | | 取扱説明書 |
|----|-------|---------------|---|---|---------------------------------|--|
| 25 | | 発表報3 | 5 | | | ただちに うみからあがって かいがんからはなれてください |
| 26 | | 続報 1 | 5 | | 津波注意報へ切り替わりまし | |
| 27 | | 続報 2 | 5 | | ,c 海の中や海岸付近は危険です | うみのなかやかいがんふきんは きけんです |
| 28 | 津 | 続報 3 | 5 | | 直ちに海から上がって海岸か ら離れてください | ただちに うみからあがって かいがんからはなれてください |
| 29 | 津波注意報 | 継続報 1 | 5 | | | つなみちゅういほうが はっぴょうされています |
| 30 | 報 | <u></u> 継続報 2 | 5 | | ッ 海の中や海岸付近は危険です | うみのなかやかいがんふきんは きけんです |
| 31 | | 継続報3 | 5 | | し 直ちに海から上がって海岸から離 | ただちに うみからあがって か |
| 22 | | 42.R今寺C | | | れてください | いがんからはなれてください つなみちゅういほうが かいじょ |
| 32 | | 解除報 | 5 | | 津波注意報が解除されました | されました |
| 33 | | 冒頭音 | 5 | | アラーム♪ | ピンポン |
| 34 | | 発表報1 | 5 | | 津波予報が発表されました | つなみよほうが はっぴょうされ ました |
| 35 | | 発表報2 | 5 | | 若干の海面変動が予想されます が、被害の心配はありません | じゃっかんのかいめんへんどうが よそうされますが ひがいのしん ぱいはありません |
| 36 | | 発表報 3 | - | | | |
| 37 | | 続報 1 | 5 | | 津波予報へ切り替わりました | つなみよほうへ きりかわりまし た |
| 38 | 津波予報 | 続報 2 | 5 | | 若干の海面変動が予想されます が、被害の心配はありません | じゃっかんのかいめんへんどうが よそうされますが ひがいのしん ぱいはありません |
| 39 | | 続報 3 | - | - | | |
| 40 | | 継続報1 | 5 | | 津波予報が発表されています | つなみよほうが はっぴょうされ ています |
| 41 | | 継続報2 | 5 | | 若干の海面変動が予想されます が、被害の心配はありません | じゃっかんのかいめんへんどうが よそうされますが ひがいのしん ぱいはありません |
| 42 | | 継続報3 | - | - | | |
| 43 | | 解除報 | 5 | | 津波予報が解除されました | つなみよほうが かいじょされま した |
| 44 | | | 5 | | 只今から津波速報の訓練報を通報 します | ただいまから つなみそくほうの くんれんほうを つうほうします |
| 45 | | | 5 | | - マー・ | ただいまのは くんれんほうでした |
| | | | | | | ,,, |

-注意事項: 上表の最後の2つ (44、45) の音声ファイルは変更できません。

7-2 工場出荷時の設定値

本装置の工場出荷時の設定値を以下に示します。

背景色が濃い色(紫色)の設定項目は津波情報配信サービスをご契約いただいたお客様のみ有 効な項目です。

出荷時の設定を変更した場合は、変更後の欄に変更した設定内容を記録しておくことをお勧めします。

| No. | | 設定項目 | 設定値 | 変更後 |
|-----|------------------|--------------------------------|---------------|-----|
| 1 | | アカウント | admin | |
| 2 | ログイン | パスワード | admin | |
| 3 | 音声アナウンス・ | 地震予報音声 | TYPE1 | |
| 4 | シーケンスタイプ | 地震警報音声 | TYPE1 | |
| 5 | 津波設置情報 | 配信有無 | 配信無し | |
| 6 | <i>洋波</i> 改造 | 予報区 | なし | |
| 7 | 海沙岛和野宁 | 間欠通報間隔 | 300 秒 | |
| 8 | 津波通報設定 | 連続通報時間 | 600 秒 | |
| 9 | | 地震通報閾値 | 震度 3 | |
| 10 | CUIA | 津波通報閾値 | すべて | |
| 11 | CH1 (音声制御と接点出 | T11 (アンプ ON 制御) | 1000ms (1秒) | |
| 12 | 力) | T12 (アンプ OFF 制御) | 400ms (0.4 秒) | |
| 13 | · | N (地震到達後の音声アナ ウンスを N 回繰り返す) | 3 回 | |
| 14 | | 地震通報閾値 | 震度 3 | |
| 15 | CH2 | 津波通報閾値 | すべて | |
| 16 | (接点出力) | T20 (R1 パルス幅) | 300ms (0.3 秒) | |
| 17 | | T21 (R2 状態保持時間) | 1000ms (1秒) | |
| 18 | | 地震通報閾値 | 震度 3 | |
| 19 | СНЗ | 津波通報閾値 | すべて | |
| 20 | (接点出力) | T30 (R1 パルス幅) | 300ms (0.3 秒) | |
| 21 | | T31 (R2 状態保持時間) | 1000ms (1秒) | |
| 22 | 緊急地震速報精度 | 震央の確からしさ | テリトリー法 2 点観測 | |
| 23 | 米心心辰还拟相反 | 震源深さの確からしさ | テリトリー法 2 点観測 | |
| 24 | | 設定形態 | DHCP 経由で設定 | |
| 25 | | DHCP オプション | 指定なし | |
| 26 | eth0 | IP アドレス | なし | |
| 27 | インターフェース | ネットマスク | なし | |
| 28 | | デフォルトゲートウェイ | なし | |
| 29 | | DNS サーバー(1) | なし | |

| 30 | | DNS サーバー(2) | なし | |
|----|------------|-------------------------------|---------------------|--|
| 31 | eth1 | 設定形態 | 手動設定 | |
| 32 | | IP アドレス | 192.168.252.252 | |
| 33 | | ネットマスク | 255.255.255.0 | |
| 34 | インターフェース | デフォルトゲートウェイ | なし | |
| 35 | | DNS サーバー(1) | なし | |
| 36 | | DNS サーバー(2) | なし | |
| 37 | 定時チャイム | 設定時間 | なし | |
| 38 | 通報禁止 | 設定時間帯 | なし | |
| 39 | 警報設備設定 I/F | 設定機器 | なし | |
| 40 | 内蔵スピーカー | 内蔵しているスピーカーの 音量 | 30% | |
| 41 | 外部スピーカー | LINE OUT コネクターから 外部に出力する音量 | 50% | |
| 42 | | 訓練・テスト (試験) 通報受信 | する ("しない"は設定 不可) | |
| 43 | | 気象庁訓練報受信 | しない | |
| 44 | 訓練・テスト(試 | 警報設備設定 I/F(SNMP) 制御 | する | |
| 45 | 験)・気象庁訓練報 | リレーCH2 制御 | する | |
| 46 | | リレーCH3 制御 | する | |
| 47 | | テスト通報時の冒頭アナウ ンス | しない | |

7-3 ネットワーク確認シート

本装置を設置する場所のネットワーク情報を、以下のネットワーク確認シートに従って、事前に収集しておく必要があります。

| No. | 確認項目 | 確認内容と注意事項 | | | |
|-----|----------------------|---|--|--|--|
| 1 | DHCP サーバー | 本装置を設置するネットワーク上に DHCP サーバーが動作しており、そのサーバーが IP アドレスを自動付与する設定になっているか確認します。本装置の出荷時の設定値は、「DHCP サーバーを利用する」です。 DHCP サーバーが動作していない場合は、Web 画面から固定 IP アドレスを設定する必要があります。 | | | |
| 2 | Proxy (プロキシ) サーバー | プロキシサーバーを利用していないことを確認します。利用している場合は。以下のデータを管理者に確認します。また、本装置はベーシック認証方式をサポートしますが、プロキシサーバーによっては、同じベーシック認証方式でも接続できない場合があります。プロキシサーバーを利用する場合は、実際のネットワーク環境で接続試験を行い、利用しても問題ないか確認する必要があります。 No. | | | |
| 3 | ファイヤーウォール | 本機が配信サーバーと接続できない場合は本機の設定の他、本機を接続するネットワークのセキュリティー設定も確認して下さい。本機が使用する通信用ポートは次の通りです。 TCP-80、TCP-443 ※本機を設置するネットワーク(LAN)から、インターネット(WAN)へ通信できるようにポートの設定をして下さい。 | | | |

アドレス変換に使用する推奨機器や接続方法の詳細については、お問い合せ下さい。

7-4 用語

取扱説明書の理解に必要な用語を下記に説明します。

(1) 地震識別番号 (地震 ID)

緊急地震速報時に地震ごとに割り当てられる番号です。この番号によって、複数の地震が発生した場合に個々の地震情報を識別することができます。

(2) キャンセル報

誤って発信された緊急地震速報を取り消すために、気象庁が発信する通知です。地震に起因しない強い振動が地震計に入力された場合や、地震計などの機器が故障した場合、緊急地震 速報が誤って発信されてしまうことがあります。

(3) 震源

地下における地震が発生した起点となる位置を震源といいます。震源は震央の緯度、経度と 地表からの深さによって特定されます。

(4) 震央

震源の真上の地図上の位置。緯度・経度で示されます。

(5) 確からしさ

同じ量を複数回計って、結果として出てきた値にばらつきが少なければ、その計量は「確からしい」といいます。

(6) 複数点観測

震源深さの確からしさ、および震央の確からしさが 2 点観測より大きければ、「複数点観測が 行われた」といいます。

(7) 緊急地震速報精度

震源深さの確からしさ、および震央の確からしさを示します。本装置の工場出荷時には、2点 観測以上の緊急地震速報のデータを予測演算に採用するように設定されています。

(8) 計測震度

緊急地震速報のデータを気象庁が認可する方式で演算した、地震の強さを表す指標です。

(9) 震度階級 (震度)

(10)地域コード

気象庁が管理している地域を識別するための3桁の数値コードです。気象庁は、発生した地震が地震警報に該当するかどうかを判断し、該当する場合に、地域コードを緊急地震速報の電文に組み入れて本装置に送信します。本装置は、この地域コードを参照して、警報の対象となる地域を特定し、また、緊急地震速報が警報か予報かを判断します。

(11) CH1、CH2、CH3

本装置の3系統の接点出力を表します。CH(Channel)1は、放送設備のアンプ専用です。 CH2とCH3は、それ以外の接点出力を表します。

(12) R1

接点出力のパルスとして利用するリレー出力端子を R (Relay) 1 として表します。

(13) R2

接点出力の状態保持として利用するリレー出力端子を R (Relay) 2 として表します。

(14)通報

本装置が、音声やリレーにより、通報震度以上の地震の到達を外部に知らせることを表します。

(15)通報震度

本装置が通報する震度のしきい値です。本装置は、このしきい値以上の震度を予測したときに通報します。

(16) 予測震度

本装置が緊急地震速報のデータから演算した震度です。

(17) 最終報

本装置には、1 つの地震 ID で複数回の緊急地震速報が送られてきます。その地震 ID で送られてきた、最後の緊急地震速報のことを最終報といいます。

(18)ネットワーク監視表示灯

株式会社パトライトのネットワーク監視表示灯のように、ネットワークを経由して SNMP を介して通報を受け取ることができる表示灯です。

(19) SNMP

ネットワークシステムを監視および管理するためのプロトコルである、Simple Network Management Protocol の略称です。

(20) NTP

ネットワークに接続される機器が持つ時計を正しい時刻へ同期するためのプロトコルである Network Time Protocol の略称です。

7-5 月次報告書の見方

[地震月次報告書サンプル]

| No | 発生日時 | 緯度 | 経度 | 銀海深さ | 震導のマゲニチュー ド | 気象庁発表時刻 | 通報時刻 | P波到達時間 | S波到達時間 | 予想震 予想質 度 間 |
|----|---------------------|------|-------|------|----------------|----------------|----------------|-----------|-----------|----------------|
| 1 | 2020-10-03 08:37:50 | 43.9 | 145.6 | 20 | 3.7 | 10-03 08:38:37 | 10-03 08:38:38 | 138.27580 | 244.83750 | 0 |
| 2 | 2020-10-03 08:37:50 | 43.9 | 145.6 | 20 | 3.8 | 10-03 08:38:57 | 10-03 08:38:57 | 138.27580 | 244.83750 | 0 |
| 3 | 2020-10-03 08:37:50 | 43.9 | 145.6 | 20 | 3.8 | 10-03 08:38:57 | 10-03 08:38:59 | 138.27580 | 244.83750 | 0 |
| 4 | 2020-10-03 18:31:30 | 33.4 | 141.0 | 40 | 5.3 | 10-03 18:31:49 | 10-03 18:31:50 | 40.01047 | 69.72953 | 1 |
| 5 | 2020-10-03 18:31:30 | 33.4 | 141.0 | 50 | 5.2 | 10-03 18:31:51 | 10-03 18:31:52 | 39.75542 | 69.40719 | 1 |
| 6 | 2020-10-03 18:31:32 | 33.5 | 141.1 | 40 | 5.2 | 10-03 18:31:53 | 10-03 18:31:54 | 39.34537 | 68.55705 | 1 |
| 7 | 2020-10-03 18:31:32 | 33.5 | 141.1 | 50 | 5.7 | 10-03 18:32:00 | 10-03 18:32:01 | 39.09406 | 68.23896 | 2 |
| 8 | 2020-10-03 18:31:32 | 33.6 | 141.0 | 50 | 6.0 | 10-03 18:32:11 | 10-03 18:32:12 | 37.27434 | 65.02423 | 2 |
| 9 | 2020-10-03 18:31:32 | 33.6 | 141.0 | 50 | 6.0 | 10-03 18:32:15 | 10-03 18:32:17 | 37.27434 | 65.02423 | 2 |
| 10 | 2020-10-03 18:31:31 | 33.5 | 141.1 | 70 | 6.0 | 10-03 18:32:26 | 10-03 18:32:27 | 39.00813 | 68.36472 | 2 |
| 11 | 2020-10-03 18:31:31 | 33.5 | 141.1 | 70 | 6.1 | 10-03 18:32:46 | 10-03 18:32:47 | 39.00813 | 68.36472 | 2 |
| 12 | 2020-10-03 18:31:31 | 33.5 | 141.1 | 70 | 6.1 | 10-03 18:32:50 | 10-03 18:32:51 | 39.00813 | 68.36472 | 2 |
| 13 | 2020-10-03 21:26:16 | 29.2 | 130.9 | 10 | 5.8 | 10-03 21:26:40 | 10-03 21:26:41 | | | |
| 14 | 2020-10-03 21:26:19 | 29.3 | 130.8 | 10 | 5.6 | 10-03 21:26:41 | 10-03 21:26:43 | 142.89290 | 252.93180 | 0 |
| 15 | 2020-10-03 21:26:23 | 29.6 | 130.9 | 10 | 5.4 | 10-03 21:26:44 | 10-03 21:26:45 | 139.23710 | 246.31630 | 0 |
| 16 | 2020-10-03 21:26:21 | 29.5 | 130.8 | 10 | 5.5 | 10-03 21:26:45 | 10-03 21:26:47 | 141.04530 | 249.58820 | 0 |
| 17 | 2020-10-03 21:26:21 | 29.5 | 130.8 | 10 | 5.6 | 10-03 21:26:45 | 10-03 21:26:48 | 141.04530 | 249.58820 | 0 |
| 18 | 2020-10-03 21:26:21 | 29.5 | 130.8 | 10 | 5.6 | 10-03 21:26:46 | 10-03 21:26:51 | 141.04530 | 249.58820 | 0 |
| 19 | 2020-10-03 21:26:22 | 29.5 | 130.8 | 20 | 5.3 | 10-03 21:26:48 | 10-03 21:26:53 | 140.02450 | 248.00040 | 0 |
| 20 | 2020-10-03 21:26:27 | 29.8 | 130.7 | 30 | 5.0 | 10-03 21:26:52 | 10-03 21:26:55 | 137.39770 | 243.49180 | 0 |

※画面は開発中のものです。実際の画面とレイアウトが異なる場合があります。

地震月次報告書の各項目の説明は次の通りです。

■ No

行番号です。1か月あたり、およそ100件以上の緊急地震速報を受信します。

□ 発生日時

気象庁が特定した「地震が発生した日時 (年月日時分秒)」です。

□ 緯度

気象庁が特定した「地震が発生した地点 (震源地) の緯度 (小数点1位まで)」です。

□ 経度

気象庁が特定した「地震が発生した地点 (震源地) の経度 (小数点1位まで)」です。

□ 震源深さ

気象庁が特定した「地震の震源の深さ (Km)」です。

□ 震源のマグニチュード

気象庁が特定した「地震が発するエネルギーの大きさ (小数点1位まで)」です。

□ 気象庁発表時刻

気象庁が発表した「緊急地震速報の日時 (月日時分秒)」です。

□ 通報時刻

本装置が気象庁からの緊急地震速報を受信し、警報/予報の「通知を行った日時 (月日時分秒)」です。

□ P波到達時間

本装置が設置された地点への「P波が到達するまでの秒数 (小数点 2 位まで)」です。

□ S 波到達時間

本装置が設置された地点への「S波が到達するまでの秒数 (小数点 2 位まで)」です。

□ 予想震度

本装置が設置された地点に到達する S 波の「予測される震度階級 (揺れの大きさ)」です。震度階級には 0、1、2、3、4、5 弱、5 強、6 弱、6 強、7 の 10 段階があります。

□ 予想猶予時間

本装置が気象庁からの緊急地震速報を最初に受信してから、演算処理の結果、本装置が設置された地点へ、S波が到達するまでの予測秒数です。

□特記

本装置の動作結果が表記されます。表記とその意味を以下に示します。

| | _ | | | | | | | | |
|---------|-----|---|-------------------|--------------|-------------|--|--|--|--|
| 表記 | | | 意味 | | | | | | |
| 予報通報 | 本對 | 支置が予報を受信し、予報通知を行った | こことを表します | す。 | | | | | |
| 警報通報 | 本書 | 本装置が警報を受信し、警報通知を行ったことを表します。 | | | | | | | |
| 通報禁止時間帯 | 通幸 | 通報 (通知) 禁止時間帯に緊急地震速報を受信したことを表します。 | | | | | | | |
| キャンセル通報 | 本装 | 本装置がキャンセル通報を行ったことを表します。 | | | | | | | |
| CH2 制御 | 本装 | 本装置が CH2 (リレー出力端子 R1、R2) の制御を行ったことを表します。 | | | | | | | |
| CH3 制御 | 本装 | 本装置が CH3 (リレー出力端子 R1、R2) の制御を行ったことを表します。 | | | | | | | |
| 設定精度未満 | 気疹 | 象庁から受信した緊急地震速報の精度が | が、本装置に設定 | されてい | いる精度より低かったこ | | | | |
| | とす | を表します。 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 本輩 | 表置では、使用する緊急地震速報の精度 | 度を以下の 4 種 | 類の算と | 出方法から選択すること | | | | |
| | がっ | できます。この算出方法は震源地を特定 | ごするための方式 | であり、 | 観測点の数が多くなる | | | | |
| | ほと | ビ緊急地震速報の精度が高くなります。 | | | | | | | |
| |] . | | | | | | | | |
| | | 算出方法 | 観測点の数 | 精度 | 備考 | | | | |
| | 1 1 | | E)0//(3//((-> 2// | 117/2 | - m | | | | |
| | 1 1 | 1. テリトリー法 (1点) | 1 | 低い | בי מוו | | | | |
| | | 1. テリトリー法 (1点) 2. テリトリー法 (2点) | | | 工場出荷時設定 | | | | |
| | | | 1 | | | | | | |
| | | 2. テリトリー法 (2点) 3. グリッドサーチ法 (3/4点) | 1 2 | 低い | | | | | |
| | | 2. テリトリー法 (2点) | 1 2 3~4 | 低い ↑ ↓ | | | | | |
| | | 2. テリトリー法 (2点) 3. グリッドサーチ法 (3/4点) | 1 2 3~4 | 低い ↑ ↓ | | | | | |
| | く算 | テリトリー法 (2点) グリッドサーチ法 (3/4点) グリッドサーチ法 (5点) | 1 2 3~4 | 低い ↑ ↓ | | | | | |

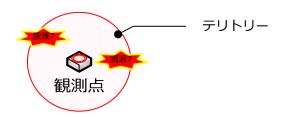
テリトリー法はこの震源を特定するための方法の1つです。各観測点には領域 (テリトリ

ー)が割り当てられている事からテリトリー法と名付けられています。

・テリトリー法(1点)

地震を観測した観測点に割り当てられた領域(テリトリー)内に、地震が発生した震源があると判断する方式です。

地震計を中心とした領域内の全方位に震源があると判断するため、正確な震源の特定が難しくなります。



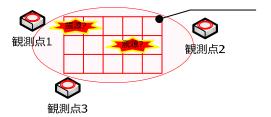
・テリトリー法(2点)

観測点に割り当てられた領域(テリトリー)内に震源があるという考え方はかわりませんが、2つの観測点に割り当てられた領域を使用するため、震源はこの2つの領域が重なり合った領域内にあると判断する方式です。領域が限定されるため、実用上問題のない範囲で震源が特定されます。



○グリッドサーチ法(3/4点、5点)とは

3箇所以上の観測点から地震の情報が取得できる場合、それぞれの観測点で観測した情報を元に震源が存在すると考えられる範囲を限定します。さらにその範囲内を格子状(グリッド)に区切り、震源を特定することからグリッドサーチ法と名付けられています。



グリッド。 升目1つ1つを震源と仮定し、 震源を算出していく。

格子状の枡目1つ1つを震源と仮定し、計算により求められた結果(到達時間や震度階級等)と、実際に観測点で観測した結果を比較し、最も差が小さい枡目を震源と判断する方式です。

震源計算に使用できる観測点の数がテリトリー法に比べ多いため、正確な震源の特定をすることができます。

しかし、多くの観測点が地震を観測するには時間が掛かるため、この方法を使用した場合、 緊急地震速報の通知が間に合わない可能性が、非常に高くなります。

[津波月次報告書サンプル]



※画面は開発中のものです。実際の画面とレイアウトが異なる場合があります。

津波月次報告書の各項目の説明は次の通りです。

□ 気象庁発表日時

津波警報・注意報または津波予報を気象庁が発表した日時(年月日時分)です。

□ 警報の種類

気象庁が発表した電文の種類コードを示します。コードの意味は次の通りです。

| コード | 種類 | コード | 種類 | コード | 種類 |
|-----|-----------|-----|--------------|-----|---------------------|
| 50 | 警報解除 | 51 | 津波警報 | 52 | 大津波警報 |
| 53 | 大津波警報(発表) | 60 | 注意報解除 | 62 | 津波注意報 |
| 71 | 津波予報 | 72 | 津波予報(注意報解除後) | 73 | 津波予報(大津波警報、津波警報解除後) |

□ 第1波の到達予想時刻

気象庁が特定した津波第1波の到達予想時間(年月日時分)を示します。

□ 津波の高さ(m)

気象庁が特定した津波の高さ(メートル単位)を示します。

□ 失効日時

津波予報が失効する日時(年月日時分)を示します。

□ 特記

本装置の動作結果を表記します。氷期とその意味を以下に示します。

| 表記 | 意味 |
|----------|--|
| 津波予報通報 | 本装置が津波予報を受信し、津波予報通知を行ったことを表します。 |
| 津波注意報通報 | 本装置が津波注意報を受信し、津波注意報通知を行ったことを表します。 |
| 津波警報 | 本装置が津波警報を受信し、津波警報通知を行ったことを表します。 |
| 大津波警報 | 本装置が大津波警報を受信し、大津波警報通知を行ったことを表します。 |
| 通報禁止止時間帯 | 通報禁止時間帯に津波警報・注意報または津波予報を受信したことを表します。 |
| CH2 制御 | 本装置が CH2 (リレー出力端子 R1、R2) の制御を行ったことを表します。 |
| CH3 制御 | 本装置が CH3 (リレー出力端子 R1、R2) の制御を行ったことを表します。 |

<ご注意>

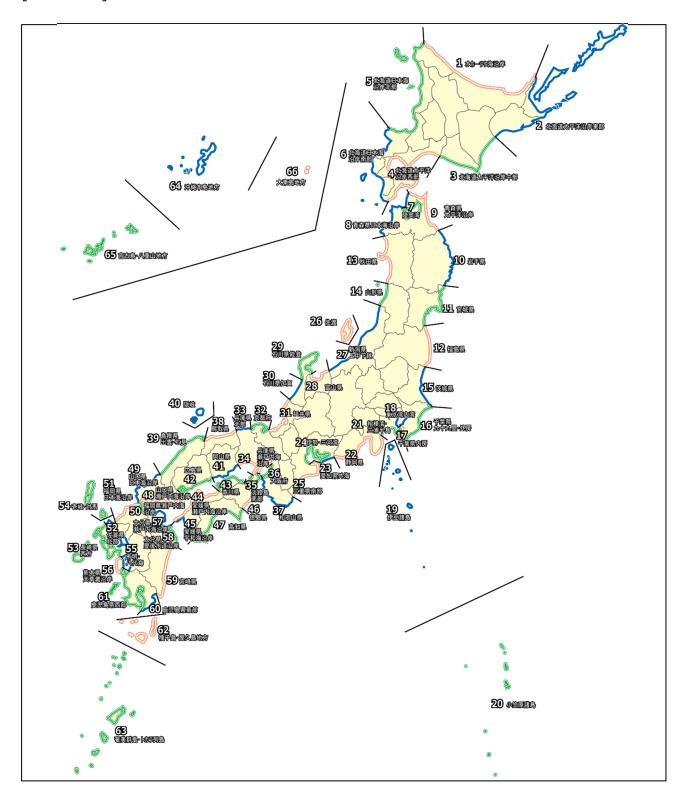
停電などにより本装置が停止している間は、ログ情報は記録されません。また、回線切断が発生している間に気象庁より発信された緊急地震速報も記録されません。この為、月次報告書には記載されませんのでご注意下さい。

7-6 津波予報区

気象庁では津波の影響を受ける地域を予報区として区分けしています。

本装置では通知対象となる予報区を1ヶ所選択することができます。予報区の変更は本装置からはできないため、予報区を変更したい場合はお買い求め頂いた販売店へご連絡下さい。

[予報区地図]



津波情報配信サービスの利用を申し込む際や既に登録されている津波予報区を変更する場合は、 前ページの予報区地図から希望する予報区を選択した後、下表から該当する地図番号で示される 「予報区のコード」と「予報区の名称」を申込用紙に記入の上、販売店にご提出下さい。

[予報区コード表]

| 地図 | | 予報区 | 予 | 報区結合表現 | 領域 | | 隣接 |
|----|-----|------------|-------------|----------|-----|-----------|---------------------|
| 番号 | コード | 名称 | コード | 名称 | コード | 名称 | 予報区 |
| 1 | 120 | オホーツク海沿岸 | | | 193 | オホーツク海沿岸 | 100, 110 |
| 2 | 100 | 北海道太平洋沿岸東部 | | | 191 | 北海道太平洋沿岸 | 101, 120 |
| 3 | 101 | 北海道太平洋沿岸中部 | | | 191 | 北海道太平洋沿岸 | 100, 102 |
| 4 | 102 | 北海道太平洋沿岸西部 | | | 191 | 北海道太平洋沿岸 | 101, 111 |
| 5 | 110 | 北海道日本海沿岸北部 | | | 192 | 北海道日本海沿岸 | 111, 120 |
| 6 | 111 | 北海道日本海沿岸南部 | | | 192 | 北海道日本海沿岸 | 102, 110 |
| 7 | 202 | 陸奥湾 | 281 | 青森県 | 292 | 東北地方日本海沿岸 | 200 |
| 8 | 200 | 青森県日本海沿岸 | 281 | 青森県 | 292 | 東北地方日本海沿岸 | 201, 202, 230 |
| 9 | 201 | 青森県太平洋沿岸 | 281 | 青森県 | 291 | 東北地方太平洋沿岸 | 200, 210 |
| 10 | 210 | 岩手県 | | | 291 | 東北地方太平洋沿岸 | 201, 220 |
| 11 | 220 | 宮城県 | | | 291 | 東北地方太平洋沿岸 | 210, 250 |
| 12 | 250 | 福島県 | | | 291 | 東北地方太平洋沿岸 | 220, 300 |
| 13 | 230 | 秋田県 | | | 292 | 東北地方日本海沿岸 | 200, 240 |
| 14 | 240 | 山形県 | | | 292 | 東北地方日本海沿岸 | 230, 340 |
| 15 | 300 | 茨城県 | | | 491 | 関東 | 250, 310 |
| 16 | 310 | 千葉県九十九里・外房 | 481 | 千葉県 | 491 | 関東 | 300, 311 |
| 17 | 311 | 千葉県内房 | 481 | 千葉県 | 491 | 関東 | 310, 312, 330 |
| 18 | 312 | 東京湾内湾 | 481, 482 | 千葉県,神奈川県 | 491 | 関東 | 311, 330 |
| 19 | 320 | 伊豆諸島 | 482 | 神奈川県 | 492 | 伊豆・小笠原諸島 | |
| 20 | 321 | 小笠原諸島 | | | 492 | 伊豆・小笠原諸島 | |
| 21 | 330 | 相模湾・三浦半島 | | | 491 | 関東 | 312, 380 |
| 22 | 380 | 静岡県 | | | 494 | 東海地方 | 330, |

| _ | | | | | T | | , |
|-----|-----|-------------|------|---------|-----|-----------|-------------|
| | | | | | | | 390 |
| | | | | | | | 380, |
| 23 | 390 | 愛知県外海 | 485 | 愛知県 | 494 | 東海地方 | 391, |
| | | | | | | | 400 |
| 24 | 391 | 伊勢・三河湾 | 485, | 愛知県,三重県 | 494 | 東海地方 | 390, |
| | | | 486 | , | | | 400 |
| 25 | 400 | 一手坦克如 | 486 | 三重県 | 404 | 声海地士 | 390, |
| 25 | 400 | 三重県南部 | | 二里乐 | 494 | 東海地方 | 391, 530 |
| 26 | 341 | 佐渡 | 483 | 新潟県 | 493 | 北陸地方 | 330 |
| | | | | | | | 240, |
| 27 | 340 | 新潟県上中下越 | 483 | 新潟県 | 493 | 北陸地方 | 350 |
| | | | | | | | 340, |
| 28 | 350 | 富山県 | | | 493 | 北陸地方 | 360 |
| | | | | | | | 350, |
| 29 | 360 | 石川県能登 | 484 | 石川県 | 493 | 北陸地方 | |
| | | | | | | | 361 |
| 30 | 361 | 石川県加賀 | 484 | 石川県 | 493 | 北陸地方 | 360, |
| 50 | 301 | | 484 | 14川朱 | 493 | | 370 |
| 31 | 370 | 福井県 | | | 493 | 北陸地方 | 361, |
| | | | | | | | 500 |
| | | | | | | | 370, |
| 32 | 500 | 京都府 | | | 692 | 近畿中国日本海沿岸 | |
| | | | | | | | 520 |
| 33 | 520 | 兵庫県北部 | 681 | 兵庫県 | 692 | 近畿中国日本海沿岸 | 500, |
| | | | | | | | 540 |
| | 521 | L 兵庫県瀬戸内海沿岸 | | 兵庫県 | 693 | 瀬戸内海沿岸 | 510, |
| 34 | | | 681 | | | | 522, |
| | | | | | | | 560 |
| | | | | | | | 510, |
| | 522 | 淡路島南部 | | 兵庫県 | 691 | 近畿四国太平洋沿岸 | |
| 35 | | | 681 | | | | 521, |
| | | | | | | | 530, |
| | | | | | | | 580 |
| | 510 | 大阪府 | | | 693 | 瀬戸内海沿岸 | 521, |
| 36 | | | | | | | 522, |
| | | | | | | | 530 |
| | 530 | 和歌山県 | | | 691 | 近畿四国太平洋沿岸 | |
| 37 | | | | | | | 400, |
| | | | | | | | 510, |
| | | | | | | | 522 |
| 38 | 540 | 鳥取県 | | | 692 | 近畿中国日本海沿岸 | 520, |
| | | | | | | | 550 |
| 39 | 550 | 島根県出雲・石見 | 682 | 島根県 | 692 | 近畿中国日本海沿岸 | 540, |
| | | | | | | | 700 |
| 4.0 | FF: | 7555 dr+ | 602 | | 600 | に終わ回口ナケハギ | 700 |
| 40 | 551 | 隠岐 | 682 | 島根県 | 692 | 近畿中国日本海沿岸 | |

| 41 | 560 | 岡山県 | | | 693 | 瀬戸内海沿岸 | 521, |
|----|-------|-------------|--------|-----------|--------|---|-------------|
| | | | | | | 570 | |
| 42 | 570 | 広島県 | | | 693 | 瀬戸内海沿岸 | 560, 701 |
| | | | | | | | 580, |
| 43 | 590 | 香川県 | | | 693 | 瀬戸内海沿岸 | 601 |
| | 504 | | 500 | W 15010 | 500 | \ \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\ | 590, |
| 44 | 601 | 愛媛県瀬戸内海沿岸 | 683 | 愛媛県 | 693 | 瀬戸内海沿岸 | 600 |
| 45 | 600 | 愛媛県宇和海沿岸 | 683 | 愛媛県 | 691 | 近畿四国太平洋沿岸 | 601, |
| 13 | 000 | 交 | 003 | 交級未 | 031 | 是 | 610 |
| | | | | | | | 522, |
| 46 | 580 | 徳島県 | | | 691 | 近畿四国太平洋沿岸 | 590, |
| | | | | | | | 610 |
| 47 | 610 | څري او | | | 601 | | 580, |
| 47 | 610 | 高知県 | | | 691 | 近畿四国太平洋沿岸 | 600 |
| 48 | 701 | 山口県瀬戸内海沿岸 | 701 | 山口県 | 693 | 瀬戸内海沿岸 | 570, |
| 48 | /01 | | 781 | | | | 700 |
| 40 | 700 | 山口県日本海沿岸 | 781 | 山口県 | 692 | 近畿中国日本海沿岸 | 550, |
| 49 | | | | | | | 701 |
| F0 | 710 | 福岡県瀬戸内海沿岸 | 782 | 福岡県 | 791 | 九州地方東部 | 711, |
| 50 | 710 | | | | | | 750 |
| 51 | 711 | 福岡県日本海沿岸 | 782 | 福岡県 | 792 | 九州地方西部 | 710, |
| | | | | | | | 720 |
| 52 | 720 | 佐賀県北部 | 783 | 佐賀県 | 792 | 九州地方西部 | 711, |
| | , = 0 | | | | 732 | | 730 |
| | 730 | 長崎県西方 | | 長崎県 | 792 | 九州地方西部 | 712, |
| 53 | | | 784 | | | | 720, |
| | | | | | | | 740 |
| 54 | 731 | 壱岐・対馬 | 784 | 長崎県 | 792 | 九州地方西部 | |
| | 712 | 712 有明・八代海 | 782, | 福岡県,佐賀県,長 | 702 | 九州地方西郊 | 730, |
| | | | 783, | | | | |
| 55 | /12 | | 崎県,熊本県 | 792 | 九州地方西部 | 740, | |
| | | | 785 | | | | 773 |
| | 740 | 熊本県天草灘沿岸 | 785 | 熊本県 | 792 | 九州地方西部 | 712, |
| 56 | | | | | | | 730, |
| | | | | | | | 773 |
| | 750 | 大分県瀬戸内海沿岸 | | 大分県 | 791 | 九州地方東部 | 710, |
| 57 | | | 786 | | | | 751 |
| | | 大分県豊後水道沿岸 | =0- | 大分県 | 791 | 九州地方東部 | 750, |
| 58 | 751 | | 786 | | | | 760 |
| | | | | | | | L |

| 59 | 760 | 宮崎県 | | | 791 | 九州地方東部 | 751, |
|----|-----|------------|-----|------|-----|--------|------|
| 39 | | | | | | | 770 |
| 60 | 770 | 鹿児島県東部 | 787 | 鹿児島県 | 791 | 九州地方東部 | 760, |
| 00 | 770 | | | | | | 773 |
| | 773 | 鹿児島県西部 | 787 | 鹿児島県 | 792 | 九州地方西部 | 712, |
| 61 | | | | | | | 740, |
| | | | | | | | 770 |
| 62 | 771 | 種子島・屋久島地方 | 787 | 鹿児島県 | 793 | 薩南諸島 | |
| 63 | 772 | 奄美諸島・トカラ列島 | 787 | 鹿児島県 | 793 | 薩南諸島 | |
| 64 | 800 | 沖縄本島地方 | | | 891 | 沖縄地方 | |
| 65 | 802 | 宮古島・八重山地方 | | | 891 | 沖縄地方 | |
| 66 | 801 | 大東島地方 | | | 891 | 沖縄地方 | |

お問い合わせ先:

緊急地震速報のリーディングカンパニー

株式会社 **J コーポレーション** 総合窓口 TEL 0742-53-7833

〒631-0011 奈良県奈良市押熊町 557-7-4F https://www.jcorp.co.jp fax 0742-53-7795



配信事業者:

ストラテジー株式会社(緊急地震速報 地震動の予報業務の許可事業者 許可第 198-2 号)